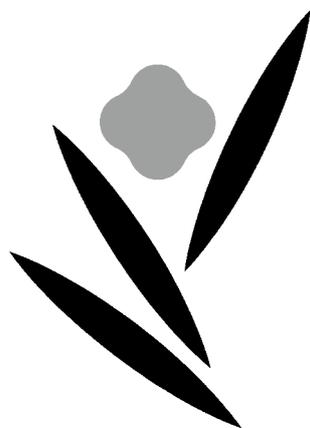


授 業 計 画

平 成 29 年 度



福島学院大学 短期大学部

保 育 学 科

保育科第一部

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、到達目標、各回の授業内容・授業方法、到達度の評価などが記載されています。

また、それぞれの授業時間以外の必要な学修についても明記されていますので、予習・復習を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが授業を学ぶための基本的な資料になります。熟読してそれぞれの履修計画を立ててください。

1. 保育学科の教育目標

保育学科においては、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することを教育目標としています。

2. 保育学科の学習成果

保育学科では前述の通り、「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材育成」を目指しており、皆さんには、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することを奨励しています。

免許状・資格取得そのものを卒業要件とはしていませんが、学習成果はこれに沿って以下のように設定しています。

- (1) 幼稚園、保育所、認定こども園にかかわらず、地域社会や家庭など様々な保育ニーズに対応し、実践者として活躍できる保育者となる理論と実践を身につけている
- (2) 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得している

3. 保育学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

次の要件を全て満たす保育学科の学生について、学長は教授会の意見を聞いて卒業を認定し、「短期大学士」の学位を授与します。

- (1) 学則に定める年数以上在学した者
- (2) 所定の授業科目について、次の単位数を修得した者
教養教育科目／17単位以上
専門教育科目／46単位以上
- (3) 成績評定平均点（GPA）70点以上の者
- (4) 保育学科の教育目的と人材の育成の目的に適い、かつ短期大学士の学位を授与するに相応しい人格識見と健全な精神を有していると学科会議で判定された者
- (5) 所定の学費を納入した者

4. 保育学科学生の努力目標

- (1) 保育学科では、「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」が取得できます。
平成27年度施行の「子ども・子育て支援制度」では、幼保連携型「認定こども園」で従事する保育教諭に対して、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方が求められています。従って、卒業時に両方を取得できるようにしましょう。
- (2) 保育者として望まれる諸資質、すなわち明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性などを身につけるようにしましょう。
- (3) 教育・保育実習は保育者になるための大切な体験です。実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を身につけましょう。
- (4) 教育・保育に関するイベント、研修会などのボランティア活動へ積極的に参加し、子ども理解とコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、地域社会にも貢献するようにしましょう。

5. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために、次の点が求められます。よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の建学の精神「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりではなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でも、ゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探求心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。卒業後は、本学福祉学部福祉心理学科への進学も検討しましょう。

注：「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士・幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

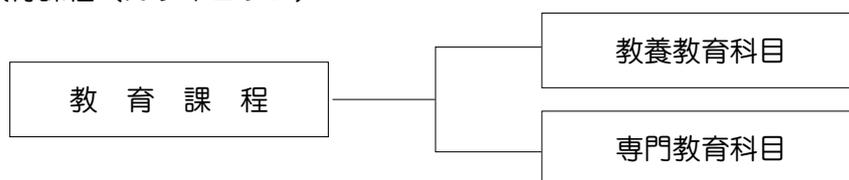
保育学科の授業は、これらの目標などを実現するために、特色のあるさまざまな科目が開講されています。

6. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

保育学科で開設されている授業科目は、「教育課程表」（別表）の通りです。教育課程は、教養教育科目と専門教育科目に大別されています。

教育課程（カリキュラム）



(2) 教養教育科目の教育課程編成方針

教養教育科目は、「真心こそすべてのすべて」という創立者の信念を建学の精神として、さらに、教育理念に基づいた「真心」と「思いやり」を持った人間性を涵養するため、大学教育の基礎となる科目を設定しています。

教養教育科目は、次の6つの科目分野に分かれています。

教育方針

「本学の教育」は、本学学生として、建学の精神、教育理念、および特色ある教育について理解し、実践することを共に考える科目です。そして、建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、社会的貢献について考えることができる人材育成を目標としています。

表現力向上分野

教養ある社会人として、最低限身につけておかなければならない基礎知識は数多くありますが、本学では、明快適切な自己表現によって、より良い人間関係を作り上げていくことを教養教育の基本としています。特に正しい文字言語と音声言語の修得を基本とした、豊かな国語力は必要なものとして重視しています。

本来、国語力を身につけるには、“より多く読み、より多く聴き、より多く書き、より多く話す”ことが最良の方法であると言われていますが、これには多くの時間が必要です。しかし、漢字・成語などの読み書き、意味の理解の基本的なものに限定すれば、比較的短期に修得が可能と思われれます。話す・書くについても、生活のさまざまな具体的な場面に即した実践的方法を身につけることによって、表現力の向上を図ることができます。

本学では、文章並びに会話による表現力の修得を目的とした「国語表現」（4単位）を必修として開設するとともに、国語力向上を目指し、統一テストを実施して国語力を集中的に身につけることに力を入れています。

なお、「国語表現」の担当者から、「書写演習」「会話演習」の受講を指定された学生は必修とします。その授業を必ず履修し、単位を取得してください。

*「書写演習」… 悪筆（くせ字など）で矯正が必要であると判断された学生が受講を指定されます。

*「会話演習」… 人前で話すことが苦手などで会話力を向上させるために受講を指定されます。

以上の各テストの実施日（予定）は、学科の学事・行事日程をご覧ください。正式な日時や教室は教務課から事前に掲示によって指定します。

なお、文字・成語テスト、小論文テストに合格した学生は、教務課から掲示により、その都度、学籍番号が発表されます。

情報教育分野

現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に必要な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける科目です。

保育学科では、入学時の学生の情報機器操作スキルに格差がある現況から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、次のようなレベル別授業を展開しています。

なお、履修レベルは、入学前研修会およびオリエンテーション時の課題作成など、スキル状況を確認して決定します。

「情報機器操作Ⅰ」 初級レベル	} 選択必修科目
「情報機器操作Ⅱ」 中級レベル	
「情報機器操作Ⅲ」 中級習熟レベル	

「情報機器操作Ⅳ」 メディアミックス活用上級レベル（選択科目）

※初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とします。

教養分野

現代社会において、大学生の一般的なマナーの悪さがよく取り沙汰されています。大学在学中、学外実習や就職活動の際も実習先や求人先から、マナーの欠如が指摘されます。そこで、「生活教養」の科目を設け、人間関係を円滑に図るためのマナー教育（冠婚葬祭の基礎知識を含む）を必修科目として位置づけています。

また、教養を兼ね備えた保育者になるためには、一般的な幅広い教養「音楽」「美術」「文学」などに親しみ、学びを深めることも重要です。

教養分野の科目は選択科目ですが、保育者を目指す学生にとって、興味を持って受講できるように、そして専門教育にも繋がるような授業内容としています。

「音楽演習」（2講座を開設）

さまざまなジャンルの音楽に親しみ、音楽に対する積極的な興味と理解、鑑賞力を深め、豊かな情操と磨かれた感性を養う科目。

「美術演習」（2講座を開設）

クラフトや動物をモチーフとした絵画・オブジェの制作、季節感を取り入れた作品制作を通して、自然に親しみ教育・保育者としての美的感性を磨き、創造性を育てる科目。

「文学演習」（1講座を開設）

児童文学を取り上げ、子どもの年齢や発達に合わせたお話の選び方などを学び、子どもの夢や想像力を育む教材としてのお話の魅力を修得する科目。

その他、保育施設での危機管理を学ぶ「生活と安全」、女性の身体的特性を学び、保健に関する基礎知識を修得する「女性の保健」、「日本国憲法」（幼稚園教諭免許状必修科目）では、日本国憲法の基本理念・基本構造や教育を受ける権利、児童の権利擁護なども学ぶ内容としています。

国際理解分野

国際理解分野は、国際理解教育と語学教育で構成しています。

〈国際理解教育〉

本学の「教育の理念」にも掲げている『国際的な視野に立ち、相手のことを理解し、相互理解の心を持つひとを育てます』を具現化する科目です。

「国際理解論」では、変化の激しい今日の国際社会の現状や歴史的な背景などを、映像や新聞、雑誌を利用して学びます。

「国際理解演習」では、本学で企画する海外研修旅行に参加し、各自の研究テーマに沿った事前学習や現地での体験、研修後のレポート作成を通して、諸外国の社会や異文化への理解を深める内容としています。

〈語学教育〉

国際事情や諸外国の文化を理解し、国際的な視野を形成する上で、その基礎となる英会話を修得する科目です。

国際化の時代、教育・保育施設においても、外国人の子どもたちが幼稚園、保育所などに在籍し、その保護者と関わるが多くなってきています。

そこで、「英会話」は、日常的な事柄を英語で聞き、話すことができる能力を身につけるため、英語の発音、リスニングに重点を置きます。基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での基本的なコミュニケーションができることを目的としています。

なお、入学時の学生の英語力に格差がある現況から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、「英会話Ⅰ」（ベーシックレベル）と「英会話Ⅱ」（アドバンスレベル）のレベル別授業を実施します。

体育分野

保育・教育者は、活動的な子どもたちと共に行動をする仕事です。常日頃から、体力の維持と健康管理は極めて重要です。

「体育講義」では、日常生活における心身の健康の確立について、特に運動やスポーツの持つ現代的な意味や役割、可能性を探り、学生が生涯にわたり健康なライフスタイルを創造するために必要な知識について学びます。

「体育実技Ⅰ・Ⅱ」は、学生が生涯継続してスポーツに親しむ技術と習慣を身につけ、健康・体力づくりの実践力向上を目標としています。

(3) 専門教育科目の教育課程編成方針

専門教育科目は、我が国の「子ども・子育て支援新制度」を受け、「子育て等に関する多様な変化と時代背景に対応した人材の育成」を目指します。また、本学科の教育目標である『多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材の育成』を図るための科目を設定しています。そして、教育・保育に関する専門職として、現場で実践するために必要な基礎的知識や技能を修得し、さらに、子どもの育ちに深い洞察力を持ち、一人ひとりの特性に対応した総合的な教育・保育の実践ができるような科目構成を行っています。

幼稚園教諭免許状に関する区分は、教職に関する科目（6科目群）と教科に関する科目に分けています。保育士資格に関する区分は、6科目群に分けて編成しています。さらに、免許状・資格取得以外にも「本学独自の科目」を開設しています。

理論と実践の両面から、多彩な科目を系統的に学び、幼稚園教諭や保育士などに必要な知識・技能、多面的素養を培っていきます。※詳細は次の通りです。

幼稚園教諭免許状取得にかかわる科目区分

教職に関する科目

教職の意義等に関する科目

教育の基礎理論に関する科目

教育課程及び指導法に関する科目

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目

教職実践実習 教育実習

教科に関する科目

国語、算数、音楽、図画工作、体育

保育士資格取得にかかわる科目区分

保育の本質・目的に関する科目

保育の対象の理解に関する科目

保育の内容・方法に関する科目

総合演習

保育実習

保育の表現技術

本学独自の科目 「創作ミュージカル」「特別研究」など

① 幼稚園教諭免許状取得にかかわる教育課程について

教職に関する科目

教職の意義等に関する科目

教職の意義等に関する科目として「保育者論」を設定しています。この科目は、教職・保育職の意義や役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、保育者を目指す者が、教職・保育職についての理解を深めるための科目です。そして、将来、教職・保育職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図っていきます。

教育の基礎理論に関する科目

教育の基礎理論に関する科目として「教育原理」「教育行政」「教育心理学」「発達心理学」を必修科目としています。

「教育原理」「教育行政」では、教育の理念、並びに教育に関する歴史および思想を学び、教育に関する体系的、基礎的な理論について理解します。

さらに教育行政の考え方や仕組み、並びに教育制度の変遷等を理解し、学校経営の在り方について考えを深めていきます。

「教育心理学」「発達心理学」では、子どもの発達にかかわる心理学の基礎を修得し、子どもへの理解を深めていく科目です。子どもの心身の発達と保育・教育実践について理解を深め、教育・保育における発達援助について学びます。

教育課程及び指導法に関する科目

教育課程及び指導法に関する科目として「保育・教育課程論」「保育内容総論」「保育内容指導法」「教育方法及び技術」などを必修科目としています。

「保育・教育課程論」では、保育・教育の目的達成のために編成される教育課程の意義やその必要性および法的根拠、教育課程の編成手順・方法を理解します。そして、保育・教育の具現と充実を図るための具体的な指導計画や保育・指導案を作成することができるようにします。

「保育内容総論」は、保育内容の指導法の総論と位置づけ、5領域の教科の学びとともに、それを総合的に捉える視点を養い、教育・保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や教育・保育方法について学びます。

また、「保育内容指導演法」5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）は、それぞれの領域について理解を深め、保育者として、発達過程に即して子どもを理解し、総合的に指導・援助ができる実践的な力を修得します。

「教育方法及び技術」は、教育の方法と情報機器、および教材の活用を踏まえた内容としています。

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目として、幼稚園教諭免許状必修に関わる「教育相談」は、教育相談の理論・方法とカウンセリングに関する基礎的な知識を含めた内容です。

教職実践実習

「保育・教職実践演習（幼稚園）」は、教職課程の履修を通じて、保育者として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、卒業年次の後期に開設しています。

教育実習

教育実習に関する科目として「教育実習」、保育士資格取得のための実習科目（6科目）で構成しています。「教育実習」（事前・事後指導1単位を含む）は、本学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を1週間と、幼稚園等での教育実習を3週間、合計4週間の実習を実施します。

教科に関する科目

教科に関する科目は、保育者としての基本的な知識と表現技術を修得するための科目です。音楽の楽器演奏の表現技術を身につける科目として、「ピアノ演習」と「ギター演習」はどちらかを選択して、1年次の必修科目として設定しています。

「ピアノ演習」は、入学時の演奏技術により履修レベル4段階（初心者・初級・中級・中上級）を設定し、レベル別指導を展開しています。「ギター演習」は、ギター演奏の技能を修得するとともに、保育・教育現場で生かすことができる技術を身につけていきます。※詳細は「保育学科で学ぶ専門音楽」を参照。

その他、幼稚園教諭免許状取得に関わる5教科（国語、算数、幼児音楽、図画工作、幼児体育）を開設しています。

② 保育士資格取得にかかわる教育課程について

保育の本質・目的に関する科目

保育の本質・目的に関する科目は、「保育者論」「教育原理」「保育原理」「社会的養護」「社会福祉」「相談援助」「児童家庭福祉」の7科目を保育士の必修科目として設定しています。

保育者の役割、責務、定義、および保育者に求められる今日的課題などを踏まえ、子どもの教育・保育と保護者支援を担う保育者としての専門性などを学ぶ科目としています。

保育の対象の理解に関する科目

保育の対象の理解に関する科目は10科目で構成し、その内、必修科目は6科目を設定しています。

「教育心理学」「発達心理学」は、子どもの発達に関わる心理学の基礎知識を学び、子ども理解に基づく発達援助を行う実践力を修得する内容としています。

「子どもの保健」、「子どもの保健Ⅱ」では、子どもの健康と保健の意義、子どもの疾病と適切な対応の仕方などを具体的に学んでいきます。

「子どもの食と栄養」は、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、家庭や学校、児童福祉施設における食生活の現況と課題について学びます。

「家庭支援論」では、家庭支援の意義と役割、子育て家庭の支援体制などを理解していきます。

保育の内容・方法に関する科目

保育の内容・方法に関する科目として、幼稚園教諭免許状、保育士資格取得の必修科目として「保育・教育課程論」「保育内容総論」「保育内容指導法」（健康）（人間関係）（環境）（言葉）（表現）の5領域を設定しています。

さらに、保育士資格取得の必修科目「社会的養護内容」「保育相談支援」「乳児保育」「障害児保育」も開設しています。

総合演習

総合演習に関する科目は、「保育・教職実践演習（幼稚園）」を設定。この授業は卒業年次の後期に必修科目として開設します。今まで学んだ授業科目や「教育実習」「保育実習」、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」を通しての学びを踏まえ、保育者として必要な資質能力を確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するための内容としています。

保育実習

保育実習に関する科目として、「保育実習指導」「保育実習」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」「保育実習Ⅲ」の6科目と、幼稚園教諭免許状取得の科目「教育実習」で構成しています。

「保育実習」は、「保育実習指導」の事前指導後に「保育所実習」と「児童福祉施設実習（保育所を除く）」、おおむね10日間ずつの実習を実施します。

「保育実習Ⅱ（保育所）」「保育実習Ⅲ（施設）」は、どちらかを選択し、「保育実習指導Ⅱ」もしくは「保育実習指導Ⅲ」の授業後に、おおむね10日間の実習を行います。

保育の表現技術

保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を修得するために、保育士資格取得の必修科目として、「ピアノ演習」「ギター演習」「幼児音楽」「図画工作」「幼児体育」の5科目を設定しています。

③ 本学独自の科目について

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得に関わる科目の他に、本学の特色ある専門教育科目として、実践的な知識・技術力を修得することを目的に、次の4科目を設定しています。

「創作ミュージカル」

総合芸術であるミュージカルを作り上げ、その成果を舞台上で表現(発表)します。現代社会に必要とされるコミュニケーション能力や自己表現力を高めることも目的の一つとなっています。

「バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流」

本学認定こども園の姉妹園でもあるインドネシアバリ島のハラパン幼稚園を訪問し、幼児教育の実際を現地で学びます。また、バリ島での異文化体験をすることにより、自国の文化との比較研究を行います。

「特別研究」（3講座を開設）

『子どもと園芸』

幼稚園や児童福祉施設などで役立つ野菜栽培や草花を育てるなどの園芸活動を体験的に学習します。

『園行事DVD制作演習』

映像制作の基礎知識と技術を学びます。本学認定こども園の行事を題材に、企画・撮影・編集・完成までを実際に学生自身が行い、体験を通して映像制作を理解します。

『障害児生活支援演習』

身体的に障害のある児童の日常生活を支援するための基本的な「食事・入浴・排泄」を中心とした技術を修得します。さらに、車椅子の介助、手話・点字の基本などについても、実践を通して学びます。

「特別研究Ⅱ」（1講座を開設）

『保育者の表現遊び』

保育者としての必要な歌・踊り・制作遊びなどの表現活動を体験し、学外実習でも実際に活用できる遊びを修得します。授業内容を「歌、踊り、制作（主にお絵かき）」の3分野とし、実践的に学んでいきます。

④ 保育学科で学ぶ専門音楽について

保育学科では保育現場に即した授業内容・授業形態を導入しています。

「幼児音楽」（必修科目）

- (1) 保育現場に即した様々な幼児の歌（童謡・唱歌・生活・行事の歌、あそび歌、踊りの歌、アニメソング）を学びます。
- (2) 簡単な音楽理論（音楽の三要素やキーボードハーモニー奏法を含む）、簡易楽器やハンドベル・トーンチャイムの奏法を修得します。
- (3) 保育現場における、気になる子や発達障害児に対応するための音楽療法も学びます。
- (4) 表現力を身につけるためのミニ・ミュージカルを体験します。

「幼児音楽Ⅱ」（選択科目）

幼児の歌曲を中心に、コードネームを用いた簡易伴奏法を学びながら、1年次に修得した「幼児音楽」、「ピアノ演習」を発展させ、ピアノの弾き語り、歌や踊りを中心に学びます。（幼稚園教諭免許状取得希望者は履修することが望ましい）

「ピアノ演習」（選択必修科目）

- (1) 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・唱歌・生活・行事の歌、アニメソング）・練習曲（バイエル・ツェルニーなど）を通してピアノの奏法を学びます。
- (2) 各自のピアノ演奏技術に応じて、初心者レベル、初級レベル、中級レベル、中上級レベルの4レベルに分けて授業を展開します。
- (3) 4レベルの内、1つのレベルを履修し、各レベルの課題曲の練習を行い、順次、担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受けます。

2年次では、1年次で取得した次のレベルを履修することができます。開講されるのは、初級レベル、中級レベル、中上級レベルの3レベルです。

「ギター演習」（選択必修科目）

ピアノ以外の楽器で、ギターを履修したい学生を対象に授業を実施します。（履修者7名以上で開講。練習用ギターは各自で準備）

※1. 「幼児音楽」、「ピアノ演習」または「ギター演習」の単位を取得しないと、「教育実習」を履修することはできません。

※2. 「ピアノ演習」と「ギター演習」のどちらも学びたい方は、履修することは可能です。

7. 履修と免許状・資格の取得

(1) 単位制と履修方法について

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

- ① 単位とは学習時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。
- ② 学習時間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。
- ③ 単位の計算方法は「短大設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を1時限としておりますので、各時限を2時間として単位の計算をします。

なお、本学宮代キャンパスの授業時間割は次の通りです。

授業時間割

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	8：50～ 10：20	10：30～ 12：00	12：50～ 14：20	14：30～ 16：00	16：10～ 17：40	17：50～ 19：20

④ 授業科目の種類

保育学科に開設されている科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

必修科目

卒業必修科目

保育学科を卒業するために、必ず取得しなければならない科目

免許状・資格取得のための必修科目

幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するために、必ず取得しなければならない科目

選択必修科目

卒業選択必修科目

保育学科を卒業するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目

（例：英会話Ⅰまたは英会話Ⅱ。ピアノ演習またはギター演習）

資格取得のための選択必修科目

保育士資格を取得するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目（例：保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ）

選 択 科 目

選択科目はそれぞれが自由に選択して履修することができる科目です。

ただし、履修者数を制限している科目や、卒業は選択科目であっても、資格・免許状を取得するためには必修科目となっている科目等もありますので、授業計画、教育課程表をよくご覧の上、履修するようにしてください。

- 履修者数を制限している科目
⇒ 美術演習（造形を楽しむ）、音楽演習（ポップスの世界） など
- 卒業は選択科目で資格・免許状取得には必修科目となっている科目
⇒ 教育心理学、保育・教職実践演習（幼稚園） など
- 卒業は必修科目で資格・免許状取得には選択科目となっている科目
⇒ 国際理解論、創作ミュージカル など

(2) 免許状・資格の取得について

保育学科においては、免許状・資格に関する授業科目を履修することによって、次の免許状・資格を取得することができます。取得するためのそれぞれの最低必要単位数は表の通りです。

- 幼稚園教諭二種免許状
- 保育士資格

※希望する免許状・資格取得に必要な単位数は100単位程度、計画履修生は94単位以上が適当とされます。なお、1年間に登録できる履修単位の上限は、おおむね55単位までとします。

最低必要単位数

科目名	卒業	幼稚園教諭	保育士
教養教育科目	17単位	21単位	19単位
専門教育科目	46単位	51単位	62単位
合 計	63単位	72単位	81単位

(3) 履修届について

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配付される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。

授業科目を実際に履修してみて、履修の継続が困難なことが明らかになった場合、必修科目を除き、その科目の授業開始日から2週間以内※であれば、「履修科目放棄届」により履修を放棄することができます。

この場合、必ずクラスアドバイザー等に相談してから、速やかに手続きをとってください。手続きをとらないまま欠席を続けると「欠格」になりますので注意してください。

履修についての疑問や不明の点は、担当教員または教務課にお尋ねください。

※年度によって、教務課で提出の期日を指定しています。

(4) 成績評価と単位認定について

本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとにGPA（グレード・ポイント・アベレージ：成績評定平均点）を算出する本学独自のGPA制度としています。

① 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとの点数は次の通りです。

- A+ (100～90点)
- A (89～80点)
- B (79～70点)
- C (69～60点)
- D (59～50点)
- F (50点未満)

※GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目は、「再履修願」により再履修をすることができます。

② 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件を備えた者に対して行います。

- **履修を届け出て履修確認が完了した者**
- **通常の授業については、必要な時数として定められた時数の3分の2以上を出席した者**
 - ・定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして、単位認定は行われず「欠格」となります。実習や病気などのやむを得ない場合を除き、欠席はしないようにしてください。(遅刻や早退については、30分以上を欠席とし、30分未満の場合は、3回で1回の欠席とみなされますので、欠席回数を計算するときは、これを加えることも忘れないようにしてください)
- **学外実習を伴う実習科目(海外における演習・実習科目を含む)については、事前・事後指導時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習において、定められた全ての日数および時数を出席した者**
 - ・5分の1を超える時数を欠席した場合、および当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。
また、海外研修における現地研修についても、5分の1を超える時数を欠席した場合、当該科目は「欠格」となります。
- **学習成績の評価が60点以上の者**
- **所定の学費を納入した者**

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、授業担当教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

- **授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語**
 - ・注意1回につき1点減点

※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置がとられます。
- **遅刻・早退・欠席**
 - ・遅刻・早退1回につき1点減点
 - ・欠席1回につき3点減点

※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。

また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書(書式自由)で提出してください。

 - ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合(基本実習、保育実習、教育実習等)
 - ② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
 - ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
 - ④ 就職試験(面接を含む)を受験する場合
 - ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
 - ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
 - ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

○ 欠 格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、上記、①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

○ 質疑応答

〈指名応答〉

- 指名した学生が質問に適切に回答したと認めるときは、その内容の評価に応じて1回につき1～2点が加点されます。
- 質問に不適切な回答をしたと認めるとき、または質問に答えられなかったときは、1回につき1点が減点されます。

〈自発的応答〉

- 授業担当教員の質問に対して、自ら挙手するなど学生が自発的に適切に回答したと認めるときは、その内容の評価に応じ1回につき1～3点が加点されます。
- 学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、授業担当教員の質問に対し、学生が自発的応答を1回もしなかったときは、5点が減点されます。

○ 小論文（宿題）

- 未提出の小論文1件につき2点が減点されます。
- 授業担当教員が小論文を優良と評価したときは、小論文1件につき内容の優良さに応じて1～3点が加点されます。

○ 小テスト

授業の理解度を計る小テストについて授業担当教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点が加点されます。

○ 期末試験としてのレポート提出を課す場合

- レポートは原則として試験期間開始前に提出します。
- 授業担当教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は、期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む）あたり、2点減点とします。
- 提出がない場合のレポート評価は零点です。
- 授業担当教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点されます。また、字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様です。

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー・帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行為
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机の上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

(5) 進級制限について

次のいずれかに該当する者は、2年次への進級を認めないことがあります。

1年次は比較的行事も少ないので、進級や2年次以降の学外実習に向けて、勉学に励むようにしましょう。

- ① 1年次の取得単位数20単位未満の者
- ② 1年次のGPAが65点未満の者

保育学科・保育科第一部教育課程

教養教育科目

授 業 科 目	単位数		備 考	
	必修	選択		
教育方針				
本 学 の 教 育	1			
表現力向上分野				
国 語 表 現	4			
書 写 演 習		1	指定者必修	
会 話 演 習		1	指定者必修	
情報教育分野				
情 報 機 器 操 作 I		2	初級レベル } 中級レベル } 中級習熟レベル } メディアミックス活用上級レベル	
情 報 機 器 操 作 II		2		
情 報 機 器 操 作 III		2		
情 報 機 器 操 作 IV		2		
教養分野				
生 活 教 養	4		入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベル I の履修者は、中級レベル II まで計 4 単位以上を必修とする。	
生 活 と 安 全		2		
音 楽 演 習		2		
美 術 演 習		2		
文 学 演 習		2		
食 彩 演 習		1		※平成29年度休講
日 本 国 憲 法		2		
女 性 の 保 健		2		
国際理解分野				
英 会 話 I		2	ベーシックレベル } アドバンスレベル } いずれか 2 単位必修	
英 会 話 II		2		
国 際 理 解 論	2			
国 際 理 解 演 習		2		
体育分野				
体 育 講 義	1			
体 育 実 技 I	1			
体 育 実 技 II		1		

専門教育科目

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
保 育 者 論	2		
社 会 福 祉	2		
相 談 援 助		1	
児 童 家 庭 福 祉	2		
教 育 原 理	2		
保 育 原 理	2		
社 会 的 養 護		2	
教 育 行 政		2	

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
教 育 心 理 学		1	
教 育 心 理 学	2		
発 達 心 理 学		2	
臨 床 心 理 学		2	
臨 床 心 理 学 II		2	
子 ども の 保 健	4		
子 ども の 保 健 II	1		
子 ども の 食 と 栄 養		2	
家 庭 支 援 論		2	
保 育 ・ 教 育 課 程 論		2	
保 育 内 容 総 論		1	この内より4単位必修
保 育 内 容 指 導 法		1	
(健 康)		1	
(人 間 関 係)		1	
(環 境)		1	
(言 葉)		1	
(表 現)		1	
教 育 方 法 及 び 技 術		2	
教 育 相 談		2	
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)		2	
社 会 的 養 護 内 容		1	
保 育 相 談 支 援		1	
乳 児 保 育	2		
障 害 児 保 育	2		
幼 児 音 楽 (子 ども の う た)	2		
幼 児 音 楽 (子 ども の う た) II		2	
ピ ア ノ 演 習 (初 心 者 レ ベ ル)		2	この内より2単位必修
ピ ア ノ 演 習 (初 級 レ ベ ル)		2	
ピ ア ノ 演 習 (中 級 レ ベ ル)		2	
ピ ア ノ 演 習 (中 上 級 レ ベ ル)		2	
ギ タ ー 演 習		2	
図 画 工 作	2		
幼 児 体 育	2		
国 語		2	
算 数		2	※平成29年度休講
創 作 ミ ュ ー ジ カ ル	2		
パ リ ダ ンス レ ッ ス ン と パ リ 島 幼 稚 園 交 流		2	※平成29年度休講 (予定)
特 別 研 究		2	
特 別 研 究 II		2	
教 育 実 習		5	事前・事後指導1単位を含む
保 育 実 習 指 導		2	
保 育 実 習		4	
保 育 実 習 指 導 II		1	
保 育 実 習 II		2	
保 育 実 習 指 導 III		1	
保 育 実 習 III		2	

※詳細は入学時に配付した「教育課程表」をご覧ください。

平成29年度 保育学科「授業計画」目次【1年生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
教養教育科目									
本学の教育	小松由美	1		1		1			21
国語表現	田上貞一郎 荒川守	4		4		4			23
書写演習	田上貞一郎		1		1		1	指定者必修	26
会話演習	藤間久子		1		1		1	指定者必修	28
情報機器操作Ⅰ (初級レベル)	木谷徳智	2		2		2		入学時の能力検定により、 履修レベルを決定する。 2単位以上必修とするが、 初級レベルⅠの履修者は、 中級レベルⅡまで、計4 単位以上を必修とする。	30
情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	酒井創夫 篠田伸夫								34
情報機器操作Ⅲ (中級習熟レベル)	金澤聡一								42
生活教養	渡辺雅子	4		4		4			49
生活と安全	黒津康司		2		2		2		53
音楽演習(音楽鑑賞)	ブルース・ヒューバナー		2		2		2		56
音楽演習 (ポップスの世界)	長久保和子 佐藤香		2		2		2		59
美術演習 (粘土細工を楽しむ)	古畑雅規		2		2		2		63
美術演習 (造形を楽しむ)	鈴木美樹		2		2		2		65
文学演習 (読み聞かせ)	安田いつ美		2		2		2		68
女性の保健	織田正昭		2		2		2		73
国際理解論	杉浦広幸	2			2		2		82
国際理解演習	佐藤敦子		2		2		2	時間割外 (バリ島研修旅行)	245
	中丸志如 呂一学			時間割外 (シンガポール研修旅行)		84			
体育講義	藤本要広 島田貴	1		1		1			86
体育実技Ⅰ	藤本要広 島田貴	1		1		1			88
専門教育科目									
保育者論	関本仁	2		2		2			101
	長島輝子								103
社会福祉	高橋雄二	2			2	2			105
児童家庭福祉	今加清孝 藤とよ	2			2	2			109
保育原理	中野明子	2			2	2			113
社会的養護	神戸信行		2		2	2			115
発達心理学	小関賢	2		2		2			122

子どもの保健	石井佳世子	4		4		4			130
保育内容総論	長島輝子 鈴木智子		1	1		1			141
保育内容指導法 人間関係	鈴木智子		1	1		1			146
	佐藤菊子								148
保育内容指導法 環境	杉浦広幸		1	1		1			150
保育内容指導法 表現	石田敏和 鈴木美樹		1	1		1			156
幼児音楽	佐藤敦子	2		2		2			177
ピアノ演習 (初心者レベル)	佐藤敦子	2			2				186
	ミハウ・ソブコヴィアク								188
	桜田葉子								190
	浅野洋子								192
	渡邊聡子								194
	池田奈央								196
ピアノ演習 (初級レベル)	佐藤敦子	2			2				198
	ミハウ・ソブコヴィアク								200
	桜田葉子								202
	浅野洋子								204
	渡邊聡子								206
	池田奈央								208
ピアノ演習 (中級レベル)	ミハウ・ソブコヴィアク								210
	浅野洋子								212
ピアノ演習 (中上級レベル)	ミハウ・ソブコヴィアク								214
	浅野洋子								216
ギター演習	佐藤隆								228
図画工作	石田敏和 鈴木美樹	2		2		2			230
幼児体育	岡田麻紀	2		2		2			233
バリダンスレッスン とバリ島幼稚園交流	佐藤敦子		2		2		2		245
特別研究 (子どもと園芸)	杉浦広幸		2		2		2		248
特別研究 (園行事DVD制作演習)	菅田清正		2		2		2		251
特別研究 (障害児生活支援演習)	高橋雄二		2		2		2		254
特別研究Ⅱ (保育者の表現遊び)	長久保和子		2		2		2		257
教育実習 (事前指導)	長久保和子 長島輝子 中野明子		5	5			5	2年間継続履修	259
保育実習指導	鈴木智子 中野明子		2		2		2	2年間継続履修	262

平成29年度 保育科第一部「授業計画」目次【2年生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
教養教育科目									
情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	木谷 徳智	2		2		2		1年次、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで、計4単位以上を必修とする	38
情報機器操作Ⅳ (メディアミックス活用 上級レベル)	酒井 創		2		2		2		46
日本国憲法	新村 繁文		2	2			2		71
英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	オカンボ・メリッサ・ブラザ 高橋 了治	2		2		2			76
英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	オカンボ・メリッサ・ブラザ							79	
国際理解演習	佐藤 敦子		2		2		2	時間割外 (バリ島研修旅行)	245
	中丸 一志如 呂 学如					時間割外 (シンガポール研修旅行)		84	
体育実技Ⅱ (テニスⅡ)	藤本 要		1		1		1		91
体育実技Ⅱ (バドミントンⅡ)	藤本 要		1		1		1		93
体育実技Ⅱ (バレーボールⅡ)	島田 貴広		1		1		1		95
体育実技Ⅱ (ヒップホップ&ジャズダンスⅡ)	石山 波恵		1		1		1		97
体育実技Ⅱ (ボディ・コンディショニングⅡ)	島田 貴広		1		1		1		99
専門教育科目									
相談援助	高橋 雄二		1		1		1		107
教育原理	関本 仁	2		2			2		111
教育行政	渡辺 博志		2	2			2		117
教育心理学	田辺 稔		1	1			1		120
発達心理学Ⅱ	小関 賢		2		2		2		124
臨床心理学	小関 賢		2		2		2		126
臨床心理学Ⅱ	小関 賢		2		2		2		128
子どもの保健Ⅱ	渡邊 一代	1		1			1		132
子どもの食と栄養	田村 佳奈美		2		2		2		134
家庭支援論	中野 明子 高橋 雄二		2		2		2		137
保育・教育課程論	佐久間 正弘		2	2			2		139
保育内容指導法 健康	佐藤 理		1	1			1		144
保育内容指導法 言葉	田上 貞一郎		1	1		1			152
	長島 輝子						154		
教育方法及び技術	佐久間 正弘		2	2			2		158

教 育 相 談	佐久間 正 弘		2	2		2		160
	木 村 泰 博							162
保育・教職実践演習 (幼稚園)	佐久間 正 弘 関 本 仁		2	2		2		164
社会的養護内容	神 戸 信 行		1		1	1		166
保育相談支援	今 清 孝		1		1	1		168
乳 児 保 育	永 澤 孝 子	2			2	2		170
障 害 児 保 育	西 村 學	2		2		2		174
幼 児 音 楽	伊 藤 俊 彦	2		2		2		180
幼 児 音 楽 II	長久保 和 子		2		2	2		183
ピアノ演習(再) (初心者・初級・中級・中上級レベル)	渡 邊 聡 子	2			2		2	218
	池 田 奈 央						220	
ピ ア ノ 演 習 (初 級 レ ベ ル)	ミハウ・ソブコヴィアク		2		2	2		222
ピ ア ノ 演 習 (中 級 レ ベ ル)	ミハウ・ソブコヴィアク		2		2	2		224
ピ ア ノ 演 習 (中 上 級 レ ベ ル)	ミハウ・ソブコヴィアク		2		2	2		226
幼 児 体 育	藤 本 要 岡 田 麻 紀	2		2		2		236
国 語	田 上 貞 一 郎 荒 川 守		2		2	2		239
創作ミュージカル	長久保 和 子	2			2	2		241
バリダンスレッスン とバリ島幼稚園交流	佐 藤 敦 子		2		2	2		245
特 別 研 究 (子どもと園芸)	杉 浦 広 幸		2		2	2		248
特 別 研 究 (園行事DVD制作演習)	菅 田 清 正		2		2	2		251
特 別 研 究 (障害児生活支援演習)	高 橋 雄 二		2		2	2		254
特 別 研 究 II (保育者の表現遊び)	長久保 和 子		2		2	2		257
教 育 実 習	長 島 輝 子						(単位認定)	259
教 育 実 習 (事前・事後指導)	長久保 和 子 長島 輝 子 中野 明 子 佐久間 正 弘 関 本 仁		5	5		5	2年間継続履修	
保 育 実 習 指 導	鈴 木 智 子		2		2	2	2年間継続履修	264
保 育 実 習	中 野 明 子		4		4	4		269
保 育 実 習 指 導 II	鈴 木 智 子		1		1	1	II・IIIどちらか計3 単位保育士必修	270
保 育 実 習 II			2		2	2		272
保 育 実 習 指 導 III	今 清 孝		1		1	1		273
保 育 実 習 III			2		2	2		275



教養教育科目

授業科目名	本学の教育		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授・学長 こまつ ゆみ		開講期	前期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等				

【授業の概要】 建学の精神と本学の教育について、映像やパワーポイントを利活用して説明し、学生の理解に役立てる。	【授業の概要との対応項目】			
	A	知識		
	B	技術・技能		
	C	論理的思考力		
	D	文章表現力		
	E	表情及び身体表現力		
	F	感性及び感動表現力		
	G	協働能力		
	○	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力		
	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力			
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
建学の精神及び本学の教育理念や教育について理解する。			目標	H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション (授業の進め方、評価方法等) ① 本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ② まごころの実践	授業計画 学生便覧 パワーポイント及び映像 利用	学生便覧の該当 部分を復習する
2	本学の教育(1) あいさつ ～まごころの始まり～ ① 大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ② 学生らしい服装 ③ 学生のボランティア活動、社会貢献活動 ④ 学習スタイルの構築	学生便覧 映像資料視聴	学生便覧の該当 部分を復習する
3	校歌 第一校歌、第二校歌	校歌映像視聴 学生便覧参照	校歌の歌詞を事前に見て おく。CDを聴き、自分 で校歌を口ずみ予習して おく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	本学の教育(2) ～魅力ある授業を目指して～ ① 大学での学び、アクティブラーニング ② 学生受講規程と投書制度 ③ 学生の授業評価制度 ④ シラバスと成績評価 ⑤ 本学独自のGPAと学生の表彰	学生便覧	学生便覧の該当部分を復習する
5	本学の教育(3) ～学生生活における決まりごと～ ① セルフディフェンス ② キャリア支援	学生便覧 資料配付	学生便覧の該当部分を復習す
6	夢を求めた先輩からのアドバイス 卒業生からのプレゼンテーション及びビデオレター	プレゼンテーション及びビデオレター	レポート作成 (レポート提出は6月23日まで)
7	第一校歌斉唱 教員からのアドバイス	映像利用及び資料配付	
8	第二校歌斉唱 レポート発表 ① 学生のプレゼンテーション ② レポート総評		
【到達度の評価（評価方法・基準）】 次のいずれかのテーマでレポート（1,000字以上1,200字以内）を6月23日(金)13:00までに教務課（駅前キャンパスは5階事務室）へ提出のこと（自筆、パソコンいずれも可）。 誤字・脱字の多いもの、内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求める。 また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とする。 <レポートのテーマ> ① 私の夢 ② 私のキャリアデザイン } 2つのうちのいずれかを選択			
【教科書】 学生便覧および配付資料を使用			
【その他補足事項】 ・授業はカーサ・フローラ千葉記念ホールで行い、座席は指定とする。出欠は空席を確認して行う。 ・欠席、遅刻、授業中の態度等については、授業計画の「成績評価への補足的対応措置」に沿う。 ・授業回数の少ない授業のため、出欠回数に注意して欲しい。 ・レポートの評価は、コメントを付して返却する。			

授業科目名	国語表現		授業形態・単位数	講義及び演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授	た がみ てい ちろう 田 上 貞一郎	開講期	通年
	講師	あらかわ まもる 荒 川 守	授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 敬語の使い方・教育・保育実習での話し方、就職面接、小論文作成など、保育者になる上で避けて通れない課題について、会話・文章の両面から詳しく解説する。 さらに職場の先輩や保護者との会話、園だより・連絡帳の書き方についても触れる。実習礼状はもちろん実習日誌・指導計画の書き方についても国語表現の観点からその留意点などについて学修していく。 授業進行はワークシート提出形式の演習を25回程度課すなど実践的内容とする。 また、本学では国語力向上を目指し、統一テスト（「文字・成語」「小論文」「対話」の三テスト）を実施し、それらの成績を加味して授業の成績評価を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育者として恥ずかしくない国語表現力の習得を目標とする。			目標	A・B・C
教育・保育実習から現場で保育者になったとき即戦力となるよう、実践的な授業を通して国語表現力のアップを目標とする。			目標	A・B・D・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) (4) 統一テストについての説明	自己プレゼンテーション (自己紹介・自己アピール発表) 教材: 授業計画 学生便覧 教科書	自己紹介の準備 授業計画の確認
2	保育者としてよい国語表現をするために(1) ～鋭い観察眼を持って～など	指名問答 朗読 教材: 教科書	学習範囲予習 朗読練習
3	保育者としてよい国語表現をするために(2) ～自立した保育者になるために～など	指名問答 朗読 教材: 教科書	学習範囲予習 朗読練習
4	保育者を目指すみなさんへ ～現場からの生の声～	指名問答 朗読 教材: 教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	聞き取りやすい話し方の基本 ～滑舌練習、早口言葉～など あいさつ～トレーニング法～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：滑舌、早口言葉の練習
6	滑舌、早口言葉の練習成果発表 ～全員に発表してもらう～	口頭発表 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
7	敬語の使い方 ～上司や先輩への言葉遣い～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート①作成
8	保育者の発声 自己紹介の仕方～留意点～など (ワークシート①提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート②作成
9	実習先との話し方 ～アポの取り方～など (ワークシート②提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
10	実習現場での話し方 ～感性を磨く～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
11	子どもへの言葉かけ ～話を引き出す～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
12	就職面接 保護者との話し方 保育現場での電話	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑬⑭作成
13	文字を正しく書こう 正しい表記で書こう (ワークシート⑮⑯提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑳㉑作成
14	文章作成上の留意点 ～当て字に注意する～など (ワークシート⑳㉑提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉒㉓㉔ 作成
15	文章の基本的な書き方 ～読み手に思いやりを～など (ワークシート㉒㉓㉔提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉕㉖作成
16	実習日誌の書き方(1) ～なぜ、実習日誌を書くのか～など (ワークシート㉕㉖提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
17	実習日誌の書き方(2) ～注意したい用語表現～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉗作成
18	指導計画の書き方(1) ～指導計画の種類～など (ワークシート㉗提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
19	指導計画の書き方(2) ～計画する際の留意点～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉘作成
20	実習礼状など手紙・ハガキの書き方(1) ～書く上での留意点～など (ワークシート㉘提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉙㉚㉛㉜ 作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	実習礼状など手紙・ハガキの書き方(2) ～実習礼状を実作する～ (ワークシート⑬⑭⑮⑯提出)	実習礼状作成 指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
22	メールの書き方	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑰作成
23	履歴書の書き方(1) ～書く上での留意点～など (ワークシート⑰提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑱作成
24	履歴書の書き方(2) ～履歴書を実作する～ (ワークシート⑲提出)	履歴書作成 指名問答 朗読 ワークシート返却 送り状作成 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
25	小論文の書き方(1) ～作文と小論文の違い～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：小論文「事例」の書写
26	小論文の書き方(2) ～構成を考えて書く～など (小論文「事例」の提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：新聞「社説」の書写
27	小論文の書き方(3) ～小論文を実作する～ (新聞「社説」の提出)	「事例」の返却 小論文 作成 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
28	連絡帳の書き方 ～書く上での留意点～など	「社説」の返却 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑳作成
29	園だよりの書き方 ～パソコンで書くときの留意点～など (ワークシート㉓提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
30	まとめ ～保育者になる上で国語表現の重要性について発表～	口頭発表 指名問答 ワークシート返却 教材：教科書	口頭発表の準備
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書の朗読（10%）、口頭発表（10%）、授業中の作成物（10%）、ワークシートの提出（50%）、統一テスト「文字・成語テスト」（10%）、「小論文テスト」（5%）、「対話テスト」（5%）から客観的に評価する。 ※欠席1回につき3点減点とする。 ※教科書忘れは1回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育者になるための国語表現 著者名：田上貞一郎 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別）			
【その他補足事項】 悪筆（くせ字など）で矯正が必要な方、人前で話すことが苦手な方などは、後期開講の「書写演習」「会話演習」の受講者指定を次の方法により行う。指定された場合は必ず受講し、単位を取得しなければならない。 ・「書写演習」… 課題の提出物を精査して受講者を指定する。 ・「会話演習」… 授業終了前の「本日のポイント」についての口頭発表（5名程度）、滑舌・早口練習の成果発表ならびに教科書の朗読、指名問答時の返答など会話全般から判断して受講者を指定する。			

授業科目名	書 写 演 習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 <small>た がみ ていいちろう</small> 田 上 貞一郎		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択 (受講指定者は必修)	
保育士資格		〃	選択 (受講指定者は必修)	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「国語表現」授業担当者から、悪筆（くせ字など）で矯正が必要であると、受講を指定された学生が履修する科目である。 1. 文字を適切かつ美的に筆記できるように演習を行い、書写能力の向上・美的書写表現技法を修得する。また、文字の成り立ちを学び、記録・伝達手段としての文字についての専門的知識を高める。 2. 教養教育科目「国語表現」との関連性を考慮した教材の使用により、適切な用語用法を修得し、豊かな教養と情緒の涵養を図る。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
目的に応じて用語用法を考え、表現技法や書体を工夫することができる能力を養う。			目標	A・D
書表現技法の修得、鑑賞力と美意識の高揚を図る。			目標	A・B
保育者として手書きする連絡帳などに美文字で記入できる力の習得を目指す。			目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、 使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の進め方 (2) 授業時間以外の必要な学修の進め方 (3) 評価の観点と方法	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト、授業計画	自己紹介の用意 授業計画の確認
2	書くための準備 — 姿勢・用具・持ち方	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・ビデオ視聴 (NHK「手書き美人」25分)	テキスト予習 練習課題
3	漢字とかな(文字の成り立ち)／隙間均等法	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
4	美文字三原則	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、 使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
5	漢字の8パーツ	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
6	字形の整え方 ルール1～3	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
7	字形の整え方 ルール4～7	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
8	「へん」と「つくり」	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
9	「にょう」と「たれ」	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
10	ひらがな 練習	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
11	ひらがな 清書と補充	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
12	カタカナ 練習	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
13	カタカナ 清書と補充	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
14	文字の揃え方（中心線串刺し法）	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
15	まとめと振り返り	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 実技の完成度（50%）、提出物（40%）、授業態度（10%）から客観的に評価する。 ※テキスト忘れは一回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：クセ字が直る美文字レッスン帳 著者名：青山浩之 発行所：NHK出版 価格：500円（税別）</p>			

授業科目名	会 話 演 習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>ふじ ま ひさ こ</small> 藤 間 久 子	開 講 期	後期	
		授 業 回 数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択 ※受講指定者は必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択 ※受講指定者は必修	
保育士資格		〃	選択 ※受講指定者は必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 「国語表現」授業担当者から、人前で話すことが苦手などで、会話を向上させるために受講を指定された学生が履修する科目である。 本科目では日常会話からビジネスの場に至るまでのコミュニケーション能力を向上させるための「話し言葉」についての実践的な演習を行う。話し方の基礎や「話し言葉」に対する感覚を磨き、表現技術を修得する。 また、言葉によって事実を的確に伝えたり、自分の意見を整然と主張する訓練をすることにより論理的な思考に支えられた明確な表現力を養うことを目的とする。 さらに円滑な人間関係を築くための会話法について学んでいく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
基礎的な音声表現のトレーニングにより会話のイメージアップを図る。		目標	A・B
社会の様々な状況の中で協調していくための適切な会話表現ができるようになる。		目標	A・J
論理的思考と表現の工夫により説得力のある話し方のスキルアップを目指す。		目標	A・C・I
コミュニケーションを深めるための会話術を磨く。		目標	E・F・H・L
保育者として上司・同僚さらに保護者とのスムーズな会話力の習得を目指す。		目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法と本科目の留意点 自己紹介(1)	授業計画 個別指導	
2	自己紹介(2) 話の基本技術(1) 適切な会話のための音声表現について	発表 (VTR収録)	復習: VTR チェック (レポート)
3	話の基本技術(2) 発音・発声・アクセント・イントネーションなど	プリント	復習: プrintの練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	話の基本技術(3) 社会生活における適切な会話について ～会話の目的と組み立て方	グループ演習	復習：補助挨拶について
5	話の基本技術(4) 「書き言葉」と「話し言葉」の違いについて ～聞いて分かりやすい話すための原稿作成	プリント 発表	課題：以降授業内でニュース、トピックスの発表
6	論理的思考に基づく表現力(1)～ディベート 論理的な話をする為の話のまとめ方について	プリント	予習：テーマ設定 復習：フローシートの作成
7	論理的思考に基づく表現力(2)～ディベート 聞き上手になる為のポイント	グループ討議	復習：フローシートの作成
8	論理的思考に基づく表現力(3)～ディベート ディスカッションなどでの司会の方法	グループ討議	復習：授業内容の再確認
9	敬語表現(1) 敬語の必要性と表現方法について	プリント	復習：プリント内容の確認
10	敬語表現(2) 間違いやすい敬語用法について	プリント	復習：プリント内容の確認
11	敬語表現(3) 様々な状況での会話、電話応対について	ロールプレイング	予習：シナリオの設定
12	パブリックスピーキング(1) 公の場でのスピーチ原稿の作り方	個別指導	復習：原稿のチェックと下読み
13	パブリックスピーキング(2) 好感の持てる話し方について	発表（VTR収録）	課題：VTRチェック（レポート）
14	コミュニケーションを高める会話法(1) 円滑な会話のための表現技法	ロールプレイング	復習：テーマの設定
15	コミュニケーションを高める会話法(2) 会話における自己表現	発表	予習：原稿のチェック
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（筆記） 30% 2. 課題スピーチなど表現力を総合した評価 50% 3. レポートなどの提出状況 10% 4. 授業態度 10% ※「成績評価への補足的対応措置」により欠席、遅刻・早退による減点を行う。			

授業科目名	情報機器操作Ⅰ（初級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 （職名・氏名）	非常勤講師 木谷徳智 〔本務先：オフィスK 職名：代表〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択必修	
保育士資格		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目は、現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目である。コンピュータ利用経験の少ない受講者を対象に、本科目と2年次の「情報機器操作Ⅱ」を併せて以上の内容を実施する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）	
2年次に履修する「情報機器操作Ⅱ」において実践的な技術・知識の演習を実施するためのベースができる。			目標	A・B
パーソナルコンピュータの基本操作とタイピング操作、日本語入力操作を習得することができる。			目標	A・B
具体的な「道具（ソフト）」として、ワープロ機能の実践的な利用技術と知識を習得することができる。			目標	A・B・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） タイピングソフトの説明 パソコン利用状況の確認	授業計画 PC利用 ・PowerPointでの説明	事前理解 ・授業計画
2	タイピング練習（説明・五十音入力練習） ・タイピング練習方法の説明と環境準備の確認 ・〔課題〕 五十音入力練習	PC利用 ・メモ帳での入力練習 資料配付 ・ローマ字変換表	タイピング練習 ・ローマ字入力 課題の完成・提出（次回迄） ・「ローマ字入力練習」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習（集中練習1） ・Mikatype練習方法の説明と練習 ・[課題] ポジション練習	PC利用 ・PowerPointでの説明 ・Mikatype練習	タイピング練習 ・ポジション練習 課題の完成・提出（次回迄） ・「ポジション練習結果」
4	タイピング練習（集中練習2） ・[課題] ポジション練習	PC利用 ・Mikatype練習	タイピング練習 ・ポジション練習 課題の完成・提出（次回迄） ・「ポジション練習結果」
5	タイピング練習【個別練習】（15分程度） パソコンの基礎(1) ・パソコンの歴史としくみ ・パソコンの基本操作（Windows）①	PC利用 ・Mikatype練習 ・Windows操作練習	事前理解 ・教科書：P14～31 ・教科書：P60～85 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう①（文章）」
6	タイピング練習【個別練習】（15分程度） パソコンの基礎(2) ・パソコンの基本操作（Windows）②	PC利用 ・Mikatype練習 ・Windows操作練習	事前理解 ・教科書：P60～85 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう②」
7	タイピング練習【個別練習】（15分程度） マウス操作 ・ペイント系ソフトでのイラスト作成 ・[課題]「ペイントイラスト」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Paint（イラスト作成）	事前理解 ・教科書：P96～122 課題の完成・提出（次回迄） ・Paintイラスト1、2、3
8	タイピング練習【個別練習】（15分程度） キーボード操作（日本語入力システム） ・MS-IMEの基礎操作① ・[課題]「文節入力変換」の練習	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（文字入力練習）	事前理解 ・教科書：P86～95 課題の完成・提出（次回迄） ・「文節入力変換」 ・「保育を学ぼう③」
9	タイピング練習【個別練習】（15分程度） キーボード操作（日本語入力システム） ・MS-IMEの基礎操作② ・[課題]「Let's Try! 1～4」の練習	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（文字入力練習）	事前理解 ・教科書：P86～95 課題の完成・提出（次回迄） ・「Let's Try! 1～4」(P95) ・「保育を学ぼう④」
10	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(1) ・ビジネス文書の構成、作成の流れと文字修飾 ・インデント、箇条書き、段落番号	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（送付状）	事前理解 ・教科書：P140～171 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう⑤」
11	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(2) ・ビジネス文書の作成 ・[課題]「送付状」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（送付状）	事前理解 ・教科書：P140～171 課題の完成・提出（次回迄） ・「送付状」
12	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(3) ・かんたんなおたよりの作成、文字の均等割り付け ・[課題]「第32回おたより」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（第32回おたより）	事前理解 ・教科書：P172～179 課題の完成・提出（次回迄） ・「第32回おたより」 ・「保育を学ぼう⑥」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(4) ・かんたんなおたよりの修正 ・[課題]「第33回おたより」の作成 ・[課題]「第34回おたより」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（第33回おたより）	事前理解 ・教科書：P 179～181 課題の完成・提出（次回迄） ・「第33回おたより」 ・「保育を学ぼう⑦」
14	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(5) ・作表機能の操作説明 ・[課題]「時間割」の作成・完成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（時間割）	事前理解 ・教科書：P 184～205 課題の完成・提出（16回迄） ・「時間割」
15	前期のまとめ ・ワードの表を利用した「計画表」の作成	PC利用 ・Word（総合演習課題）	事前理解 ・教科書：P 184～205 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう①」(完成形)
16	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(6) ・イラスト入り案内カードの作成（図形活用） ・[課題]「案内カード」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（案内カード）	事前理解 ・教科書：P 207～212 課題の完成・提出（次回迄） ・「案内カード」文面、1、2
17	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(7) ・表入りおたよりの作成 ・[課題]「年度計画（春季版）」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（年度計画）	事前理解 ・教科書：P 212～215 課題の完成・提出（次回迄） ・「年度計画（春季版）」
18	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(8) ・[課題]「進級カード」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（進級カード）	事前理解 ・教科書：P 224 課題の完成・提出（次回迄） ・「進級カード」
19	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(9) ・[課題]「遠足だより」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（遠足だより）	事前理解 ・教科書：P 225 課題の完成・提出（次回迄） ・「遠足だより」（完成形）
20	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(10) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）① ・図形描画の基礎操作	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（図形描画操作）	事前理解 ・教科書：P 96～124 課題の完成・提出（次回迄） ・「自由描画」
21	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(11) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）② ・[課題]「うさぎ」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word(図形描画イラスト)	事前理解 ・教科書：P 128～132 課題の完成・提出（次回迄） ・「うさぎ」
22	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(12) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）③ ・[課題]「ひよこ」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word(図形描画イラスト)	事前理解 ・教科書：P 133～137 課題の完成・提出（次回迄） ・「ひよこ」
23	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(13) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）④ ・[課題]「かざぐるま」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word(図形描画イラスト)	事前理解 ・教科書：P 96～124 課題の完成・提出（次回迄） ・「かざぐるま」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(14) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）⑤ ・[課題]「保育園案内図」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（保育園案内図）	事前理解 ・教科書：P 124～128 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育園案内図」
25	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(15) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）⑥ ・[課題]「福島学院大学案内図」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（保育園案内図）	事前理解 ・教科書：P 124～128 課題の完成・提出（次回迄） ・「福島学院大学案内図」
26	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(16) ・[課題]「園だより」の作成①	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（園だより）	事前理解 ・教科書：P 216～223 課題の完成・提出（次回迄） ・「園だより」（レイアウト）
27	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(17) ・[課題]「園だより」の作成②	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（園だより）	事前理解 ・教科書：P 216～223 課題の完成・提出（次回迄） ・「園だより」
28	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(18) ・[課題]「発表会の案内」の作成①	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（発表会の案内）	事前理解 ・教科書：P 226～227 課題の完成・提出（次回迄） ・「発表会の案内」（レイアウト）
29	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(19) ・[課題]「発表会の案内」の作成②	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（発表会の案内）	事前理解 ・教科書：P 237～239 課題の完成・提出（次回迄） ・「発表会の案内」（完成形）
30	タイピング試験（15分程度） ワープロソフトの機能と操作（まとめ）	PC利用 ・Mikatype試験 ・Word（機能と操作まとめ）	事前理解 ・教科書：P 237～239 試験結果の提出 ・Mikatype（USB内含む）
期末試験	後期のまとめ（後期末試験）	これまでの知識とスキルを活用した総合演習	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明します。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期のまとめ 20% ・総合演習による前期内容の理解度の確認 後期のまとめ 20% ・総合演習による後期内容の理解度の確認 レポート 10% ・タイピング練習結果レポート 提出課題 30% ・授業時作成および授業時間外の宿題の提出課題 授業態度 20% ・授業への取り組み、積極的・自発的な応答・参加			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別） ※Windows 7 office2007/2010/2013対応版			
【その他補足事項】 ・「情報機器操作Ⅰ」の履修者は、2年次で「情報機器操作Ⅱ」も履修し、単位を取得しなければならない。 ・USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。			

授業科目名	情報機器操作Ⅱ（中級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 <small>さか い はじめ</small> 酒井 創		開講期	通年
	非常勤講師 <small>しの だ のぶ お</small> 篠田 伸夫		授業回数	30回
	〔本務先：福島大学 職名：教授〕		期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択必修	
保育士資格		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		酒井：オフィスアワーは、初回授業時に説明する。 篠田：授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
今後の情報ネットワーク社会に、積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を、上記授業概要について、卒業後に現場で役立つレベルでの修得を目標とする。			目標	A・B・C
自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を養成する。			目標	A・B・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・実習環境の実際とその理解 ・タイピング練習ソフトの配布と練習方法の説明 ・正しいタイピング練習の理解と実践	授業計画、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	事前理解：授業計画内容の確認
2	タイピング練習とキーボード操作の確認 ・正しいタイピング練習の理解と実践 日本語入力と文書作成 ・キーボード操作確認 ・日本語入力システムの確認	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容 ・課題：Exe.1

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習 図形ツール操作演習(1) ・ Word文書上での図形ツールの操作	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	・ タイピング練習 ・ 事前理解：テキスト内容
4	タイピング練習 図形ツール操作演習(2) ・ Word文書上での図形ツールの操作	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	・ タイピング練習 ・ 事前理解：テキスト内容 ・ 課題：Exe.1
5	タイピング練習 図形ツールの活用(1) ・ 図形操作の確認 ・ 案内図を作る	テキストUnit 3 Exercise 1 (Word)	・ タイピング練習 ・ 事前理解：テキスト内容 ・ Exercise復習
6	タイピング練習 図形ツールの活用(2) ・ イラストを作る① ・ PowerPointの基本操作	テキストUnit 3 Exercise 1	・ タイピング練習 ・ Exercise復習
7	タイピング練習 図形ツールの活用(3) ・ イラストを作る② ・ PowerPointスライド上での図形ツール	テキストUnit 3 Exercise 2	・ タイピング練習 ・ Exercise復習
8	タイピング練習 図形ツールの活用(4) ・ イラストを作る③ ・ PowerPointスライド上での図形ツール	テキストUnit 3 Exercise 3	・ タイピング練習 ・ Exercise復習
9	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 1 - 1 ・ 日本語入力とワープロ基本機能の確認 ・ 簡単なお便りの作成	テキストUnit 4	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業外課題 「保育を学ぼう①(本文)」
10	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 1 - 2 ・ 作成した文書の再利用	テキストUnit 4	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業外課題 「保育を学ぼう②」
11	タイピング練習 ビジュアルツールの活用 ・ 表や図ツールなどの理解	テキストUnit 5	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業外課題 「保育を学ぼう③」
12	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2 - 1 ・ イラストのいった案内カードの作成	テキストUnit 6	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業の完成・提出
13	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2 - 2 ・ 表を組み込んだ文書の作成	テキストUnit 6	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業の完成・提出
14	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2 - 3 ・ やや複雑なレイアウト文書の作成 ・ 夏期課題説明	テキストUnit 6	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業の完成・提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	Word総合演習(1) ・前期のまとめ	総合演習課題	<ul style="list-style-type: none"> これまでのExercise内容の理解と復習 授業外課題「保育を学ぼう①(完成)」
16	Word総合演習(2) ・いろいろなおたより、カード、ポスターを作る ・これまでの知識とスキルを活用する ・プリンタ利用の実際	テキストUnit 6・Let's Try プリント配布	<ul style="list-style-type: none"> Exercise復習 課題完成、提出
17	OSを活用したファイル操作 ・パソコン上でのフォルダ・ファイル操作	テキストUnit 2	授業内容復習
18	ネットワーク利用の実際(1) ・情報収集、検索の実際 ・インターネットによるコミュニケーションとウェブサービスの活用	テキスト Part 4 プリント配布	授業内容復習
19	ネットワーク利用の実際(2) ・ウェブページ情報を活用したレポート作成の実際 ・著作権に関する留意事項の理解	プリント配布	授業内容復習
20	実践プレゼンテーションソフト PowerPoint演習 1 ・プレゼンテーションとプレゼンテーションソフトの理解	テキストUnit 11	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
21	実践プレゼンテーションソフト PowerPoint演習 2 ・課題の作成	テキストUnit 11	課題の作成
22	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 1 (作表とかんたんな計算) ・表計算ソフトの基本機能確認 ・「クラス表1」	テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
23	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 2 (作表とかんたんな計算) ・表計算ソフトの基本機能確認 ・「クラス表2 (グラフ作成含む)」	テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
24	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 3 (作表とかんたんな計算) ・「年間カレンダー」の作成	テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
25	実践表計算ソフト Excel演習 2 - 1 (データベース機能の基礎) ・「児童台帳様式」の作成	テキストUnit 8	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
26	実践表計算ソフト Excel演習 2 - 2 (データベース機能の基礎) ・「児童台帳」の作成、更新と検索・集計の実際	テキストUnit 8	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
27	実践表計算ソフト Excel演習 3 - 1 (グラフと計算式の活用) ・「身体計測記録表」と「身体計測記録台帳」の作成	テキストUnit 9	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	実践表計算ソフト Excel演習3-2 ・「身体計測記録台帳」を活用したグラフ作成の実際と簡単なデータ分析	テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
29	実践表計算ソフト Excel演習3-3 ・「行事写真購入申し込み管理表」「健康診査表」による、場面に応じた活用方法の理解 ・次回「総合演習」の説明	テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
30	総合演習 ・課題の作成	・各自の年間タイピング記録をExcelで集計 ・成果と今後の課題をレポートにまとめる	・事前準備：「総合演習」準備 ・課題の完成、提出
期末試験	Excel総合演習（期末試験） ・これまでの知識とスキルを活用する	Excel総合演習課題	・ExcelのExercise内容の理解と復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーもしくは学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期末のまとめ 30% ・総合演習による前期内容の理解度の確認 後期末のまとめ 30% ・総合演習による後期内容の理解度の確認 提出課題 30% ・授業時作成および授業時間外の宿題の提出課題 授業参加状況 10% ・ <u>評価基準</u> により採点（初回授業時に説明） 詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 ・基本的に、テキストに従い、自ら課題を進める授業形態となる。積極的な態度で受講することを希望する。 ・授業内容については、実習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合がある。 ・演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。			

授業科目名	情報機器操作Ⅱ（中級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 （職名・氏名）	非常勤講師 木谷徳智 〔本務先：オフィスK 職名：代表〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目は、現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に必要な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目である。 <u>1年次に「情報機器操作Ⅰ」を受講し単位認定を受けた学生は、必ず履修すること。</u>	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）	
パソコンとネットワークを活用するための具体的な「道具（ソフト）」である、ワープロ機能、表計算機能、画像処理、プレゼンテーション、ネットワーク活用などの実践的な利用技術と知識を修得することができる。			目標	A・B
情報ネットワーク社会に、独力で積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を身に付けることができる。			目標	A・B
情報ネットワーク社会の中で、自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断することができる。			目標	A・B・C
情報ネットワーク社会の中で、主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができる。			目標	A・B・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標、評価方法、授業の進め方、その他（本科目の留意点）	授業計画、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	・事前理解：授業計画内容の確認
2	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ネットワーク利用の基礎(1) ・インターネット、電子メールの概要と留意点①	演習	演習内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ネットワーク利用の基礎(2) ・インターネット、電子メールの概要と留意点② ・[課題]「Webメール」の活用	演習	演習内容の復習
4	タイピング練習【個別練習】（15分程度） Wordによる文書作成(1) ・1年次の復習とスキル確認①	応用課題	演習内容の復習
5	タイピング練習【個別練習】（15分程度） Wordによる文書作成(2) ・1年次の復習とスキル確認②	応用課題	演習内容の復習
6	タイピング練習【個別練習】（15分程度） Wordによる文書作成(3) ・1年次の復習とスキル確認③	応用課題	演習内容の復習
7	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(1) ・ワークシートの構成、作成の流れと文字修飾 ・セル操作の基本、グラフ表示 ・[課題]「クラス表2（グラフ付）」の作成	テキスト ・Excel（シート操作） ・Excel（クラス表2）	事前理解 ・教科書：P 230～278、 P 279～289、P357 課題の完成・提出（次回迄） ・「クラス表2（グラフ付）」
8	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(2) ・セルの編集、簡単な計算式、画像貼付操作 ・[課題]「カレンダー」の作成	テキスト ・Excel（カレンダー）	事前理解 ・教科書：P 289～299 課題の完成・提出（次回迄） ・「カレンダー」
9	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(3) ・やや複雑な構造の表作成、表示形式 ・[課題]「離乳食の進め方の目安」の作成	テキスト ・Excel（離乳食の進め方の目安）	課題の完成・提出（次回迄） ・「離乳食の進め方の目安」
10	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(4) ・データベース機能 ・[課題]「児童台帳」の作成①	テキスト ・Excel（児童台帳）	事前理解 ・教科書：P 300～310 演習内容の復習
11	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(5) ・データベース機能 ・[課題]「児童台帳」の作成②	テキスト ・Excel（児童台帳）	事前理解 ・教科書：P 310～323 課題の完成・提出（次回迄） ・「児童台帳」
12	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(6) ・[課題]「身体計測記録表」の作成	テキスト ・Excel（身体計測表）	事前理解 ・教科書：P 324～334 課題の完成・提出（次回迄） ・「身体計測記録表」
13	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(7) ・グラフ表示 ・[課題]「身体計測記録台帳」の作成	テキスト ・Excel（身体計測台帳）	事前理解 ・教科書：P 334～337 課題の完成・提出（次回迄） ・「身体計測記録台帳」
14	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(8) ・グラフ表示、実践的改良 ・[課題]「身体計測記録台帳2」の作成	テキスト ・Excel （身体計測台帳2）	事前理解 ・教科書：P 338～353 課題の完成・提出（次回迄） ・「身体計測記録台帳2」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期のまとめ 表計算ソフトの総合演習 ・これまでの知識とスキルの総合演習	総合演習課題	これまでの演習内容の理解と復習
16	表計算ソフトの機能と操作(9) ・計算式、関数 ・[課題]「行事写真購入申込管理簿」の作成	テキスト ・Excel（行事写真購入申込み管理簿）	事前理解 ・教科書：P 353～356 課題の完成・提出（次回迄） ・「行事写真購入申込管理簿」
17	表計算ソフトの機能と操作(10) ・計算式、関数 ・[課題]「行事写真購入申込管理簿2」作成	テキスト ・Excel（行事写真購入申込み管理簿2）	・教科書：P 353～356 課題の完成・提出（次回迄） ・「行事写真購入申込管理簿2」
18	デジタル画像の活用(1) ・デジタルカメラ使用の基本 ・[Windows Live フォトギャラリー]を使用したPCへの画像取込と管理	演習	演習内容の復習
19	デジタル画像の活用(2) ・自分が使用する通信機器の活用 ・静止画像のフォーマットと解像度	演習	演習内容の復習
20	デジタル画像の活用(3) ・課題「キャンパス紹介」の作成（Word）	課題説明、演習	課題の完成
21	プレゼンテーションソフトの基本(1) ・ソフトの基本操作①	テキスト ・PowerPoint（基本操作）	事前理解 ・教科書：P 362～386 演習内容の復習
22	プレゼンテーションソフトの基本(2) ・ソフトの基本操作② ・[課題]「キャンパス紹介」の作成	テキスト ・PowerPoint（基本操作）	事前理解 ・教科書：P 388～395（参考） 演習内容の復習
23	プレゼンテーションソフトの活用(1) ・ストーリー検討、ラフスケッチ作成 ・[課題]「キャンパス紹介」の作成	・参考例pptファイル	課題の完成・提出（次回迄） ・「キャンパス紹介」
24	デジタル画像と音情報の活用(1) ・動画のフォーマットと解像度 ・「Windows Live ムービーメーカー」の使い方～静止画、動画の取込と編集～	解説、演習	演習内容の復習
25	デジタル画像と音情報の活用(2) ・PCでの音、楽曲データの取扱い方法 ・「Windows Live ムービーメーカー」での音データの取扱い	演習	演習内容の復習
26	デジタル画像と音情報の活用(3) ・[課題]「キャンパス紹介ムービー」の作成	演習	課題の完成
27	プレゼンテーションソフトの活用(2) ・素材収集の方法、素材収集 ・スライド作成の実際 ・[課題] スライドの作成①、リハーサル	PowerPointファイル（素材収集）	演習内容の復習 資料・素材集め

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	プレゼンテーションソフトの活用(3) ・スライド作成の実際とリハーサル ・[課題] スライドの作成②、リハーサル	PowerPointファイル (スライド、リハーサル) (補足資料紹介)	スライドの完成 発表リハーサル
29	プレゼンテーションソフトの活用(4) ・[課題] 発表と評価①	PowerPointファイル (発表用スライド)	スライドの修正と発表の練習
30	プレゼンテーションソフトの活用(5) ・[課題] 発表と評価②	PowerPointファイル (発表用スライド)	スライドの修正と発表の練習
期末試験	後期のまとめ（後期末試験） ・動画およびプレゼン課題の修正と提出	PC利用 ・PowerPointファイル 提出	発表ファイル修正と発表評価 内容の確認
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期のまとめ 30% ・総合演習による前期内容の理解度の確認、タイピング練習 後期のまとめ 20% ・総合演習による後期内容の理解度の確認 提出課題 30% ・授業時作成および授業時間外の宿題の提出課題 授業参加状況 20% ・評価基準により採点 ※詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書 名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価 格：2,000円（税別） ※Windows 7 office2007／2010／2013対応版			
【その他補足事項】 USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。			

授業科目名	情報機器操作Ⅲ (中級習熟レベル)		授業形態・単位数	2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>かな ざわ そう いち</small> 金 澤 聡 一 〔本務先：金澤中小企業診断士事務所 職名：中小企業診断士〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択必修	
保育士資格		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等				

【授業の概要】 <p>Computer & Internetは、ビジネス、および、生活のツールとして必須のものになっている。従来、計算の道具としてこの世に萌芽したComputerではあるが、インターネットの出現とともにその性格を大きく変え、今や人間をサポートする重要なitemである。</p> <p>情報機器操作Ⅲでは、PCとインターネットの今後の発達を踏まえたITに関する授業を行う。(基礎的なパソコンの操作、ワープロ、表計算ソフト利用の勉強も行うが、保育・幼児教育の現場で多用されると思われる音楽(MIDI)、ビデオなどの編集・加工などの実習にも力を入れた授業を行う。)</p>	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
今後の情報ネットワーク社会に、積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を、上記授業概要について、卒業後に現場で役立つレベルでの修得を目標とする。			目標	A・B・C
自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を修得する。			目標	A・B・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・実習環境の実際とその理解	授業計画 1年間の授業予定の説明と必要な基礎的な情報のDBへの設定を行う	・WebへのID等の登録 ・OS等、学習環境の確認
2	ワープロの知識と活用(1) ・書式設定(フォントサイズ、用紙サイズ、余白設定など) ・文字入力(ローマ字かな変換) ・インデントの設定	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 3 かんたんなおたよりを作成しよう』の部分に従い、保育園が発行する簡単なお便り作成の学習を行う	・書式設定の復習 ・文字入力の復習 ・インデント設定の復習 なお、『第33回 ふれあいルームのお知らせ』は完成させておくこと(後で使用)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ワープロの知識と活用(2) ・ワープロに貼り付けるイラスト作成と貼り付け方法の学習①	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 4 かんたんイラストを作成しよう』に従い、保育園が発行する文書に貼り付けるイラスト作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> イラスト書式設定の復習 オートシェイプ利用の復習 色付け・グラデーション設定の復習 なお、『地図、うさぎ』のイラストは完成させておくこと（後で使用する）
4	ワープロの知識と活用(3) ・ワープロに貼り付けるイラスト作成と貼り付け方法の学習②	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 4 かんたんイラストを作成しよう』に従い、保育園が発行する文書に貼り付けるイラスト作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> パーツの重ね合わせ方法の復習 グループ化の復習 なお、『ひよこ、ひまわり、リス』のイラストは完成させておくこと（後で使用する）
5	ワープロの知識と活用(4) ・イラストが入ったおたより作成の練習 ・ペイントを利用したイラスト作成	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 5 イラストが入ったおたよりを作成しよう』に従い、保育園が発行する文書作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> 文字の書式設定の復習 イラストの貼り付け方法の復習 レイアウト設定の復習 なお、『土手で遊ぼう』の文書は、イラストを貼り付けた上で提出のこと
6	ワープロの知識と活用(5) ・表作成方法の学習 ・クリップアート利用方法の学習	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 5 イラストが入ったおたよりを作成しよう』に従い、保育園が発行する文書作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> 表作成方法の復習 表書式設定方法の復習 クリップアート利用方法の復習 なお、『給食だより 5月』の文書は、イラストを貼り付けた上で提出のこと
7	ワープロの知識と活用(6) ・ワープロ総合演習	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 5 イラストが入ったおたよりを作成しよう』に従い、保育園が発行する文書作成の学習を行う	『7月の園だより』、『動物園遠足のお知らせ』の2文書を作成し、提出のこと
8	ワープロ総合演習	2～7回の授業で学習したイラスト作成、文書作成の知識をもとにした総合演習を実施する	・2～7回の授業で学習したことの復習
9	表計算ソフトの知識と活用(1) ・EXCELの知識と基本的な操作方法の学習①	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 7 作表と簡単な計算をしよう』に従い、保育園でよく利用する表の作成を学習する	<ul style="list-style-type: none"> 文字、数字の入力・書式設定 罫線の引き方 四則演算方法 上記に関する復習を行うこと
10	表計算ソフトの知識と活用(2) ・EXCELの知識と基本的な操作方法の学習②	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 7 作表と簡単な計算をしよう』に従い、保育園でよく利用する表の作成を学習する	『カレンダー』と『離乳食の進め方の目安』は完成させて提出すること
11	表計算ソフトの知識と活用(3) ・大量データの入力処理方法の学習 ・入力規則等の設定方法の学習	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 8 児童台帳を作成しよう』に従い、名簿台帳の作成方法を学習する	『児童台帳』は完成させて提出すること

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	表計算ソフトの知識と活用(4) ・基本的な関数の学習①	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 9 グラフと計算式を活用しよう』に従い、基本的な関数の学習を行う *テキストだけでは内容不足のため資料配付の計画あり	基本的な関数を十分に理解しておくこと (SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT、RANK、IFなど) なお、関数に関する課題を提示するので、作成して提出すること
13	表計算ソフトの知識と活用(5) ・基本的な関数の学習②	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 9 グラフと計算式を活用しよう』に従い、基本的な関数の学習を行う *テキストだけでは内容不足のため資料配付の計画あり	基本的な関数を十分に理解しておくこと なお、関数に関する課題を提示するので、作成して提出すること
14	表計算ソフトの知識と活用(6) ・グラフの作成	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 9 グラフと計算式を活用しよう』に従い、グラフ作成の学習を行う *テキストだけでは内容不足のため資料配付の計画あり	基本的な関数、グラフ作成方法を十分に理解しておくこと なお、関数とグラフ作成に関する課題を提示するので、作成して提出すること
15	表計算ソフト総合演習	9～14回の授業で学習した表計算ソフト利用の知識をもとにした総合演習を実施する	・9～14回の授業で学習したことの復習
16	MIDIシーケンサーの知識と活用(1) ・MIDIシーケンサーに対する理解 ・MIDIシーケンサー学習環境の理解	資料配付に基づく授業 ・MIDIシーケンサーの初期設定 ・MIDIシーケンサー操作の基本の資料に基づき学習する	配付した資料を十分に理解しておくこと
17	MIDIシーケンサーの知識と活用(2) ・MIDIシーケンサーへの『打ち込み』の基本操作	資料配付に基づく授業 簡単な楽曲（童謡など）のMIDIシーケンサーへの『打ち込み』方法を学習する	配付した資料を十分に理解しておくこと なお、指定された楽曲の打ち込みは完成させておくこと
18	MIDIシーケンサーの知識と活用(3) ・和音・リズムパートの作成	資料配付に基づく授業 10回目の授業で作成したsoundに対して、和音・リズムパートを作成する	配付した資料を十分に理解しておくこと なお、和音・リズムパートの作成を完成させておくこと
19	MIDIシーケンサーの知識と活用(4) ・音の強弱、Velocityの設定 ・さまざまな音色の設定	資料配付に基づく授業 11回目の授業で作成したsoundに対して、Velocityやさまざまな音色設定方法の学習を行う	配付した資料を十分に理解しておくこと なお、和音・リズムパートの作成を完成させておくこと
20	MIDIシーケンサーの知識と活用(5) ・ファイル識別子（dimとmidi）に関する基礎知識 ・dimからmidiへの変換操作の学習	資料配付に基づく授業 19回目の授業で作成したsoundに対して、dimからmidiへの変換操作を学習する	配付した資料を十分に理解しておくこと なお、変換したファイルは提出のこと
21	MIDIシーケンサーの知識と活用(6) ・MIDI総合演習①	自分で用意したスコアに基づきオリジナルな作品を作成する	好みの音楽のスコアを用意すると共に、MIDI soundにふさわしい形式に編曲を行っておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	MIDIシーケンサーの知識と活用(7) ・リアルタイムMIDIレコーディングに関する学習	キーボードを利用したMIDIレコーディング実習	好みの音楽のスコアを用意し、十分にスコアを見ておくこと
23	MIDIシーケンサーの知識と活用(8) ・MIDI総合演習②	自分で用意したスコアに基づきオリジナルな作品を作成する	好みの音楽のスコアを用意すると共に、MIDI soundにふさわしい形式に編曲を行っておくこと。なお、完成したオリジナルなMIDI sound は提出のこと
24	画像／動画の知識と編集操作(1) ・デジタルカメラの知識と操作実習 ・画像ファイルと動画ファイルの基本的知識の学習	資料配付に基づく授業 資料に基づき画像ファイルと動画ファイルの知識とデジタルカメラの操作方法の学習を行う	配付した資料を十分に理解しておくこと
25	画像／動画の知識と編集操作(2) ・デジタルカメラの操作実習 ・画像／動画の保存方法の学習	資料配付に基づく授業 資料に基づき画像ファイルと動画ファイルの保存方法の学習を行う	配付した資料を十分に理解しておくこと 画像／動画のファイル識別子の違いを十分に理解しておくこと
26	画像／動画の知識と編集操作(3) ・Picture manager を利用した画像の加工方法の学習	資料配付に基づく授業 資料に基づき画像ファイルの拡大、縮小、トレミング、強調などの操作を学習する	配付した資料を十分に理解しておくこと
27	画像／動画の知識と編集操作(4) ・ムービーマーカーを利用した動画の編集方法の学習	資料配付に基づく授業 資料に基づき動画ファイルの編集方法を学習する	配付した資料を十分に理解しておくこと
28	画像／動画の知識と編集操作(5) ・ムービーマーカーを利用した動画への音付け方法を学習する	資料配付に基づく授業 資料に基づき動画ファイルの音付け方法を学習する	配付した資料を十分に理解しておくこと
29	画像／動画の知識と編集操作(6) ・ムービー作成総合演習①	第24回～第28回の知識を基に、『おもいで』ムービー作成を行う	29回と30回でムービーを完成させ、提出のこと
30	画像／動画の知識と編集操作(7) ・ムービー作成総合演習②	第24回～第28回の知識を基に、『おもいで』ムービー作成を行う	29回と30回でムービーを完成させ、提出のこと
【到達度の評価（評価方法・基準）】 課題およびレポート（10回程度）80%、受講態度（質問に対する回答など）20%のウエイト付けにて評価を行う。			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・「情報機器操作Ⅰ」および「同Ⅱ、Ⅳ」との関係については、オリエンテーション時に説明する。 ・演習や実習が主体となるので、積極的な態度で授業に参加すること。また、授業時間以外での自主的自習を奨励する。 ・授業内容については、実習の進行状況などにより、一部変更する場合がある。 ・演習で作成した課題などを保存しておくための外部メディアとしてUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。 			

授業科目名	情報機器操作Ⅳ (メディアミックス活用上級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 <small>さか</small> 酒 <small>い</small> 井 <small>はじめ</small> 創		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1年次「情報機器操作」において学習した内容から、更に「メディアミックス活用」「コミュニケーションツールとしてのコンピュータ」をキーワードに、コンピュータネットワーク環境を使用した情報活用の実践力を習得するための演習科目。 画像や音データの取り扱いを中心に、電子メール、プレゼンテーションツール、情報発信・共有手段の仕組みと活用の実際に関する以下のような知識とスキルを中心に実習を進める。 1. 周辺機器（デジカメ、プリンタなど）の仕組みと扱い方 2. 自らが有する通信機器のPCと連携した活用方法 3. 著作権、個人情報保護に関する知識 4. コンテンツ（テキスト、絵、写真など）の作り方と効果的な見せ方 5. 情報整理の手法 またこれらのスキルや知識を踏まえ、総合演習として、各自テーマに沿った調査研究、作品作成とプレゼンテーションを実施する。	【授業の概要と対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
今後の情報ネットワーク社会に、積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を、上記授業概要について、卒業後に現場で役立つレベルでの修得を目標とする。			目標	A・B・C
自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を修得する。			目標	A・B・C・K
受け手の状況などを踏まえながら発信・伝達できる力を修得する。			目標	D・I・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方 実習環境の確認 自分が使用する通信機器とデジカメ機能の確認 	授業計画 復習課題	事前理解：授業計画内容および前年度授業内容
2	ウェブメール活用の実際	プリント配付、演習	演習内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	さまざまなウェブサービス活用の実際 ～Google Mapを中心に～	プリント配付、演習	演習内容の復習
4	デジタル画像の活用(1) ・自分が使用する通信機器の活用(1) ・機器使用方法とPC連携との理解	プリント配付、演習	演習内容の復習
5	デジタル画像の活用(2) ・自分が使用する通信機器の活用(2) ・「Windowsムービーメーカー」の使い方～静止画、動画の取込と編集～	プリント配付、演習	演習内容の復習
6	デジタル画像の活用(3) デジタル画像と音情報の活用(1) ・「Windowsムービーメーカー」での音データの取扱い	プリント配付、演習	演習内容の復習
7	デジタル画像の活用(4) デジタル画像と音情報の活用(2) ・プロジェクト編集とムービーファイルの生成	課題説明、演習	課題の作成
8	デジタル画像の活用(5) デジタル画像と音情報の活用(3) ・課題「キャンパス紹介」動画の作成	課題説明、演習	課題の作成
9	デジタル画像の活用(6) ・Word、PowerPointによる「キャンパス紹介」の作成課題	プリント配付、演習	演習内容の復習
10	デジタル画像の活用(7) ・さまざまなアプリケーションによる「キャンパス紹介」の発表	作品の紹介と評価	演習内容の復習
11	Officeスキル活用実践(1) ・課題「指導計画案」の作成(1)	プリント配付、演習	演習内容の復習
12	Officeスキル活用実践(2) ・課題「指導計画案」の作成(2)	演習、課題	演習内容の復習 課題の作成
13	Officeスキル活用実践(3) ・課題「指導計画案」の作成(3)	演習、課題	演習内容の復習 課題の作成
14	前期のまとめ(1) ・前期課題のまとめ「キャンパス紹介」 第10回までの発表、検討内容を踏まえ、課題を修正、提出する	修正課題の取り組みと提出	事前理解：修正課題の取り組みと提出準備
15	前期のまとめ(2) ・前期課題のまとめ「指導計画案」 第13回までの作成、検討内容を踏まえ、課題を修正、新たな指導計画を作成する	修正課題の取り組みと新たな計画案の提出	事前学修：修正課題の取り組みと提出準備
16	デジタル画像と音情報の活用(4) ・課題「大学祭予告（秋のキャンパス紹介）」作成	演習	演習内容の復習 課題の作成
17	プレゼンテーションの手法(1) 効果的なプレゼンテーションを考える ・ドキュメントの品質を考える	プリント配付、説明、演習	演習内容の復習とまとめ
18	知的財産権、著作権について(1) ・知的財産権、著作権とは何か	プリント配付、解説、演習	演習内容の復習
19	知的財産権、著作権について(2) ・自分の興味のある事例を調査、これを紹介するレポートと発表用資料の作成	演習 (調査研究、資料作成)	レポートおよび発表用資料の作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	デジタル画像と音情報の活用(1) ・MIDIシーケンサの活用と実践(1)	プリント配付、説明、演習	演習内容の復習とまとめ
21	デジタル画像と音情報の活用(2) ・MIDIシーケンサの活用と実践(2)	プリント配付、説明、演習	演習内容の復習とまとめ
22	デジタル画像と音情報の活用(3) ・MIDIシーケンサの活用と実践(3)	プリント配付、説明、演習	演習内容の復習とまとめ
23	知的財産権、著作権について(3) ・発表討議を実施(1)	発表、討議	事前理解：発表準備 発表内容の振り返りと修正
24	知的財産権、著作権について(4) ・発表討議を実施(2)	発表、討議	事前理解：発表準備 発表内容の振り返りと修正
25	個人情報について ・個人情報とは何か？ ・個人情報が流出するとどうなるのか？ ・流出を防ぐには？	プリント配付、解説、演習	演習内容の復習とまとめ
26	プレゼンテーションの手法(3) 効果的なプレゼンテーションを考える ・これまでに作成した課題を見直し、修正してみる	演習、修正課題の発表と討議	修正課題の作成
27	総合演習・課題調査、作品作成(1) ・各自課題テーマを決め、そのテーマに沿って調査研究、もしくは作品作りを実施 ・レポート、プレゼン資料の作成	課題プリント配付 説明、演習	課題の取り組み
28	総合演習・課題調査、作品作成(2) ・調査研究、もしくは作品作りを実施 ・レポート、プレゼン資料の作成	課題の取り組み	課題の取り組み
29	総合演習・調査内容、作品発表(1) ・発表と討議	発表、討議	各発表に対する評価 コメントの作成
30	総合演習・調査内容、作品発表(2) ・発表と討議	発表、討議	各発表に対する評価 コメントの作成
期末試験	後期まとめ ・前回までの発表、討議内容を踏まえ、課題内容（レポート、プレゼン資料）を修正、提出する	修正課題の取り組みと提出	事前学修：修正課題の取り組みと提出準備
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 全ての実習課題提出を単位認定の最低条件とし、以下の通り実施する。 詳細は、授業開始時に説明する。 ・総合課題：50%（前期まとめ20%、後期まとめ30%） ・授業内での個別課題・レポート：30% ・授業参加状況・態度：20%			
【教科書】 使用しない。 課題の詳細は、必要に応じネットワーク上あるいは、プリントで配付、説明する。			
【その他補足事項】 ・実習で作成するファイルを一時的に保存、持ち運ぶためのUSBフラッシュメモリを、各自準備すること。 ・授業への積極的な参加を希望するとともに、授業時間外での自主的実習を奨励する。 ・授業で配付するプリントの内容、および実施した演習内容について、必ず復習を怠らないこと。 ・なお、授業進行の状況により、内容の入れ替えや一部変更を実施する場合がある。 授業内容詳細は、オリエンテーションおよび各単元当初に詳しく説明する。			

授業科目名	生活教養		授業形態・単位数	講義及び演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 わたなべまさこ 渡辺雅子	宮代キャンパス	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、前期と後期の初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 学外実習にあたって、就職してからも、現代社会ではコミュニケーション能力が求められている。そのコミュニケーション能力の基本の一つは「マナー」である。 本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な、人間関係を円滑に図るためのマナー（社会人としての基本マナー、言葉遣いのマナー、訪問のマナー、対応のマナー、電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して修得する。 授業の後半では、会食のマナー（日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識）、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○ A	知識	○ B	技術・技能
	C	論理的思考力	○ D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
社会人に求められる基本的なマナーを学ぶことにより教養や知識を高める。そして、教養を兼ね備えた社会人となるように基本的なビジネスマナーを演習やケース・スタディ（事例研究）を通して身に付ける。	目標	A・B・D・K・L		
会食のマナーでは、これからの日常生活の中でも実践し、基本的な食作法（箸使い、カトラリーの使い方など）ができるようにする。	目標	A・B・L		
冠婚葬祭お付き合いのマナーでは、特に学生が将来、保育者になることを視野に入れ、冠婚葬祭の「冠」では、乳幼児にまつわる祝い事の基礎知識とその祝い方を理解する。「祭」の年中行事では、保育施設などで行われる様々な行事(節分、ひな祭り七夕、クリスマスなど)の由来と祝い方などの基本を理解し、子どもたちへ日本の伝統文化を継承していくことの大切さを認識する。	目標	A・B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 あなたのマナー好感度はどれくらい？ 訪問のマナー(1) ・事前準備 ・玄関先でのマナー	授業計画 スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「スマステ」長寿の祝い(5分) 「まる得マガジン」 スマートなマナー①(5分)	予習・復習 教科書 P 32～34、 P 164～165、 P 171 配付資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) ・席次のマナー ・客間でのマナー①	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「京都の作法」（7分） 「Qさま：上座・下座」（5分）	予習・復習 教科書 P 27～37、 P 44～48 配付資料
3	訪問のマナー(3) ・客間でのマナー② ・辞去のマナー ◎事例研究①	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートなマナー②（5分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 27～37、 P 44～48 配付資料 課題：実習依頼の 言葉遣い
4	訪問のマナー(4) ・茶菓のいただき方 ・もてなしのマナー ◎事例研究②	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートなマナー③（5分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 36、39～43、 P 47 配付資料 課題：就職活動の 言葉遣い
5	■小テスト(1) ～訪問のマナー 電話のマナー(1) ・対応のポイント ・かけ方の基本 ◎事例研究①	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「会社の星（電話）」（7分） 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書 P 70～74 配付資料 課題：実習先に電話を かける（言葉遣い）
6	電話のマナー(2) ・かけ方の応用 ◎事例研究②	スライド・教科書・配付資料 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書 P 70～76 配付資料 課題：就職活動で電話を かける（言葉遣い）
7	電話のマナー(3) ・うけ方の基本と応用①	スライド・教科書・配付資料 電話機を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 77～81 配付資料
8	電話のマナー(4) ・うけ方の応用② ・伝言メモの留意点 ◎うけ方の事例研究① ・伝言メモの作成①	スライド・教科書・配付資料 電話機を使用しての演習 DVD視聴 「スマステ」（3分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 77～81 配付資料 課題：伝言メモ（清書）
9	電話のマナー(5) ◎うけ方の事例研究② ・伝言メモの作成②	スライド・教科書・配付資料 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書 P 77～81 配付資料 課題：伝言メモ（清書）
10	■小テスト(2) ～電話のマナー 対応のマナー(1) ・来客対応の心構え ・受付の基本 ・名刺の受け渡し	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「会社の星（名刺）」（5分） 名刺と名刺入れを使用しての 演習	予習・復習 教科書 P 19～26 配付資料 課題：受付での言葉遣い
11	対応のマナー(2) ◎受付の事例研究 ・取り次ぎ、案内、見送りの仕方 ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導①	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「スマステ」（3分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 19～26 配付資料
12	会食のマナー 西洋料理のマナー(1) ・レストランでの基本マナー ・メニュー、テーブルセッティング ・食べ方のマナー① ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導②	スライド・教科書 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートな食べ方の流儀① 10分（5分×2項目） ナプキン・カトラリー・洋食 器等を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 128～132

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	会食のマナー 西洋料理のマナー(2) ・食べ方のマナー② ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導③	スライド・教科書 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートな食べ方の流儀② 10分（5分×2項目） カトラリー・洋食器等を使用 しての演習	予習・復習 教科書 P 132～134
14	◆学外授業「テーブルマナー演習」実施	西洋料理テーブルマナーの 実践	予習・復習 教科書既修内容を 再確認 課題「学外授業」 レポート ➡次回提出
15	学外授業「テーブルマナー演習」事後指導 会食のマナー 西洋料理のマナー(3) ・お酒の知識 前期まとめ・前期末試験の説明	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「ワインについて」5分 各種グラスを使用しての演習	予習・復習 教科書 P 135 配付資料
16	前期末試験	筆記試験	教科書・配付資料 既修内容を再確認
17	前期末試験の解説 言葉遣いと人間関係のマナー(1)	スライド・教科書・配付資料	予習・復習 教科書 P 50～68 配付資料
18	言葉遣いと人間関係のマナー(2) 会食のマナー 日本料理のマナー(1) ・日本文化としての箸のマナー ・日本料理の心得	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「和風総本家 意外と知らない 箸のマナー」(20分) 箸と椀を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 50～68、 P 112～113 配付資料
19	会食のマナー 日本料理のマナー(2) ・日本料理の種類 ・食べ方のマナー ・日本酒	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「京のいっぴん物語」(7分) 箸と和食器を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 112～120 配付資料
20	会食のマナー 中国料理のマナー(1) ・中国料理の種類 ・回転台の使い方 ・食べ方のマナー ・飲茶の楽しみ方	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴「もっとおいしく 中国料理の楽しみ方」(15分) れんげの使い方の演習	予習・復習 教科書 P 124～127 配付資料
21	会食のマナー 中国料理のマナー(2) ・中国茶 ・中国酒 会食のマナー パーティーマナー(1) ・パーティーマナーの基礎知識 ・立食パーティーマナーのポイント ・パーティーマナーの服装マナー	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴「日経おとなの OFF・中国茶」(7分) 「会社の星 会食マナー」① (7分) グラス・プレート・フォーク の持ち方の演習	予習・復習 教科書 P 127、 P 136～138 配付資料
22	会食のマナー パーティーマナー(2) ・料理の取り方 ・乾杯のマナー ■小テスト(3) ～会食のマナー（総合問題）	配付資料・グループワーク DVD視聴 「会社の星 会食マナー」② (10分)	予習・復習 席次、日本料理の作法、 言葉のマナー等、 既修内容を再確認
23	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(1) ・招待状の返信 ・祝電	スライド・配付資料 教材・祝電	予習・復習 教科書 P 156～157 配付資料
24	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(2) ・祝品と祝金 ・表書きの書き方	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴「六曜」(7分) 「結婚に招かれたとき 招待客の礼儀」(8分)	予習・復習 教科書 P 156～157、 172～174 配付資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(3) ・服装のマナー ・当日のマナー	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「テーブルスピーチ」(5分) 「会社の星 招待客のマナー」(7分)	予習・復習 教科書P138・157 配付資料
26	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月	スライド・配付資料 DVD視聴 「和風総本家 お正月の過ごし方」(20分)	予習・復習 配付資料 「年中行事」
27	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(2) 1月～6月	スライド・配付資料 DVD視聴 「節分」(8分) 「ひな祭り」(10分) 「端午の節句」(5分)	予習・復習 配付資料 「年中行事」
28	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(3) 7月～12月	スライド・配付資料 DVD視聴 「七夕の祝い方」(7分) 「スマステ8・9月の行事」 (12分) 「暦を歩く」(3分)	予習・復習 配付資料 「年中行事」
29	冠婚葬祭おつき合いのマナー 赤ちゃんとお子さんの祝い事 帯祝いから十三参りまで	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「冠婚葬祭女王決定 内祝い」(7分)	予習・復習 教科書P158～162 配付資料 「人生の祝い事」
30	冠婚葬祭おつき合いのマナー 弔問のマナー お葬式の手順、お悔やみの言葉、弔電、 弔慰金、供物・供花、服装のマナー、 告別式・通夜でのマナー	スライド・教科書・配付資料 DVD視聴 「お葬式の心得 お香典・ お焼香悩み解決」(7分)	予習・復習 教科書P166～170 配付資料 「弔問のマナー」
期末 試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 後期末試験終了後、希望者には後期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 前期末試験（筆記試験） … 35% 2. 後期末試験（筆記試験） … 40% 3. 学外授業レポート（1回） … 10% 4. 小テスト（3回） … 15% ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。			
【教科書】 書名：新生活教養 著者名：近喰晴子・三村善美他 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 1. 配付資料を整理するための専用ファイル1冊を準備すること。 2. 学外授業、演習実施など、指定された場合には、スーツを着用すること。 なお、指定されたスーツ以外で出席している場合は、1回につき成績評価から1点ずつ減点する。 3. 基本実習、学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。 4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出ること。（申し出がなかったら出席扱いとはしないので注意すること） 5. 学外授業「テーブルマナー演習」は、保育学科とこども学科は合同で9月、もしくは12月の土曜日に実施する。 6. 学外授業「テーブルマナー演習」食事代の一部として、一人あたり2,200円の実費を徴収する。			

授業科目名	生活と安全		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 黒 津 康 司		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園や保育所における軽傷事故は日常的に発生しており、また、死亡等に至る重大事故も毎年発生している。さらに、幼稚園等の内外において、子どもをねらった事件が頻発しており、今や幼稚園教諭や保育士にとって（保護者にとっても）、日々の業務（生活）の中で子どもの安全を確保することは重要な課題となっている。 本授業においては、さまざまなケースを通して事故等を分析することにより、事故等を予兆的に捉え、保育等における事故等の未然防止を図ろうとするものである。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
危機管理の観点から、保育業務全体を見る目を養うことができる。		目標	A・C・D・K
子どもが被害者となる事件・事故の現状等を学ぶことにより、保育時等における園児の安全を確保するための留意点等を身につけることができる。		目標	A・B・D・I・K
クレーム事案への対処方法を通じて、保護者との関係の在り方に関する基礎知識を習得することができる。		目標	A・B・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	1. オリエンテーション ～「生活と安全」において何を学ぶか？ (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (受講時の留意点等) 2. 保育における危機管理とは	・授業計画 ・各回ともレジュメ、参考資料を配付して行う ・発表も求める ・適宜DVDを使用する	<input type="radio"/> 幼稚園・保育所に関する事件・事故報道に関心をもち、授業内容との関連性を考える習慣を身につけること <input type="radio"/> 各回に配付した参考資料は必ず読了すること
2	子どもが被害者となる犯罪の現状(1) ・「子ども」が被害者となる犯罪にはどのようなものがあるか ・子どもの性被害の現状と課題	・講義 ・各種統計資料 ・DVD (10分) 「5つのお願い」	配付資料を事前学習のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	子どもが被害者となる犯罪の現状(2) ・児童虐待の現状とその特徴 ・児童虐待の早期発見と早期保護	・講義 ・DVD（20分） 「児童を虐待の被害から守るために」	報道された虐待事例について調べておくこと
4	子どもが被害者となる犯罪の現状(3) ・児童虐待の現状とその特徴 ・児童虐待の早期発見と早期保護	・講義 ・DVD（20分） 「児童を虐待の被害から守るために」	報道された虐待事例について調べておくこと
5	幼稚園・保育所における事件・事故の現状 ・最近5年間の状況 ・業務上過失犯とは ・管理者、保育士等の責任	・講義 ・配付資料	配付資料を事前学習のこと
6	幼稚園・保育所における事故事例(1) ・事例研究	・配付資料 ・発表・討議 ・解説	○ 配付資料を事前研究し、発表資料をまとめること ○ 事前に発表練習をしておくこと
7	幼稚園・保育所における事故事例(2) ・事例研究	・配付資料 ・発表・討議 ・解説	○ 配付資料を事前研究し、発表資料をまとめること ○ 事前に発表練習をしておくこと
8	幼稚園・保育所における事故事例(3) ・事例研究	・配付資料 ・発表・討議 ・解説	○ 配付資料を事前研究し、発表資料をまとめること ○ 事前に発表練習をしておくこと
9	幼稚園・保育所における事故防止対策(1) ・保育態様別着眼点 ・実技要領	・講義 ・配付資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと
10	幼稚園・保育所における事故防止対策(2) ・保育態様別着眼点 ・実技要領	・講義 ・配付資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと
11	幼稚園・保育所における事故防止対策(3) ・保育態様別着眼点 ・実技要領	・講義 ・配付資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと
12	幼稚園・保育所における危機管理(1) ～万一事件等が発生した場合の措置 ・犯罪者等の侵入事案 ・不審者情報・危険情報等への対応	・講義 ・配付資料 ・実技	配付資料を事前学習のこと
13	幼稚園・保育所における危機管理(2) ・地震等への対応 ・その他	・講義 ・配付資料 ・DVD（20分） 「3.11その時、保育園は」	3.11大震災に関する課題レポートを事前に提出すること
14	幼稚園・保育所に対する要望・苦情等への対応(1) ・要望・苦情等をどう捉えるか ・基本的な考え方と具体的対応要領	・講義 ・配付資料 ・一部討議	配付資料を事前学習のこと
15	幼稚園・保育所に対する要望・苦情等への対応(2) ・非常識なクレーム及びクレマーの存在 ・事例に基づく対応要領 講義のまとめ・総括	・講義 ・配付資料 ・一部討議	配付資料を事前学習のこと 対応要領を研究しておくこと

【到達度の評価（評価方法・基準）】

100点満点とし、その割合は、小論文・レポートの結果：60%、ミニテストの結果：40%とする。

1. 小論文・レポート：授業内容に沿って2回くらい課題を与えて行う。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。
2. ミニテスト：授業内容の理解度を確認するため、4～5回行う。問題との整合性、構成、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。
3. その他：遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。

【参考書】

1. 書名：保育園における事故防止と安全管理
著者名：田中哲郎
発行所：日本小児医事出版社
価格：2,500円（税別）

2. 書名：保育園における危険予知トレーニング
著者名：田中哲郎
発行所：日本小児医事出版社
価格：1,800円（税別）

3. 書名：保育士と考える実践保育リスクマネジメント講座
著者名：関川芳孝
発行所：社会福祉法人全国社会福祉協議会
価格：1,200円（税別）

【その他補足事項】

1. 「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること（質の高いノートの作成に努めること）。
2. 授業順序及び内容は、学生の理解の進度、大学行事等により、変更する場合もあり得る。

授業科目名	音楽演習（音楽鑑賞）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ブルース・ヒューバナー		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 この授業は、音楽が人格形成に欠かせないものであることを前提としている。 すなわち社会、家族、自らのアイデンティティ、身体および精神の両方が、音楽によって質の高いものに向上する。また、音楽が人生の全てを変えてしまうことさえあるということを学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
音楽・音に対し知性的な考察ができ且つ、洗練された鑑賞力と選択力を養うことを目指す。それにより音楽を楽しみ、豊かな感性を育むことを目標とする。			目標	A・E・F・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1章 音楽的な生活 パート1：私の音楽生活の瞬間 自己紹介	授業計画 リスニングセッション 音楽を聴く方法 音楽の記述 レクチャー／デモンストレーション	授業計画を事前に読んでおく
2	パート2：音楽的な生活とは？	リスニングセッション 小泉文夫『子守唄の社会学』 レクチャー／デモンストレーション	小泉文夫氏について調べておく
3	パート3：根と枝 伝統と革新 音楽のパトロン 音楽を経済的にどのように支えたか？	リスニングセッション 小泉文夫『わらべうたと民族性』 映画：アマデウス	モーツァルトについて調べておく
4	パート4：音楽制作の現場 楽譜	リスニングセッション Comparison of World Notation Systems, 映画：アマデウス	配付資料等で前回授業の復習をしておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	パート4：音楽制作の現場 アンサンブル	リスニングセッション DVD 映画：アマデウス	配付資料等で前回授業の復習をしておく
6	2章 音楽と空間	リスニングセッション 小泉文夫『人はなぜ歌をうたうか：音楽の場』 映画：アマデウス	配付資料等で前回授業の復習をしておく
7	パート1：音楽の進化 自然界の音	リスニングセッション CD／YouTube	配付資料等で前回授業の復習をしておく
8	パート2：「アーティスト」と素材 世界の楽器について	リスニングセッション 音楽と自然：尺八 自然と文化の先端について：尺八の作り方	尺八について調べておく
9	パート3：「アーティスト」と素材 建築と音楽の平行進化	リスニングセッション TedTalk 音楽と建築 DVD	配付資料等で前回授業の復習をしておく
10	3章 音楽の力	リスニングセッション 小泉文夫『アジアの音楽・ヨーロッパの音楽』 ゲストレクチャー DVD	配付資料等で前回授業の復習をしておく
11	パート1：音楽と世代 1960's：ヒップホップ	リスニングセッション 映画：『ウッドストック』 CD／YouTube	配付資料等で前回授業の復習をしておく
12	パート2：政治的運動と音楽 ボブ・マーリー、ジョン・レノン	リスニングセッション ドキュメント『ボブ・マーリー』 CD／YouTube	ボブ・マーリーとジョン・レノンについて調べておく
13	パート3：宗教音楽	リスニングセッション 小泉文夫『仏教音楽から学ぶもの』 CD／YouTube	仏教音楽について予習しておく
14	Survey of Sound Environment 学生研究発表：音楽環境検査	リスニングセッション	発表できるよう準備しておく
15	Survey of Sound Environment 学生研究発表：音楽環境検査	リスニングセッション	発表できるよう準備しておく
16	4章 音楽は言語 パート1：言語の学習と音楽の学習	リスニングセッション	配付資料等で前回授業の復習をしておく
17	パート2：音楽でストーリーを伝える手法	リスニングセッション Case Study：山田流箏曲『竹生島』 レクチャー／デモンストレーション	箏曲『竹生島』について調べておく
18	パート2：音楽でストーリーを伝える 緊張と解放 音楽形式	リスニングセッション レクチャー／デモンストレーション	配付資料等で前回授業の復習をしておく
19	パート3：即興	リスニングセッション DVD／CD／YouTube	配付資料等で前回授業の復習をしておく
20	5章 ジャズ パート1：ジャズの本質 L. アームストロングとジャズソロ	リスニングセッション Film：Ken Burns Documentary The History of Jazz レクチャー／デモンストレーション	L. アームストロングについて調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	パート2：アメリカの芸術形式？ ジャズの歴史	リスニングセッション Film：Ken Burns Documentary The History of Jazz ゲストレクチャー	ジャズについて調べておく
22	パート3：世界におけるジャズの影響	リスニングセッション Film：Ken Burns Documentary The History of Jazz DVD／CD／YouTube	配付資料等で前回授業の復習をしておく
23	6章 三つの窓：音楽家、楽器、ジャンル	リスニングセッション	
24	パート1：ひとりの音楽家： レナード・バーンスタイン ～指揮者として～	リスニングセッション DVD／CD／YouTube	レナード・バーンスタインについて予習しておく
25	レナード・バーンスタイン ～作曲家として～	リスニングセッション DVD	配付資料等で前回授業の復習をしておく
26	レナード・バーンスタイン ～教育者として～	リスニングセッション DVD／CD／YouTube	配付資料等で前回授業の復習をしておく
27	パート2：ひとつの楽器：スチールパン トリニダードから世界へ	リスニングセッション ゲストレクチャー	トリニダード・トバコについて予習しておく
28	パート3：ひとつのジャンル：ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD／YouTube	ハリウッド映画について調べておく
29	パート3：ひとつのジャンル：ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD／YouTube／DVD	配付資料等で前回授業の復習をしておく
30	被災地と音楽	リスニングセッション ゲストレクチャー	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 研究レポート提出（60％）・レポート発表（40％） ※定期試験は実施しない。 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退、授業中の態度等による減点を行う。 *詳しくは初回授業時に説明する。			
【その他補足事項】 教材としてCD、DVD、YouTube等を使用。プリントを配付する。			

授業科目名	音楽演習 (ポップスの世界)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年生
担当教員 (職名・氏名)	准教授	ながくぼ かずこ 長久保 和子	開講期	通年
	非常勤講師	さとう かおり 佐藤 香	授業回数	30回
	(本務先：キャンダンススクール 職名：校長)		期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 <p>本科目では、個人またはグループで好きな歌を3～4曲選び、自分たちで構成をアレンジしながら、音楽を通して自分を表現することを学ぶ。</p> <p>歌唱の他に、振り付け、音響、照明、衣装等を自分たちで考え工夫し、総合的な音楽表現を取り入れながら一つの作品に仕上げる。</p> <p>また、年間3回の発表会でパフォーマンスの実験を経験すると同時に、演奏会の運営(プログラム作成、受付、会場案内等)についても学ぶ。</p>	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
歌唱や踊りを通して、総合芸術としての作品を仕上げる中で、自己の表現方法を知る。			目標	A・B・E・F・K
演じることを楽しみ、なおかつ、観客をも楽しませるといったエンターテインメントを追求する。			目標	A・H・J・K
グループを組み、また履修者全員で一つの作品を仕上げていく中で、仲間と共に集い創作する上での喜び、協調性や達成感を味わう。			目標	G・K・L
発表会の場数を踏むことで「人前で演じる」ことを通して自分への自信につなげていく。			目標	E・F・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要の説明 ・年間3回の発表会(後期末試験)について ・リーダーと各役割を決める ・第1回の発表会に向けて8曲を決める 履修者一人ずつカラオケシステムで歌う 今までの発表会について(DVD鑑賞)	授業計画 ・カラオケシステム ・DVD ・履修者全員でのディスカッション ・歌唱	・全員用曲の構成を練る ・曲の音源を各グループで準備 ・曲目の一覧表作成
2	年間3回の発表会の細かな説明 教室の使用方法和借用について FCメイツにて各グループの歌唱指導(8曲) ・発声、柔軟 ・グループごと構成(振付等)の指導	・グループ練習 ・カラオケシステム ・履修者全員でのディスカッション ・音響設定	・ハモリや振りの構成を練る ・グループごと割り振った歌詞カードを作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	千葉記念ホールで各グループの歌唱指導 <ul style="list-style-type: none"> 指導点を改善し変更点を確認 グループごと構成（ハモリ、振付等）の指導 全員で歌う曲の振付練習と指導 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 カラオケシステム 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 動きやすい服装、上履き準備
4	ダンス指導（佐藤 香担当） <ul style="list-style-type: none"> 柔軟とダンスの基本 振り付けの仕方 ステージマナーについて 各曲の構成、歌唱指導（長久保 和子担当）	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループごとのディスカッション 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 振付や構成、ハモリの練習 衣装を持参
5	千葉記念ホールで各グループの歌唱指導 <ul style="list-style-type: none"> 指導点を改善し変更点を確認 衣装の確認、曲順の決定 グループごと構成（ハモリ、振付等）の指導 全員で歌う曲の振付とハモリの確認 プログラム、ポスターの構想	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 カラオケシステム 音響設定 プログラム、ポスター係でのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 衣装を持参 プログラムとポスターの原案提出
6	発表会の会場となるスペイン広場の下見 千葉記念ホールで各グループの歌唱指導 <ul style="list-style-type: none"> 指導点を改善し変更点を確認 衣装の決定 グループごと構成（ハモリ、振付等）の指導 全員で歌う曲の振付とハモリの最終確認 プログラム、ポスターの原案提出	<ul style="list-style-type: none"> 立ち位置確認 歌唱、ダンス グループ練習 カラオケシステム 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 衣装を持参 プログラムとポスター修正 動きやすい服装、上履き準備
7 ・ 8 ・ 9	各グループに分かれて指導（8曲） <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟 ダンス指導（佐藤 香担当） 歌唱指導（長久保 和子担当） 指導点を改善し変更点を確認 衣装、プログラム、ポスターの確認	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 カラオケシステム 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 プログラムとポスターを持参 動きやすい服装、上履き準備
10	第1回発表会に向けての全体リハーサル <ul style="list-style-type: none"> 指導点を改善し変更点を確認 8曲の構成等最終確認 ダンス指導（佐藤 香担当） 歌唱指導（長久保 和子担当） 衣装、プログラム、ポスターの最終確認	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 発表会運営練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 衣装を持参 プログラムとポスターの清書
11	第1回発表会の説明（スペイン広場） <ul style="list-style-type: none"> 当日の流れや立ち位置などの確認 司会の決定、音響の使い方 プログラムについて 全体練習（立ち位置確認 8曲） プログラム、ポスターの提出	<ul style="list-style-type: none"> 履修者全員でディスカッション 立ち位置の確認 歌唱、ダンス グループ練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 発表会に備え練習 衣装を持参
12 ・ 13	第1回発表会のリハーサルを行う（各週4曲） <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟 指導点を改善し変更点を確認 実際の順番に沿って練習 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 発表会運営練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 役割や衣装など最終確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	<p>第1回発表会の実施（授業時間外に実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> スペイン広場で発表会を行う 発表会の運営について学ぶ <p>※7月中旬の昼休み時2回に分けて実施予定</p> <p>第1回発表会の反省（DVD鑑賞）</p> <ul style="list-style-type: none"> 反省、アドバイス、今後の改善点を含め、ディスカッションする <p>第2回発表会の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 当日の流れ、会場について 曲目の決定（4曲） <p>プログラム、ポスターの構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス 発表会運営 音響設定 DVD 履修者全員でのディスカッション グループ練習 カラオケシステム プログラム、ポスター係でのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の感想や反省等をまとめる 衣装、構成、振付、司会、BGM等役割の決定 プログラムとポスターの原案提出
15	<p>千葉記念ホールで歌唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟 各曲の衣装の確認 曲順の決定 曲ごと立ち位置を確認（4曲） グループごと構成（ハモリ、振付等）の指導 全員で歌う曲の振付とハモリの練習 <p>プログラム、ポスターの原案提出 運営係（司会、BGM等）の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループごとのディスカッション 歌唱、ダンス グループ練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 発表会に向け、練習 プログラムとポスターの原案の修正、持参 衣装を持参
16	<p>第2回発表会に向けての全体リハーサル①</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導点を改善し変更点を確認 構成、衣装、化粧等の最終確認 BGM、司会を入れて立ち位置確認 プログラムについて <p>プログラム、ポスターの最終確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 発表会運営練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 プログラムとポスターの清書提出
17	<p>第2回発表会に向けての全体リハーサル②</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導点を改善し変更点を確認 実際の順番に沿って全体練習 ダンス指導（佐藤 香担当） 歌唱指導（長久保 和子担当） <p>プログラム、ポスターの提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ練習 発表会運営練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 役割や衣装などの最終確認
18	<p>第2回発表会の実施（のぎく祭）</p> <ul style="list-style-type: none"> 前日にリハーサルを実施（授業時間外に実施） 千葉記念ホールで発表会を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、ダンス グループ発表 発表会運営 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の感想や反省等をまとめる
19	<p>第2回発表会の反省（DVD鑑賞）</p> <ul style="list-style-type: none"> 反省、アドバイス、今後の改善点を含め、ディスカッションする <p>後期末試験（第3回発表会）の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 当日の流れ、会場について 曲目とグループの決定（4曲） <p>プログラム、ポスターの構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> DVD 履修者全員でのディスカッション グループ練習 カラオケシステム プログラム、ポスター係でのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> 衣装、構成、振付、ハモリ、司会、BGM等の役割決定 プログラムとポスターの原案提出
20	<p>千葉記念ホールで歌唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣装の確認、曲順の決定 立ち位置確認 グループごと構成（ハモリ、振付等）の指導 全員で歌う曲の振付とハモリの練習 <p>プログラム、ポスターの原案提出 運営係（司会、BGM等）の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループごとのディスカッション 歌唱、ダンス グループ練習 音響設定 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点を改善 プログラムとポスターの修正 衣装を持参 動きやすい服装、上履き準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21 ・ 22 ・ 23	各グループに分かれて指導（4曲） ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱指導（長久保 和子担当） ・指導点を改善し変更点を確認 衣装、プログラム、ポスターの最終確認	・歌唱、ダンス ・グループ練習 ・音響設定 ・履修者全員でのディスカッション	・指導を受けた点を改善 ・プログラムとポスターの修正 ・動きやすい服装、上履き準備
24 ・ 25 ・ 26 ・ 27	第3回発表会に向けての全体リハーサル① ・指導点を改善し変更点を確認 ・構成、衣装、化粧等の最終確認 ・BGM、司会を入れて立ち位置確認 ・プログラムと舞台進行について ・実際の順番に沿って全体練習 プログラム、ポスターの提出	・歌唱、ダンス ・グループ練習 ・発表会運営練習 ・音響設定	・指導を受けた点を改善 ・プログラムとポスターの清書 ・役割や衣装などの最終確認
28 ・ 29	第3回発表会に向けての全体リハーサル② ・指導点を改善し変更点と衣装を確認 ・第3回発表会同様に進行 ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱指導（長久保 和子担当）	・歌唱、ダンス ・グループ練習 ・発表会運営練習 ・音響設定	・指導を受けた点を改善 ・役割や衣装など最終確認
30	最終リハーサル実施（授業時間外に実施） ・業者と確認しながらリハーサルを進める ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱指導（長久保 和子担当） 第3回発表会の実施（後期末試験） (授業時間外に実施)	・歌唱、ダンス ・グループ練習 ・発表会運営練習（業者参加） ・発表会運営	・発表会の感想や反省等をまとめる

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 3回の発表時、声量と音程・リズムの正確性、音域や曲の雰囲気・振り付け等の適正を重視した総合的な完成度（3回目の発表時は、担当教員が依頼する教員の審査）を60%とする。
 2. 授業に取り組む姿勢、発表会にかける意欲、歌唱やダンスにおける能力の向上を30%とする。
 3. 周りとの協力・協調性といったコミュニケーション能力の向上を10%とする。
- ※詳細は初回授業にて説明する。

【その他補足事項】

1. 初回の授業はFCメイツで行う。
2. その後の教室は、千葉記念ホール、FCメイツ、リハーサルルームを使用し、授業終了時に次回の場所を指示する。
なお、履修人数によっては、図書館情報センタースタジオを使用することもある。
3. FCメイツ以外はカラオケシステムがないことから、事前に自分たちで音源を準備し、実施するようにする。また、教務課からデッキ・ワイヤレスマイク、および千葉記念ホールのマイクを可能な限り借用して実施する。
4. 完成度によっては、学位記授与式メモリアルコンサート、入学式に出演する場合もある。その場合は、授業とは別に練習を行う。
5. 履修者が多い場合、歌唱審査で履修者数の制限を行う。

授業科目名	美術演習（粘土細工を楽しむ）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 （職名・氏名）	兼任教授 古畑雅規		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけではなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）	
作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。			目標	A・B
さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。			目標	B・C
意欲をもって楽しく学ぶ。			目標	F・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点）	授業計画	
2	動物の絵画の制作 構図を考え下描きをする	イラストボード エンピツ など	描きたい動物の資料を用意する
3	動物の絵画の制作 背景を考えながら下描きをする	イラストボード エンピツ など	身近な動植物の観察
4	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えながら下描きをする	エンピツ、ペン など	身近な動植物の観察
5	動物の絵画の制作 絵具を使って着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
6	動物の絵画の制作 陰影を考えて着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
7	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えて仕上げ	定着スプレー	身近な動植物の観察

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	動物のオブジェの制作 土台づくり	板、粘土 など	制作する対象の資料を用意する
9	動物のオブジェの制作 基礎の形づくり	アルミハク、粘土 など	制作する対象の資料を用意する
10	動物のオブジェの制作 骨格を正確に制作する	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
11	動物のオブジェの制作 少しずつ肉付けをする	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
12	動物のオブジェの制作 ボリューム感をだす	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
13	動物のオブジェの制作 背景も同時に制作する	アルミハク、粘土 など	身近にある物の色の観察
14	色鉛筆の使い方の学習 力の加減による色の変化を見る	色鉛筆	身近にある物の色の観察
15	色鉛筆の使い方の学習 グラデーションの学習	色鉛筆	身近な動植物の観察
16	オブジェの制作の続き	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
17	動物のオブジェの制作 形を完成させる	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
18	動物のオブジェの制作 絵具を使って着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
19	動物のオブジェの制作 グラデーションをとり入れる	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
20	動物のオブジェの制作 全体のバランスを整え仕上げ	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
21	粘土を素材とする立体の風景の制作 下描き	スケッチブック、エンピツ など	制作する対象の資料を用意する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 絵画と立体の部分を分けて考える	スケッチブック、エンピツ など	制作する対象の資料を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 土台づくり	粘土 など	制作する対象の資料を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 立体になる部分の制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 質感なども考えて制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 背景を考える	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 水彩、アクリル絵具で着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ボリューム感を出す	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 全体の色のバランスを考えて着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
30	粘土を素材とする立体の風景の制作 仕上げ 一年間のまとめ	水彩、アクリル絵具、 定着材 など	
【到達度の評価（評価方法・基準）】			
1. 作品評価 70%（制作時間に見合った達成度、工夫、ボリューム） 2. 授業態度 30%（作品への意欲で評価）			
【その他補足事項】			
1. 材料費として2,700円を徴収する。 2. 授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。			

授業科目名	美術演習（造形を楽しむ）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 ^{すず} 鈴木 ^{みき} 美樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「美術」は、ものの見方を広げると同時に、コミュニケーションを可能にしてくれる。本演習では、専門性につながるそれら教養としての「美術」を学ぶものである。 具体的には「造形遊び」などの様々な今日的表現を通して、ものを作り出す喜びを味わう。季節に応じた製作の中で自然に親しみ、各月ごとの「歳時記」の記述を通して、感性を豊かにする。また、美術の史的背景を、ビデオ等を用いて解説も行う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
様々な「作品」の製作を通して、美術の楽しさや奥深さを味わうことができるようになる。			目標	A・B・F
自然に対しての興味・関心が育ち、そこから生み出された文化への理解を深められる。			目標	A・F・J
作品の製作や鑑賞を通して、美的感性が養われ、美術の基礎技能や表現力を高められる。			目標	A・B・F・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、今後の学習の進め方 春のキャンパスで自然観察を行う (自然観察のポイント)	授業計画 プリント① ※キャンパス内散策は天候による 散策の感想を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント①の復習 ワークシートの記入と提出
2	風を探してみよう ～紙を使って動くおもちゃをつくる	プリント② 折り紙、割り箸、ビーズなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 プリント②の復習
3	季節や行事のカードをつくってみよう(1) ～立体カードの構造を知る	プリント③ 画用紙、カッターなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント③の復習 空き時間を使って課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	季節や行事のカードをつくってみよう(2) ～基本のつくり方	プリント④ 画用紙、カッターなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント④の復習 空き時間を使って課題を進める
5	季節や行事のカードをつくってみよう(3) ～基本から応用へ	プリント⑤ 画用紙、カッターなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント⑤の復習 空き時間を使って課題を進める
6	季節や行事のカードをつくってみよう(4) ～様々な方法を試してみる	プリント⑥ 画用紙、カッターなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 プリント⑥の復習 空き時間を使って課題を進める 教材を探しておく
7	光で遊ぼう(1) ～光に当てると美しいものを見つける	様々な素材 OHP、スライド投影機を使用し、 自分が見つけたものを、伝え合う	自然観察と記録作成 ワークシートの記入と提出 作りたい題材を探しておく
8	光で遊ぼう(2) ～ステンドグラス製作の説明、下がき	プリント⑦ 画用紙、鉛筆などで製作する DVD視聴（20分）「藤城清治の世界」（映像利用） VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑦の復習 空き時間を使って課題を進める
9	光で遊ぼう(3) ～下がき（図案を決める）	画用紙、鉛筆などで製作する DVD視聴（20分）「藤城清治のギャラリー」（映像利用） VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
10	光で遊ぼう(4) ～下がき（構成を考える）	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
11	光で遊ぼう(5) ～下がきの完成、画用紙に転写し切り始める	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
12	光で遊ぼう(6) ～画用紙を切り抜く	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
13	光で遊ぼう(7) ～配色について	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
14	光で遊ぼう(8) ～ステンドグラスの完成	画用紙、鉛筆などで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
15	紙作りを体験しよう(1) ～牛乳パックからパルプをとる	プリント⑧ 牛乳パックなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント⑧の復習 紙にすき込む切紙を製作しておく
16	紙作りを体験しよう(2) ～基本の方法を学び、色紙や自然物をすき込む	牛乳パックなどで製作する	自然観察と記録作成 紙にすき込む切紙を製作しておく
17	紙作りを体験しよう(3) ～基本の方法から応用する	牛乳パックなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 紙にすき込む切紙を製作しておく
18	落ち葉で遊ぼう(1) ～様々な落ち葉、木の実を観察する	プリント⑨ ※キャンパス内散策(天候による) 散策の感想を述べる	自然観察と記録作成 プリント⑨の復習 ワークシートの記入と提出
19	落ち葉で遊ぼう(2) ～落ち葉を使って絵を描く、技法の習得	押し葉、画用紙、クレヨン、接着剤などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
20	落ち葉で遊ぼう(3) ～落ち葉で絵を描く、構想を練る	押し葉、画用紙、クレヨン、接着剤などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	落ち葉で遊ぼう(4) ～落ち葉で絵を描く、完成させる	押し葉、画用紙、クレヨン、接着剤などで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める クリスマスについて調べ、資料を準備する
22	クリスマスを楽しく飾ろう(1) ～クリスマスの由来を知る ツリーの台座を作る。松ぼっくりに着色する	クリスマスについて調べたことを述べる プリント⑩ 木の実、粘土、塗料などで製作する	自然観察と記録作成 プリント⑩の復習 空き時間を使って課題を進める
23	クリスマスを楽しく飾ろう(2) ～ツリーの台座を彩色する	木の実、粘土、絵具などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
24	クリスマスを楽しく飾ろう(3) ～リースの土台を作る	厚紙、画用紙などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
25	クリスマスを楽しく飾ろう(4) ～リースの飾り付けをする	厚紙、画用紙、木の実、粘土などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
26	クリスマスを楽しく飾ろう(5) ～ツリーの飾り付けをする	木の実、ビーズ、モールなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
27	「自然」と「芸術」を通した幼児教育を知ろう ～今日、世界で最も注目されている、イタリアの幼児教育の紹介	プリント⑪ VTR視聴（40分）「レッジョ・エミリア市の挑戦 — 子どもの輝く創造力を育てる」（映像利用） VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑪の復習 ワークシートの記入と提出
28	色彩の世界をのぞいてみよう ～色彩の文化史にふれる	プリント⑫ VTR視聴（40分）「世界・美の旅～世界を巡った謎の青」（映像利用） VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑫の復習 ワークシートの記入と提出
29	感性と表現について考えてみよう ～エイブル・アートについて	プリント⑬ VTR視聴（40分）「日曜美術館」（映像利用） VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑬の復習 ワークシートの記入
30	1年間のまとめ ～作品およびファイルの整理。反省と感想を記入し、作品ファイルを完成させる	作品、プリント⑭、ファイルをまとめる 1年間の感想を述べ合う	自然観察と記録作成 ワークシートの記入 ファイルの整理と提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品（提出状況や完成度）・提出物70%、受講態度30% ・「成績評価への補足的対応措置」による減点を行う。 ・「学生受講規程」に反する受講態度があった場合、注意3回で退室とし、欠席扱いとする。 ※詳細については、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：ポケット版 学研の図鑑 ② 植物 発行所：学習研究社 価格：960円（税別） ※授業内容に応じて、その都度資料を配付する。			
【参考書】 その都度、紹介する。			
【その他補足事項】 1. 材料費として1,400円程度の実費を徴収する。 2. 各自の準備物として、A4判のクリアファイル、自然物やリサイクル用品等が必要となる。 3. 実技を行うため、履修者は24名までとする。それを超える場合は調整することがあるが、特に第一希望の学生を優先する。 4. 履修人数や希望、天候、作業の進度により、一部内容が変わることもある。			

授業科目名	文学演習（読み聞かせ）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年生
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 やすだ 安田 かつみ 美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 子どもの年齢や発達に合わせたお話の選び方から、実際にお話しするときのポイントなどについて学ぶ。 各作品の基本的な留意点を学んだ後、読み聞かせの練習、全体での発表会など実践的な授業を行い、「読み聞かせ名人」を目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
お話の持つ魅力を再認識するとともに、保育の現場で子どもたちに読み聞かせをするときに、知っておかなければならない基本的な知識を修得する。			目標	A
発声、発音の基礎、人前で話すときの注意点を学び、聞き取りやすく、人を引き付ける読み聞かせの技術を身に付ける。			目標	B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標 授業の進め方 評価方法	授業計画 教科書	
2	お話の魅力 お話をするときの基本的な留意点 声の出し方の基礎	教科書 プリント	教科書の次回学習する範囲の下読み
3	1歳から2歳くらいのお話と話し方のポイント(1) 「この時期の子どもとお話」	教科書 VTR視聴 「絵本の読み方」15分	〃
4	1歳から2歳くらいのお話と話し方のポイント(2) 「この時期の子どもに適した絵本」	教科書 絵本	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	2歳から3歳くらいのお話と話し方のポイント(1) 「この時期の子どもとお話」	教科書 VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み
6	2歳から3歳くらいのお話と話し方のポイント(2) 「ももたろう」「大きなかぶ」	教科書	〃
7	2歳から3歳くらいのお話と話し方のポイント(3) 「おむすびころりん」「てぶくろ」	教科書	〃
8	読み聞かせの発表会(1)	発表 教科書	発表の練習
9	読み聞かせの発表会(2)	発表 教科書	発表の練習
10	3歳から4歳くらいのお話と話し方のポイント(1) 「この時期の子どもとお話」	教科書 VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み
11	3歳から4歳くらいのお話と話し方のポイント(2) 「三匹の子ぶた」「赤ずきんちゃん」	教科書	〃
12	3歳から4歳くらいのお話と話し方のポイント(3) グリム童話について 「シンデレラ」原作との比較	教科書 プリント	〃
13	3歳から4歳くらいのお話と話し方のポイント(4) 「白雪姫」原作との比較	教科書 プリント	〃
14	3歳から4歳くらいのお話と話し方のポイント(5) 「大工とおに六」「ブレーメンの音楽隊」	教科書	〃
15	読み聞かせの発表会(1)	発表 教科書	発表の練習
16	読み聞かせの発表会(2)	発表 教科書	発表の練習
17	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(1) 「この時期の子どもとお話」	教科書 VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み
18	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(2) 「さるかに」「花咲かじいさん」	教科書	〃
19	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(3) 「かぐや姫」「ねずみの嫁入り」	教科書	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(4) 「わらしべ長者」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
21	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(5) 「こびとのふしぎな臼」	教科書	〃
22	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(6) 「かさじぞう」「三枚のお札」	教科書	〃
23	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(7) イソップ童話について 「北風と太陽」「よくばりな犬」	教科書 プリント	〃
24	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(8) 「ぶたの計算」「こびととくつや」	教科書	〃
25	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(9) 「おおかみと七匹の子やぎ」	教科書	〃
26	4歳から5歳くらいのお話と話し方のポイント(10) 「ジャックと豆の木」	教科書	〃
27	読み聞かせの発表会(1)	発表 教科書	発表の練習
28	読み聞かせの発表会(2)	発表 教科書	発表の練習
29	子どもたちと楽しみたい絵本(1) 作品紹介	教科書 絵本	
30	子どもたちと楽しみたい絵本(2) まとめ	教科書 絵本	
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品の読み聞かせ60%、授業への参加態度10%、期末試験30%から客観的に評価する。 欠席、遅刻、早退、授業中の態度に関わる減点については、「成績評価への補足的対応措置」に従う。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：お話とその魅力 著者名：相馬和子 他 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）			

授業科目名	日本国憲法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{にいむらしげふみ} 新村 繁文 〔本務先：福島大学 職名：特任教授〕		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 日本国憲法の基本的原則について、各条文や判例を交えて解説していく。また本科目が教職免許の課程における必修科目である点を踏まえ、特に教育を受ける権利、幼児児童の権利擁護の観点を受講者と議論を深めていくよう進めていく。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
日本国憲法の基本理念・基本構造を正確に学ぶことをテーマとし、具体的な事例や設問に即して検討する。福祉国家理念を基礎にした20世紀の人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討し、人権、教育を受ける権利等について、実生活に如何に反映されているか、理解していくことを目標とする。			目標	A・C・D・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(法の世界と人権・権利) ～憲法にはいる前に、法の基本的概念を学ぶ	授業計画・レジюме	
2	近代市民憲法の成立と立憲主義(1) ～近代市民革命とその基本原理を学ぶ	レジюме・必要に応じ 補足資料	新聞等で関連記事を読む
3	近代市民憲法の成立と立憲主義(2) ～国民主権と権力分立の考え方を学ぶ	同上	同上
4	近代市民憲法の成立と立憲主義(3) ～自由権の基本権から社会権の基本権への展開	同上	同上
5	近代市民憲法の成立と立憲主義(4) ～社会権の基本権の考え方を学ぶ	同上	同上

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	基本権各論(1) ～憲法13条（個人の尊重、自己決定権、プライバシー等）を学ぶ	レジュメ・必要に応じ補足資料	新聞等で関連記事を読む
7	基本権各論(2) ～精神的自由権と経済的自由権の違いを学ぶ	同上	同上
8	基本権各論(3) ～憲法25条（生存権）を学ぶ	同上	同上
9	基本権各論(4) ～憲法26条（教育を受ける権利）の基本的考え方を学ぶ	同上	同上
10	基本権各論(5) ～子どもの権利について多面的に考える	同上	同上
11	基本権各論(6) ～憲法27条（勤労の権利）の考え方を学ぶ	同上	同上
12	統治機構各論(1) ～国会について学ぶ	同上	同上
13	統治機構各論(2) ～内閣について学ぶ	同上	同上
14	統治機構各論(3) ～裁判所について学ぶ	同上	同上
15	統治機構各論(4) ～憲法保障のあり方を学ぶ	同上	同上
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験を実施し、主としてその得点により成績評価する。試験は100点満点、適切な語句等を記入する穴埋め方式を中心とする。 ※詳細は、授業時に説明する。			
【教科書】 書名：いちばんやさしい憲法入門 著者名：初宿正典、高橋正俊、半沢広一、棟居快行 発行所：有斐閣 価格：1,600円（税別）			
【参考書】 適宜指示する。			

授業科目名	女性 の 保 健		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 お だ ま さ あ き 織 田 正 昭		開 講 期	前期・後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 女性の健康と疾患について、生まれる前（胎児）から乳幼児期に始まり、高齢期にいたるまでの女性のライフサイクルに合わせて教科書をもとにして学ぶ。併せて関連スライドとビデオ視聴により理解を深める。講義を通じて母性としての自己の健康状態を把握し、正しい知識を修得する。授業内では女性の保健に関わる社会的なトピックスをもとに受講者間で討論を行なう。おおむね5回ごとに確認のためにミニテストを行う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
女性として、また近未来の親として知っておくべき母性に関する基礎知識を修得する。			目標	A・C
ライフサイクルの立場から女性の一生にわたる保健、健康問題を理解する。特に、月経、妊娠、出産に始まり、乳幼児期、学童期、思春期、成熟期、更年期、老年期と、時期ごとに生じる様々な健康に関する身体的・生理的、心理的、社会的特性と機能を、母性の立場から考える。			目標	A・K
母子の健康に関する社会的トピックスに対して積極的関心を持ち、それらに対して自分の意見や考えを述べられるようにする。			目標	I・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 女性の健康の概念と歴史 女性のライフサイクル 生殖生理総論	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	女性の身体特性(1) ～生殖器の構造と機能 ～女性と先天異常	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
3	女性の身体特性(2) ～乳房の構造と機能を中心に ～異常の発見	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
4	月経の生理とホルモンの生化学、 月経異常と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
5	妊娠の成立と維持、分娩の生理 ～生理・生化学的変化の理解 ～男性の生殖生理	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
6	避妊と人工妊娠中絶	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
7	女性の疾患～気になる症状の理解 ～産後うつ	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
8	女性の疾患 ～子宮がん、卵巣がん ～子宮内膜症、子宮筋腫ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
9	女性の疾患 ～乳がんを中心に	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
10	性感染症 ～HPV,AIDSなどのSTDの現状と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
11	女性と予防接種 ～HPV、風疹などを中心に	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
12	更年期の健康、働く女性と高齢出産 ～先天異常 ～骨粗しょう症ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	不妊治療 ～生殖医療（代理出産）	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
14	女性に関する先端医療の現状 女性の性をめぐる社会問題 ～性暴力、DVほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
15	まとめ ～女性の保健をめぐる総合討論 ～女性の健康のための法律・制度	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する 関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい 視聴ビデオの意見・感想を作成しておく
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 講義全範囲を対象として期末試験として行う。 2. 課題発表 テキストをもとにあらかじめ割り振った課題の発表を評価する。 3. 中間ミニテスト 理解度確認のために講義4～5回ごとにミニテストを実施。終了後、授業内で採点する 4. 授業態度 知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。 最終的に 1. 60% 2. 10% 3. 20% 4. 10%の割合で総合評価する。			
【教科書】 書名：女性のライフサイクルとナーシング 著者名：高橋真理、村本淳子（編） 発行所：ヌーベルヒロカワ 価格：2,200円（税別）			
【参考書】 書名：ウイメンズヘルスナーシング概論 著者名：村本淳子、高橋真理（編） 発行所：ヌーベルヒロカワ 価格：1,900円（税別）			
【その他補足事項】 提示した参考書は教科書と対を成すものであり、できれば購入を勧めたい。			

授業科目名	英会話 I (ベーシックレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	オカンポ・メリッサ・プラザ	開講期	通年
	非常勤講師	たか はし りょう じ 高橋了治	授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択必修	
保育士資格		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。(オカンポ) 授業終了後に教室で質問等に対応する。(高橋)		

【授業の概要】 この授業では、英語の発音練習やリスニングを通して日常生活における基本的な英語表現や単熟語の習熟を図る。また、外国の文化や習慣やものの考え方にも注目して、異文化理解への関心を深め、場に応じた自己表現を英語で行えるよう指導する。 補助教材としてプリントを用いて保育現場で使われる語句にも触れる。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
テキストにてでてくる基本的な英単熟語を会話で応用できる。			目標	A・J
保育現場で使われる語句を会話で応用できる。			目標	A・J
様々な状況を想定しながら英語で簡単な自己表現ができる。			目標	D・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標、授業内容と進め方、その他留意点などについて	授業計画 テキストの使用法	Unit 1 の予習
2	Introduction 自己紹介(1)挨拶の表現 Unit 1 (p. 1～2) 名前と筆記体	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 の予習・復習 (音読と意味調べ)
3	Introduction 自己紹介(2)出身地・住まいなど Unit 1 (p. 3～4) 数字の読み方	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 の予習・復習 (音読と意味調べ)
4	Personal Information 趣味や身分など Unit 1 (p. 5～6) Be動詞 つながる音	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 復習と Unit 2 の 予習 (音読と意味調べ)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	Classroom Objects 教室内での会話 Unit 2 (p. 7~9) 主格 「~はどこにありますか」などの質問と応答	テキスト・CD プリント使用	Unit 2の予習・復習 (音読と意味調べ)
6	Rooms in the Home 家の中での会話 Unit 2 (p.10~13) 「~はどこにありますか」などの質問と応答	テキスト・CD プリント使用	Unit 2の予習・復習 (音読と意味調べ)
7	Places around Town 町中での会話 Unit 2 (p.14~16) 保育所内の部屋・施設など	テキスト・CD プリント使用	Unit 2の復習とUnit 3 の予習(音読と意味調べ)
8	Everyday Activities 毎日の行動・進行形(1) Unit 3 (p.17~19) 「今、何をしていますか」などの質問と応答	テキスト・CD プリント使用	Unit 3の予習・復習 (音読と意味調べ)
9	Everyday Activities 毎日の行動・進行形(2) Unit 3 (p.20~22) 保育所内の遊具など	テキスト・CD プリント使用	Unit 3の予習・復習 (音読と意味調べ)
10	Everyday Activities 毎日の行動・自由英作文 Unit 3 (p.23~24) 'You're'などの短縮形の発音	テキスト・CD プリント使用	Unit 3の復習とUnit 4 の予習(音読と意味調べ)
11	Everyday Activities 毎日の行動 Unit 4 (p.27~30) 所有格 室内での遊び	テキスト・CD プリント使用	Unit 4の予習・復習 (音読と意味調べ)
12	Everyday Activities 毎日の行動 Unit 4 (p.31~34) 場所を表す前置詞 園庭での遊び	テキスト・CD プリント使用	Unit 4の復習とUnit 5 の予習(音読と意味調べ)
13	Describing people and things 人や事物の特徴(1) Unit 5 (p.35~37) 補語と形容詞 Be動詞を含むYes-No Question	テキスト・CD プリント使用	Unit 5の予習・復習 (音読と意味調べ)
14	Describing people and things 人や事物の特徴(2) Unit 5 (p.38~41) 消える音 時刻の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 1~5の総復習 (読み方・基本単語の綴り)
15	前期末試験		Unit 1~5の総復習 (読み方・例文の暗唱)
16	Weather 天気 Unit 5 (p.42~44) 人の性格、感情など	テキスト・CD プリント使用	Unit 5の復習とUnit 6 の予習(音読と意味調べ)
17	Family Members (1) 写真を見ながら家族紹介(1) Unit 6 (p.45~48) Who, Whatなど疑問詞のまとめ	テキスト・CD プリント使用	Unit 6の予習・復習 (音読と意味調べ)
18	Family Members (2) 写真を見ながらの家族紹介(2) Unit 6 (p.49~51) 人物関係や家系図 強勢の位置	テキスト・CD プリント使用	Unit 6の予習・復習 (音読と意味調べ)
19	Describing Activities and Events Unit 6 (p.52~53) 場所を表す前置詞・副詞句	テキスト・CD プリント使用	Unit 6の復習とUnit 7 の予習(音読と意味調べ)
20	Places around Town 町中の施設・建物 Unit 7 (p.55~57) 'there'を使った表現 位置関係を示す前置詞句	テキスト・CD プリント使用	Unit 7の予習・復習 (音読と意味調べ)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	Locating Places 存在・所在の表現 Unit 7 (p.58~61) 道案内 ‘How many’ など数に関する質問・応答	テキスト・CD プリント使用	Unit 7の予習・復習 (音読と意味調べ)
22	Describing Apartments 室内や近所の様子 Unit 7 (p.62~66) 単数形と複数形 イントネーションチェック	テキスト・CD プリント使用	Unit 7の復習とUnit 8 の予習(音読と意味調べ)
23	Clothing 服装や色(1) Unit 8 (p.67~69) 形容詞 謝意の表現など	テキスト・CD プリント使用	Unit 8の予習・復習 (音読と意味調べ)
24	Clothing 服装や色(2) Unit 8 (p.70~73) 園生活で必要となるもの	テキスト・CD プリント使用	Unit 8の予習・復習 (音読と意味調べ)
25	Shopping for Clothing 買い物 Unit 8 (p.74~76) 形容詞 人の様子など	テキスト・CD プリント使用	Unit 8の復習とUnit 9 の予習(音読と意味調べ)
26	Languages and Nationalities (1) 言語と国名 Unit 9 (p.79~81) 現在形 3人称単数	テキスト・CD プリント使用	Unit 9の予習・復習 (音読と意味調べ)
27	Everyday Activities (1) 毎日の行動 Unit 9 (p.82~83) ‘do’, ‘does’ を使った質問と応答	テキスト・CD プリント使用	Unit 9の予習・復習 (音読と意味調べ)
28	Everyday Activities (2) 毎日の行動 Unit 9 (p.84~86) 献立や食事での英語	テキスト・CD プリント使用	Unit 9の復習とUnit 10 の予習(音読と意味調べ)
29	Habitual Actions (1) 毎日の日課・活動 Unit 10 (p.87~89) 消える音 疑問文と否定文	テキスト・CD プリント使用	Unit 10の予習・復習
30	文法の確認 口語表現の復習など	テキスト・CD プリント使用	各Unitの既習事項を 確認する
期末 試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー、もしくは学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 前期、後期末試験（各30%） 2. 授業への貢献、態度、提出物など（40%） ※成績評価への補足的対応措置により減点等を行う。			
【教科書】 書名：SIDE by SIDE: International Edition (Third Edition) 著者名：Steven J. Molinsky, Bill Bliss 発行所：Pearson Longman 価格：2,240円（税別）			
【その他補足事項】 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可）			

授業科目名	英会話Ⅱ (アドバンスレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 オカンポ・メリッサ・プラザ		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択必修	
保育士資格		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 社会のグローバル化に伴い、保育の現場でも外国人の子どもや保護者とかかわることが多くなってきた。本授業では保育の現場で話される会話を英語で修得する。 英語を学びながら、保育所や幼稚園の生活や子どもの発達を理解できるようにする。 保育現場で頻繁に使われる英語表現を修得する。基本的な英語構文や語彙力を身に付け、英語での自己表現力を高める。 またリスニングにも重点を置き、欧米人の話す英語を理解できる能力を身に付ける。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育現場で頻繁に使われる英語表現を修得する。			目標	A・B・D
基本的な英語構文や語彙力を身に付け、英語での自己表現力を高める。			目標	C・D・E・I
リスニングに重点を置き、欧米人の話す英語を正しく理解する。			目標	A・E

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・1年間の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ	授業計画	Chapter 1 (p. 6～8)の予習をしておく Chapter→Chap
2	Children's Garden(1) 保育所・幼稚園で使われる単語演習 保育所・幼稚園 ・保育所・幼稚園のクラス名、園児数、保育者の自己紹介、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 1 (p. 6～8)を復習し、Chap 1 (p. 9～11)の予習をしておく
3	Children's Garden(2) 自己紹介、会話演習 保育所・幼稚園 ・保育所・幼稚園のクラス名、園児数、保育者の自己紹介、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 1 (p. 9～11)を復習し、Chap 2 (p. 12～14)の予習をしておく
4	The First Day of the Intern-ship 実習初日(1) 台所用品、遊具などの単語演習 ・園にある遊び用具、給食用食器類などを覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 2 (p. 12～14)を復習し、Chap 2 (p. 15～17)の予習をしておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	The First Day of the Intern-ship 実習初日(2) 園児との会話演習 ・園にある遊び用具、給食用食器類などを覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 2 (p.15～17) を復習し、Chap 3 (p.18～20) の予習をしておく
6	Out We Go ! さあ、出かけましょう！(1) 園付近にある店、施設の単語演習 ・園の近くにある店や施設などを覚える、泣いてる園児をあやす、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 3 (p.18～20) を復習し、Chap 3 (p.21～23) の予習をしておく
7	Out We Go ! さあ、出かけましょう！(2) 散歩しながらの会話演習 ・園の近くにある店や施設などを覚える、泣いてる園児をあやす、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 3 (p.21～23) を復習し、Chap 4 (p.24～26) の予習をしておく
8	Splash, Splashバンシャバシャ、水しぶき(1) 水遊びでの単語演習 ・プールで遊ぶ時の用具その他の遊び（鬼ごっこ、ブランコ、積み木等）、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 4 (p.24～26) を復習し、Chap 4 (p.27～29) の予習をしておく
9	Splash, Splashバンシャバシャ、水しぶき(2) 水遊びをしながらの会話演習 ・プールで遊ぶ時の用具その他の遊び（鬼ごっこ、ブランコ、積み木等）、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 4 (p.27～29) を復習し、Chap 5 (p.30～32) の予習をしておく
10	Pancake Day ホットケーキの日(1) おやつ作りで使う単語演習 ・簡単な料理の作り方、材料・用具 ・おやつ時間の話し、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 5 (p.30～32) を復習し、Chap 5 (p.33～35) の予習をしておく
11	Pancake Day ホットケーキの日(2) おやつ作りながらの会話演習 ・簡単な料理の作り方、材料・用具 ・おやつ時間の話し、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 5 (p.33～35) を復習し、Chap 6 (p.36～38) の予習をしておく
12	Read Me, Tell Me Stories(1) 絵本、紙芝居に使う教材の単語演習 本を読んで、お話を聞かせて ・絵本を読んで聞かせる、本を読んだあとの感想を聞く、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 6 (p.36～38) を復習し、Chap 6 (p.39～41) の予習をしておく
13	Read Me, Tell Me Stories(2) 絵本を読んだ後の会話演習 本を読んで、お話を聞かせて ・絵本を読んで聞かせる、本を読んだあとの感想を聞く、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 6 (p.39～41) を復習し、Chap 7 (p.42～44) の予習をしておく
14	Activities with Watermelons(1) 四季の行事に使われる単語演習 すいかで遊ぼう ・季節の風物（鯉のぼり・七夕・たこ揚げ等） 1月～12月を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 7 (p.42～44) を復習し、Chap 7 (p.45～47) の予習をしておく
15	前期末試験		
16	Activities with Watermelons(2) すいかを食べながらの会話演習 すいかで遊ぼう ・季節の風物（鯉のぼり・七夕・たこ揚げ等） 1月～12月を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 7 (p.45～47) を復習し、Chap 8 (p.48～50) の予習をしておく
17	Happy Birthday ! (1) 誕生日に使われる単語演習 お誕生日おめでとう ・誕生日をみんなで祝う、誕生会への招待状を書く、日付の言い方を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 8 (p.48～50) を復習し、Chap 8 (p.51～53) の予習をしておく
18	Happy Birthday ! (2) 誕生日を迎えた園児との楽しい会話演習 お誕生日おめでとう ・誕生日をみんなで祝う、誕生会への招待状を書く、日付の言い方を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 8 (p.51～53) を復習し、Chap 9 (p.54～56) の予習をしておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	Children at Play子どもと遊び(1) 様々なゲームに関する単語演習 ・園児と一緒にゲームをする (ハンカチ落とし、コマ回し、あやとり等)、単数・複数の違い、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 9 (p.54~56) を復習し、Chap 9 (p.57~59) の予習をしておく
20	Children at Play子どもと遊び(2) ゲームをしながらの会話演習 ・園児と一緒にゲームをする (ハンカチ落とし、コマ回し、あやとり等)、単数・複数の違い、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 9 (p.57~59) を復習し、Chap10(p.60~62) の予習をしておく
21	Baby News赤ちゃんニュース(1) 園児との関わりにおける単語演習 ・赤ちゃんの動作を覚える (沐浴、ミルク飲み、ハイハイする等)、おもつ取り替えの会話、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap10 (p.60~62) を復習し、Chap10(p.63~65) の予習をしておく
22	Baby News赤ちゃんニュース(2) 園児が泣いている時の保育士同士の会話演習 ・赤ちゃんの動作を覚える (沐浴、ミルク飲み、ハイハイする等)、おもつ取り替えの会話、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap10 (p.63~65) を復習し、Chap11(p.66~68) の予習をしておく
23	The Tooth Fairy歯の妖精(1) 歯磨きの基本単語演習 ・歯磨き用語を覚える (歯磨き粉、虫歯、歯医者、歯ブラシ等) 実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap11 (p.66~68) を復習し、Chap11(p.69~71) の予習をしておく
24	The Tooth Fairy歯の妖精(2) 園児の歯が抜けた時の会話演習 ・歯磨き用語を覚える (歯磨き粉、虫歯、歯医者、歯ブラシ等) 実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap11 (p.69~71) を復習し、Chap12(p.72~74) の予習をしておく
25	The Green-Eyed Witch(1) 学習発表会で使われる単語演習、緑の目の魔女 ・園児学習発表と、実習日誌 学習発表会と保護者への招待状 学習発表練習、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap12 (p.72~74) を復習し、Chap12(p.75~77) の予習をしておく
26	The Green-Eyed Witch(2) 学習発表の会話演習、緑の目の魔女 ・園児学習発表と保護者への招待状 学習発表練習、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap12 (p.75~77) を復習する
27	基本文法学習 名詞、動詞、動名詞と不定詞	テキスト使用 CD使用	p.78~80
28	基本文法学習 形容詞、副詞、前置詞	テキスト使用	p.81~85
29	英語の絵本を読む 初めてのお留守番、やさしいライオン、うしろにいるのだあれ等	英語の絵本 CD	学生各自好みの絵本を読み聞かせる
30	英語の絵本を読む ころわんはおにいちゃん、雨の日のえんそく、しゅくだい等	英語の絵本 CD	学生各自好みの絵本を読み聞かせる
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価 (評価方法・基準)】 1. 前期、後期末試験 各40% 2. 授業態度 20% (授業への取り組み、積極的・自発的な応答・参加等)			
【教科書】 書名: Children's Garden 著者名: 赤松直子 発行所: 成美堂 価格: 2,400円 (税別)			
【その他補足事項】 授業には必ず英和辞典を持参すること。			

授業科目名	国際理解論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 すぎ 杉 浦 ひろ 幸		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 大都市だけでなく、地方でも外国人居住者が増えてきている。その現状を踏まえ、保育者が海外の異なった生活習慣や考え方を持った人たちと接したり、その子どもを保育するにあたり、問題が発生しないよう、また問題が発生した場合に適切な対応ができるように、必要な知識の獲得や対応力の向上を目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
外国人等の人種、民族文化が異なる人(子ども)を預かる場合、問題が起きないように、また問題が起きた場合に適切な対応がとれる保育者を目指す。			目標	A・B・H・J
異なる文化、宗教、生活習慣が異なる保護者と対応する際、良好な関係が持てる保育者を目指す。			目標	A・I・J
自分自身も国際社会の一員であることの認識が持てる社会人を目指す。			目標	J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 海外暮らし(世界こんなところに)	授業計画 Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、海外暮らしのTV番組を見ておく
2	国際協力(GO・NGO)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、フェアトレードについて調べておく
3	世界がもしも100人の村だったら(貧困問題)	Power pointでの紹介 手製資料 グループ活動(貧困)	事前学修として、貧困について周囲と話し合っておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	海外旅行基礎知識（困らないように）	Power pointでの紹介 手製資料 模擬入国（入国カード）	事前学修として、海外旅行のガイドブックを読んでおく
5	国際紛争と海外の治安(1)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、第二次世界大戦を調べておく
6	国際紛争と海外の治安(2)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、最近発生したテロを調べておく
7	隣国との付き合い(1)	Power pointでの紹介 手製資料 グループ活動（反日問題）	事前学修として、なぜ隣国では反日運動が起きるか考えておく
8	隣国との付き合い(2)	Power pointでの紹介 手製資料 グループ活動（反日問題）	事前学修として、親日的な国と理由を考えておく
9	国際理解に役立つ世界の遊び(1)（調査）	絵本での紹介 グループ活動（練習）	事前学修として、日本の遊びの紹介方法を考えておく
10	国際理解に役立つ世界の遊び(2)（発表）	グループ活動（発表）	事前学修として、選んだ遊びの紹介を練習しておく
11	世界の宗教	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、自分の実家の宗教（宗派）が何か調査しておく
12	世界の行事(1)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、自分の出身園での行事を調査しておく
13	世界の行事(2)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、最近1年間に参加した行事を整理しておく
14	世界の料理(1)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、ここしばらくの食事メニューで日本食以外の割合を調べておく
15	世界の料理(2)	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、日本食が海外に広がった理由を考えておく
期末試験	期末試験	持ち込みなし	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験70点。グループ活動30点（10点満点×3回）。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、減点等を行う。			

授業科目名	国際理解演習（シンガポール）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 （職名・氏名）	兼任教授	なか まる かず し 中 丸 一 志	開講期	後期
	兼任准教授	ろ がく じょ 呂 学 如	授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		中丸・呂…… オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。 また、それについての個別指導も行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）			
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案等を学習できる。	目標	A・G・L		
ホスピタリティとインバウンドのあり方、イノベーションを学べる。	目標	B・H・I・J・L		
各自の興味ある分野（ビジネス、観光、デザイン、建築など）を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。	目標	A・G・J・L		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配付資料	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポール共和国の歴史（歴史・人種・言語）	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの経済・産業（貿易・観光）	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
6	シンガポールの交通事情	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
7	シンガポールの食文化	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
8	シンガポールの法律・入国手続きほか事前準備	配付資料、インターネット検索	海外旅行の調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	現地での行動について（渡航前の最終確認）	配付資料、インターネット検索	シンガポールの調査
10	現地体験①（4コマ）合同研修 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ 他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研究
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	現地体験②（4コマ）合同研修 マーライオンパーク、幼稚園視察	〃	〃
15	〃	〃	〃
16	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	現地体験③（4コマ） テーマ別研修	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	現地体験④（4コマ） テーマ別研修	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	現地体験⑤（4コマ） テーマ別研修	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	最終レポート発表	プレゼン発表 事後指導	体験談発表
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 事前レポート20%、最終レポート40%で評価する。 2. 旅行中の行動態度、団体行動・グループ行動のあり方を40%で評価する。			
【教科書】 プリント資料を適宜配付する。（各自の研究テーマに沿って指導）			
【その他補足事項】 1. 海外研修日程は、平成30年2月25日～3月2日（6日間）を予定している。 2. シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となる。 3. 最少催行人数を15名、最多催行人数を20名程度とする。 なお、履修者が15名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が15名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となる。 4. 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月初旬より開始する。 5. 単位の認定が3月となるため、卒業年次生は卒業単位数に含めないこと。 ※海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化等、十分な安全を確保できないと判断した場合には、海外研修の実施を中止する場合がある。			

授業科目名	体 育 講 義		授業形態・単位数	講義・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 藤 本 要 兼任講師 島 田 貴 広	ふじもと しまだ たか ひろ	開 講 期	後期
			授 業 回 数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 現在および将来の生活における健康や体力づくり、生涯学習の一環としての運動およびスポーツについて理解を深めて行く。 主な授業内容として、運動と健康・体力との関連性、慢性疾患と生活習慣、体力と運動にまつわるからだの仕組み、運動処方やスポーツ外傷・障害の予防と応急処置などである。 また、それらの知識を自ら積極的に生活の中で活用し、実践してゆく力と意欲を身につけるよう授業を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
体育を通じた健康、体力づくり全般に関する知識を修得することができる。			目標	A・J
健康づくりや運動に関する知識を、自ら積極的に生活の中で活用し、実践していく力と意欲を身につけることができる。			目標	B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「授業の概要と進め方について」 「運動と健康・体力の関連」	授業計画 プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用)	配付プリントやノートの整理
2	慢性疾患と生活習慣(1) 「生活習慣と慢性症状、発病までのしくみ」 「糖尿病と虚血性疾患について ～インスリンと脂質・糖代謝を中心に～」	プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用)	配付プリント「生活習慣病キーワード」でインスリンとFFA、中性脂肪、コレステロールの各用語解説を読んでおくこと ノートの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	慢性疾患と生活習慣(2) 「がんと生活習慣 ～飲酒と喫煙を中心に～」	プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用)	配付プリント「生活習慣病マップ」を読んで生活習慣病発病のメカニズムを復習しておくこと
4	運動とからだのしくみ 「体力要素と運動機能の関係」	プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用) VTR「驚異の小宇宙人体V なめらかな連係プレー骨・筋肉」	配付プリントやノートの整理
5	運動処方の実際(1) 「エアロビックな運動とアネロビックな運動」	プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参 (電卓機能付きの携帯電話も使用可)	配付プリントやノートの整理 簡単なトレーニングを家庭で実践してみること
6	運動処方の実際(2) 「エネルギー代謝を中心に」	プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参	事前に1日の食事内容と生活活動の内容と時間を調べておくこと 配付プリントやノートの整理
7	スポーツ外傷・障害の予防と応急処置	演習：応急処置 スライド資料 (パワーポイント使用)	配付プリントやノートの整理
8	授業の振り返り（まとめ）	まとめテスト（筆記試験） プリント配付 スライド資料 (パワーポイント使用)	総復習をするので配付プリントやノートを整理して持参すること
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 40点満点のまとめテスト（筆記試験）を授業の最後に実施する。 2. 小レポートを30点満点で評価する（6回実施。1回あたりの配点は5点）。 授業中に興味関心を持った内容や、感想など、当日指示のあった課題についてまとめて記述する。 3. 学習に対する意欲・興味関心・主体性などについて授業中の行動（例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等）を観察し、30点満点で評価する。			
【参考書】 <ol style="list-style-type: none"> 書名：実践スポーツクリニック 慢性疾患と運動 著者名：山崎元 発行所：株式会社 文光堂 価格：4,500円（税別） 書名：フィットネスQ&A 著者名：宮下充正、武藤芳照、白山正人、平野裕一 発行所：株式会社 南江堂 価格：2,718円（税別） ※参考書は授業中に紹介するが購入の必要はない。			

授業科目名	体育実技 I		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 藤本 要 兼任講師 島田 貴広	ふじもと しまたか か な め ひ ろ あ ら	開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 体育実技 I では、健康・体力の維持向上を図りながら、継続して運動やスポーツに親しむ習慣や態度を身につけることをねらいとする。 年間で4つのスポーツ種目を設定し、それぞれ基本技能の課題、チームワークの課題を設定し、学生が自立してスポーツ活動を行うための基本的な力を養っていく。 また、試合形式で行う授業については、準備から審判を含めた試合の管理運営までを学び、実践力を身につけていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
スポーツのルールやマナーについて理解し実践できるようになる。		目標	A	
スポーツ種目の基本技能を習得し、親しめるようになる。		目標	B	
チーム戦術、あるいはグループ戦術を理解し、チームあるいはペアで協働して実践できるようになる。		目標	G・L	
自分やチームの課題を見つけて解決しようとする態度を養う。		目標	K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・グループ分け ・実施種目を選択し、年間の計画を決定 ・ウォーミングアップ、クールダウンの方法	授業計画 講義・実技	次回種目のルールについて予習しておく
2	種目 I ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	
3	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
5	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
6	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	次回種目のルールについて予習しておく
7	種目Ⅱ ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	
9	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
10	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
11	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく
12	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施)	実技試験	次回種目のルールについて予習しておく
13	種目Ⅲ ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	
14	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	
15	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
16	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
17	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	次回種目のルールについて予習しておく
18	種目Ⅳ ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	
20	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
21	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
22	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく
23	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施)	実技試験	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 技能・知識の習得度 60%
- 授業への参加状況 30%
- 特記事項 10%※

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

- (例)
- 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
 - リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

【その他補足事項】

＜実施種目について＞

実施する種目Ⅰ～Ⅳについては下記の種目の中から4つを選び実施する。その際、クラスの学生数や運動経験・体力などの状況、教員の専門性、実施環境等を勘案する。(通年23コマを4単元に分け、1種目につき5～6回ずつ実施)

バレーボール バドミントン バasketボール 卓球 ユニホック ソフトバレーボール
サッカーまたはフットサル フライングディスク (アルティメッドまたはディスクゴルフ)

＜課題について＞

それぞれの種目の「基本技能の課題」「チームワークの課題」については種目決定後に担当教員から説明を行い、スキルテストの内容も課題の中から実施する。

＜服装持ち物について＞

服装はスポーツウェア上下、屋内用のスポーツシューズを持参する。
ラケットやボールなどの用具については初回授業で説明する。

授業科目名	体育実技Ⅱ（テニスⅡ）		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼担准教授 <small>ふじもと</small> 藤 本 <small>かなめ</small> 要		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	学外（保原総合運動公園）	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 テニス種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また、実施にあたっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 ダブルスゲームのルールやフォーメーションを理解し、試合の中で実践できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたテニスの技能を習得する。			目標	A・B・G・K・L
授業の到達目標を「ラリー8回以上、ボレーボレーを15回以上継続できること」とする。			目標	B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<オリエンテーション> 今後の日程と授業展開・内容	授業計画 講義・実技	テニスのルールを調べておくこと
2	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
3	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
4	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	
5	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
7	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
8	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
9	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
10	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	試合の成り立ちとルールについて予習しておく
11	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
12	実技テスト(1)（基本技能の確認）	実技試験	実技試験の練習をしておくこと
13	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
14	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
15	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
16	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
17	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
18	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
19	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
20	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
21	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
22	実技テスト(2) ・ラリーの継続回数と基本技能の習得度	実技試験	実技試験の練習をしておくこと
23	実技テスト(3) ・ラリーの継続回数と基本技能の習得度	実技試験	実技試験の練習をしておくこと
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 技能・知識の習得度 60点 2. 授業への参加態度 30点 3. 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			

授業科目名	体育実技Ⅱ（バドミントンⅡ）		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼担准教授 <small>ふじもと</small> 藤 本 <small>かなめ</small> 要		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また、実施にあたっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 5つのフライングの種類と特性、およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたバドミントンの技能を習得する。	目標	A・B・G・K・L		
授業の到達目標を「ラリーが20ストローク以上継続できること」とする。	目標	B・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<オリエンテーション> 今後の日程と授業展開・内容	授業計画 講義・実技	バドミントンのルールを調べておくこと
2	<ul style="list-style-type: none"> バドミントンの運動特性に応じた準備運動 基本技術（グリップ、ラケットの握り方） 班編成 	グループワーク	
3	<ul style="list-style-type: none"> バドミントンの運動特性に応じた準備運動 基本技術（グリップ、ラケットの握り方） 班編成 	グループワーク	
4	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施（ダブルスのルールを理解する） 	グループワーク	ダブルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく
5	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜オーバーヘッドストローク＞	グループワーク	
7	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜オーバーヘッドストローク＞	グループワーク	
8	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞	グループワーク	
9	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞	グループワーク	
10	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞	グループワーク	
11	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜サイドアームストローク＞	グループワーク	
12	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜サイドアームストローク＞	グループワーク	
13	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜サイドアームストローク＞	グループワーク	
14	・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略	グループワーク	ダブルスフォーメーションについて予習しておく
15	・シングルのルールを理解する ・審判法	グループワーク	シングルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく
16	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
17	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
18	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
19	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
20	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
21	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
22	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦)	グループワーク	
23	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 (リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施)	グループワーク	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 技能・知識の習得度 60点 2. 授業への参加態度 30点 3. 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			

授業科目名	体育実技Ⅱ（バレーボールⅡ）		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 しま だ たか ひろ 島 田 貴 広		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 前半はバレーボールのルールの理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。 後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。		目標	B	
オフェンスのコンビネーションやレシーブフォーメーションなどの戦術的理解を深め、それらを実践するための活動を通じてチームづくりやチームワーク、スポーツマンシップやマナーを学ぶ。		目標	G・K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	授業計画 講義	6人制バレーボールのルールについて予習しておく
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ ・ストレッチ 基本技能(1) サーブとレシーブ（サーブを中心に）	グループワーク	
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ ・ストレッチ 基本技能(2) サーブとレシーブ（レシーブを中心に）	グループワーク	
4	基本技能(3) パスの技術と動き （オーバーハンドパスを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
5	基本技能(4) パスの技術と動き （アンダーハンドパスを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	基本技能(5) ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ミートを中心に）簡易ゲーム	グループワーク	
7	基本技能(6) ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ステップを中心に）簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能(7) スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
9	基本技能(8) スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
10	基本の戦術(1) チーム編成と各プレイヤーの役割（ローテーションの理解）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
11	基本の戦術(2) チーム編成と各プレイヤーの役割（ポジションの理解）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
12	ディフェンスの戦術(1) サーブレシーブフォーメーション（5人でのレシーブ）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
13	ディフェンスの戦術(2) サーブレシーブフォーメーション（3～4人でのレシーブ）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
14	ディフェンスの戦術(3) ブロックとレシーブフォーメーション（マンアップフォーメーションの理解）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
15	ディフェンスの戦術(4) ブロックとレシーブフォーメーション（マウンドフォーメーションの理解）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
16	オフェンスの戦術(1) スパイクのコンビネーション（クイックを絡めたコンビネーション）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
17	オフェンスの戦術(2) スパイクのコンビネーション（移動を加えたコンビネーション）6人制の練習ゲーム	グループワーク	
18	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法(1)	グループワーク	
19	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法(2)	グループワーク	
20	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法(3)	グループワーク	
21	公式戦の運営（トーナメント戦）と審判法(4)	グループワーク	
22	公式戦の運営（トーナメント戦）と審判法(5)	グループワーク	実技試験の準備
23	技能チェックと評価（ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）まとめのゲーム	実技試験	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 技能・知識の習得度 60% 2. 授業への参加状況 30% 3. 特記事項 10% ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			
【その他補足事項】 1. 服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可）を着用すること。 2. バレーボールⅡ（選択）では体育実技Ⅰで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションをさらに高めることをねらいとする。			

授業科目名	体育実技Ⅱ (ヒップホップ&ジャズダンスⅡ)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{いし やま なみ え} 石山波恵 〔本務先：有限会社波恵ダンス 職名：代表取締役〕		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス及び学外 (波恵ダンスカルチャーパーク)	授業時間以外の必要な学修時間	—	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了時に教室等で質問等に対応する。		

【授業の概要】 前半はステップやターンなど、ダンスの基本的な動きを身につけることに重点を置きつつ、ジャズダンスやヒップホップに親しみ、ダンスを行うための体づくりや体ほぐしを行う。 後半は応用発展させた動きを習得すると同時に、振り付けの創作を中心に行い、ダンスを自立して楽しむための実践力を身につけていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
初心者についてはヒップホップやジャズの技法をマスターしてリズムカルな動きができること、習熟している者については作品の創作ができることを到達の目標とする。	目標	A・B・E・F		
ダンスを通じて心をリフレッシュすると同時に、健康体力づくりの実践力を養う。	目標	A・B・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・授業内容や成績評価等に関する説明	授業計画 講義	
2	ジャズダンス (基本) ストレッチの基本動作 基本ステップ (ウォーキング、ステップタッチ)	グループワーク	
3	ジャズダンス (基本) ストレッチの基本動作 基本ステップ (ツーステップ、ボックス)	グループワーク	前回の基本ステップを復習しておく
4	ジャズダンス (基本) アイソレーションの基本動作 基本ステップ (ピボットターン)	グループワーク	前回の基本ステップを復習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	ジャズダンス（基本） アイソレーションの基本動作 基本ステップ（ジャンプ）	グループワーク	前回の基本ステップを復習しておく
6	ジャズダンス（基本） アイソレーションの基本動作 振付（ステップ、コンビネーション）	グループワーク	前回の基本ステップを復習しておく
7	ジャズダンス（基本） 完成した振付を発表する	グループワーク	振付の練習をしておく
8	ヒップホップ（基本） リズム感、リズムの取り方とアップダウン	グループワーク	
9	ヒップホップ（基本） リズム感、リズムの取り方とアップダウン	グループワーク	前回の基本動作を復習しておく
10	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	前回の基本動作を復習しておく
11	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	前回の基本動作を復習しておく
12	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	前回の基本動作を復習しておく
13	ヒップホップ（基本） 完成した振付を発表	グループワーク	振付の練習をしておく
14	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
15	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
16	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
17	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
18	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
19	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
20	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
21	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
22	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
23	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1. 技能・知識の習得度 60点 2. 授業への参加状況 30点 3. 特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>1. 準備物：ダンスに相応しい服装、屋内用シューズ（ダンス専用シューズ推奨） 2. 実施期間：4月～12月（金曜日18：00～19：30） 3. 実施場所：宮代キャンパス及び、波恵ダンスカルチャーパーク（福島市新町3-26） ※交通費は自己負担。</p>			

授業科目名	体育実技Ⅱ (ボディ・コンディショニングⅡ)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 しま だ たか ひろ 島 田 貴 広		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 レジスタンストレーニングでは主としてダンベルやチューブを利用したトレーニング種目、有酸素運動としてはジョギングやウォーキングを実施し、その正しい運動方法や適切な運動強度設定について学習する。 また、自らの目的に応じた運動プログラムを立てて実践すると同時に、プログラムの見直しや達成感を味わうため、定期的に運動効果の測定と評価を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
シェイプアップやダイエット、筋力アップなど、学生個別の目的に応じてコンディショニングプログラムを作成し、健康的、効果的かつ安全に運動が実践できるようにすることを目標とする。			目標	A・B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・授業内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	授業計画 講義	
2	身体測定と評価、個人目標の設定と運動処方に関する基礎知識 ウォーミングアップの方法 (ストレッチング)	グループワーク	
3	レジスタンストレーニング(1) (大筋群のトレーニング) ・スクワット ・レッグランジ ・クランチ ・プッシュアップ ・バックエクステンション ・ダンベルプレス ・ベントオーバーローイング	グループワーク	
4	レジスタンストレーニング(2) (大筋群のトレーニング) ・ダンベルフライ ・ワンハンドダンベルローイング ・プルオーバー ・オーバーヘッドプレス ・サイドレイズ ・アップライトローイング	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	レジスタンストレーニング(3) (小筋群のトレーニング) ・アームカール ・フレンチプレス ・リストカール ・サイドベント ・カーフレイズ	グループワーク	
6	レジスタンストレーニング(4) (チューブトレーニング)	グループワーク	
7	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成 (レジスタンストレーニングで)	グループワーク	
8	ウォーキング(1) (3km) ペースと目標心拍数の設定 (カルボーネン法)	グループワーク	
9	ウォーキング(2) (3km) 自分のペースで実施	グループワーク	
10	ジョギング(1) (3km) ペースと目標心拍数の設定 (カルボーネン法)	グループワーク	
11	ジョギング(2) (3km) 自分のペースで実施	グループワーク	
12	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成 (有酸素運動を含めて作成)	グループワーク	
13	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
14	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
15	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
16	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
17	測定評価とプログラムの見直し (体重、体脂肪率、BMI、基礎代謝について)	グループワーク	
18	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
19	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
20	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
21	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
22	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
23	まとめ 測定評価と反省 トレーニングレコードのチェック、提出	グループワーク	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1. 技能・知識の習得度 60点 2. 授業への参加状況 30点 3. 特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>1. 服装はスポーツウェア上下、屋内用または屋外用のスポーツシューズを用意しておくこと。 2. ボディコンディショニングⅡ（選択）では「体育実技Ⅰ」で習得した知識と技術をさらに深めるために、より高度な内容を中心に実施する。自らの身体に対する興味関心を深め、健康や体力の向上について生涯を通じて探求し続けるためのモチベーションを高めることをねらいとする。</p>			



專門教育科目

授業科目名	保育者論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 せきもと ひとし 関本 仁		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育者に求められる役割、使命について理解していく。保育者の制度的位置づけ、社会的役割や倫理について認識を深めるとともに、保育者としての基本的な資質、責任、知識、技能、考え方等について学ぶ。 具体的には、子どもを理解する力、子どもの育ちを援助する方法、生活を豊かにするための支援のあり方、保護者や家庭・地域との連携・共同の関係づくり、保育者間の協働等を学ぶことで、保育者に対する自らの適性を見つめ、自らを評価しながら保育者への意欲や自覚を養う。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育者に求められる役割、使命を理解する。		目標	A・H
保育士、幼稚園教諭等の制度定位置づけ、社会的役割・倫理を理解する。		目標	A・C
保育士、幼稚園教諭等の専門性とは何かについて考え、理解する。		目標	A・D
保育者の様々な協働について理解する。		目標	A・K
保育者の専門職としての成長について理解する。		目標	K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育者論で何を学ぶのか 評価方法など	授業計画 プリント資料の配付 スライドの掲示	配付資料の復習
2	保育者の役割と倫理について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
3	保育者の資格と責務について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
4	養護と教育について	確認小テスト プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育者の資質と能力について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
6	専門的な知識・技術・判断について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
7	保育の省察について	確認小テスト プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
8	保育課程に関わる保育者の専門性について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
9	保育者の専門性と自己評価について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
10	園での協働について	確認小テスト プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
11	専門機関との連携について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
12	保護者および地域社会との協働について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
13	家庭的保育者との連携について	確認小テスト プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
14	保育者の専門性の発達とキャリア形成について	プリント資料の配付 スライドの掲示 ディスカッション	教科書下読み 配付資料の復習
15	まとめ	プリント資料の配付 スライドの掲示	配付資料の復習
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験…………… 50% 2. 授業内での確認小テスト（4回）…… 20% 3. 授業態度など…………… 30%			
【教科書】 書名：基本保育シリーズ7 保育者論 著者名：公益財団法人児童育成協会（監修）／矢藤誠慈郎、天野珠路（編集） 発行所：中央法規出版 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 参考書に関しては、授業の進行に応じて、適宜紹介していく。			

授業科目名	保育者論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	ながしまてるこ 長島輝子	開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の職務内容とその社会的意義・役割について概説する。 2. 保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)に求められる資質・能力を概説する。 3. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の地位・身分、服務及び養成・研修の制度を解説する。 4. 昨今の幼児教育行政の動向を紹介し、将来の進路決定に役立つような情報を提供する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児教育の意義と保育者の役割を理解する。			目標	A
保育者に求められる資質・能力を理解する。			目標	A・C
幼稚園教諭・保育士・保育教諭の地位・身分及び守るべきサービスを理解する。			目標	G・J
専門職としての就職するための心構えを学ぶ。			目標	J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・「保育者論」で何を学ぶのか ・評価方法等の説明	講義、質疑応答 授業計画 プリント(教科書)配付	予習:第1・2章の下読み
2	保育とは何か ・保育者とは 保育者の社会的位置づけ	グループワーク・講義 プリント	復習:本日の話し合いをレポートにまとめる
3	幼児の発表会のDVD視聴 ・「保育者に必要だと思われる力・保育者に必要だと考える事柄」を考えまとめる	DVD視聴・講義 レポートを作成し、提出する	予習:第3・4章の下読み
4	保育者の哲学 保育者の資質 ・砂遊びで育つもの	講義・グループワーク グループ発表 質疑応答	復習:「砂遊び」の講義をまとめる
5	保育者の専門性 ・保育者に求められる3つの側面 保育者の養成	講義 レポート作成 質疑応答	復習:第5・6章の読み込み 予習:第7章の下読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	保育の展開と再構成 ・DVD「きえちゃんのイメージ」視聴 ・感想を書く	講義 DVD視聴 レポート作成	予習：第8章の下読み
7	保育記録のとり方 教育課程と指導計画 指導案作成（部分案）	講義 質疑応答 部分案作成	復習：指導案作成
8	保育者の業務 ・DVD「先生ってなあに」を視聴 ・時系列で記録する	DVD視聴 日誌に記録する	予習：第9章の下読み
9	保育者間の協同 ・誕生会の出し物について	講義 グループワーク 発表	予習：第10章の下読み
10	保育者の実践的能力 ・園だよりについて（実際の園だよりを参考に教師が保護者に伝えたいことを探る）	講義・グループワーク まとめたことをグループごとに発表する	復習：第1・2章の読み込み
11	保育者の実践的能力 ・「けんか」をテーマに「年齢別けんかの傾向と保育者のかかわり」「保護者対応」を考える	講義・グループワーク まとめたことを発表する	復習：第3・4章の読み込み
12	保護者に対する理解と支援 ・保護者支援について ・地域支援における保育者の役割	講義 質疑応答	復習：第5・6章の読み込み
13	専門機関との連携 ・なぜ連携が必要なのか 現代の望ましい保育者像	講義 質疑応答	復習：第7・8章読み込み
14	保育者の成長 ・保育の場における研修 これからの保育者に求められるもの	講義 質疑応答	復習：第9・10章の読み込み
15	まとめ ・保育者とは ・期末試験について	講義 レポート作成	要点整理と期末試験の準備
期末試験	期末試験	ペーパー試験 (持ち込みなし)	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（80%） 2. 課題提出（10%） 3. 受講態度（10%） 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。 ※詳細についてはオリエンテーション時に説明する。			
【教科書】 資料を印刷し配付する。それをファイルにまとめるためのクリアファイルを一冊準備すること。			
【参考書】 1. 書名：幼稚園教育要領解説書 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別） 2. 書名：保育所保育指針解説書 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別） 3. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 著者名：内閣府（文部科学省・厚生労働省） 発行所：フレーベル館 価格：249円（税別）			

授業科目名	社会福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	たか はし ゆう じ 高 橋 雄 二	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、社会福祉の基本と原理的内容について総論的に取り上げる。社会福祉への関心と興味を深めると共に、社会福祉の基本的な理念であるノーマライゼーションを理解し、実践するために必要な社会福祉の理論史・理論構成・技術論などを体系的に修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
人間の尊厳と社会福祉の意義および思想を理解すると共に、社会福祉の基本原則と形成過程およびその体系を理解する。			目標	A・C・J
社会福祉の課題発見とその原理を理解し、社会福祉の実践のための基礎知識・技術体系を修得する。			目標	A・B・H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法。授業の進め方と留意点 第1講 現代社会における社会福祉 社会福祉の概念 社会福祉の理念の意義と歴史的変換	授業計画 教科書補足資料1	
2	第2講 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉 児童家庭福祉の理念と考え方	教科書補足資料2	教科書 p 14～24を事前に読む
3	第3講 児童の人権擁護と社会福祉 人権擁護の考え方の系譜 虐待・いじめの現状と権利擁護	教科書補足資料3 DVD視聴 (30分) 「障害者虐待」	教科書 p 26～36を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	第4講 家庭支援と社会福祉 社会福祉の専門職としての保育士	教科書補足資料4	教科書 p 38～46を事前に読む
5	第5講 社会福祉の制度と法体系 社会福祉における法律と制度	教科書補足資料5 DVD視聴（30分）「スタート・新セイフティーネット(1)」	教科書 p 50～60を事前に読む
6	第6講 社会福祉行財政と実施機関 社会福祉行財政の体系	教科書補足資料6	教科書 p 62～72を事前に読む
7	第7講 社会福祉施設等 社会福祉施設の種類と概要	教科書補足資料7 DVD視聴（30分） 「老人と80人の孫達」	教科書 p 74～86を事前に読む
8	第8講 社会福祉の専門職・実施者 社会福祉の専門職とその定義	教科書補足資料8	教科書 p 88～98を事前に読む
9	第9講 社会保障および関連制度の概要 社会保障制度とは	教科書補足資料9 DVD視聴（30分） 「あなたと生きたい・「植物状態」の人たちとその家族」	教科書 p 100～110を事前に読む
10	第10講 相談援助の意義と原則 相談援助の意義 相談援助の原則	教科書補足資料10	教科書 p 112～120を事前に読む
11	第11講 相談援助の方法と技術 保育現場における相談援助 相談援助方法と技術	教科書補足資料11	教科書 p 124～132を事前に読む
12	第12講 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 利用者の権利擁護と苦情解決	教科書補足資料12	教科書 p 136～146を事前に読む
13	第13講 少子高齢化社会への対応 少子化の要因と対策	教科書補足資料13	教科書 p 148～157を事前に読む
14	第14講 地域福祉の推進とネットワーク 地域福祉の概念	教科書補足資料14 DVD視聴（30分）「スタート・新セイフティーネット(2)」	教科書 p 160～170を事前に読む
15	第15講 社会福祉の諸外国の動向 社会福祉と福祉国家 まとめ	教科書補足資料15	教科書 p 172～181を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 80点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 2. レポート レポートは20点満点の採点とする。課題については授業時に説明する。			
【教科書】 書名：社会福祉 著者名：松原康雄 坏 洋一 金子 充 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	相 談 援 助		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 <small>たか はし ゆう じ</small> 高 橋 雄 二		開 講 期	前期・後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、社会福祉専門職に必要な相談援助技術をグループワーク等の演習を通し、相談実践の価値・知識・技術について、具体的な演習課題を通して修得する。また、学習すべきポイントに関する定義、理論、アプローチ、相談援助者にとって必要と思われる法制度やサービスについての知識を修得する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育実践に必要な相談援助にかかわる知識と技術を修得する。			目標	A・B・C・D
相談援助者として心構えを身につけると共に、実践的な相談援助技術を身につける。			目標	A・E・G・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法 授業の進め方と留意点 第1講 相談援助の理論 相談援助理論の体系化	授業計画 教科書補足資料1	
2	第2講 相談援助の意義 保育士による相談援助の意義	教科書補足資料2	教科書 p 14~24を事前に読む
3	第3講 相談援助の機能 相談援助の状況 相談援助の機能	教科書補足資料3 DVD視聴 (30分) 「障害者虐待を食い止めるために」	教科書 p 26~36を事前に読む
4	第4講 相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークとは何か ソーシャルワーカーの専門性	教科書補足資料4	教科書 p 38~48を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第5講 保育とソーシャルワーク 保育所に求められるソーシャルワーク	教科書補足資料5	教科書 p 50～60を事前に読む
6	第6講 相談援助の対象 保育における相談援助 対象としての児童・保護者・地域	教科書補足資料6 グループワーク 「受容的態度の必要性」	教科書 p 62～72を事前に読む
7	第7講 相談援助の過程 相談援助の展開過程 相談援助過程で活用される面接技法	教科書補足資料7 DVD視聴（30分） 「ぼけなんか恐くない」	教科書 p 74～84を事前に読む
8	第8講 相談援助の技術・アプローチ 保育士における相談援助の根幹 保育者に対する具体的な支援	教科書補足資料8 グループワーク 「傾聴についての理解」	教科書 p 86～96を事前に読む
9	第9講 相談援助の計画・記録・評価 相談援助の計画 相談援助の記録 相談援助の評価	教科書補足資料9 グループワーク 「ジェノグラムとエコマップの作成」	教科書 p 98～108を事前に読む
10	第10講 相談援助の関係機関との協働 関係機関との協働の必要性 関係機関の概要	教科書補足資料10	教科書 p 110～120を事前に読む
11	第11講 相談援助の多様な専門職との連携 保育士に関連する法規および制度に規定される連携	教科書補足資料11	教科書 p 122～132を事前に読む
12	第12講 相談援助の社会資源の活用、調整、開発 相談援助における社会資源とは何か 社会資源の活用、調整、開発	教科書補足資料12 DVD視聴（30分）「生きることは、あきらめない」	教科書 p 134～144を事前に読む
13	第13講 ロールプレイ、フィードバック等による事例分析 ロールプレイとは 保育場面におけるフィールドワークの活用	教科書補足資料13 ロールプレイ「障害が疑われる子どもの保護者への対応」	教科書 p 146～158を事前に読む
14	第14講 虐待の予防と対応等の事例分析 児童虐待の定義 児童虐待の現状・増加の背景	教科書補足資料14	教科書 p 160～170を事前に読む
15	第15講 障害のある子どもとその保護者への支援等の分析 障害の捉え方・家族支援の原則	教科書補足資料15 DVD視聴（30分） 「君と歩む道」	教科書 p 172～182を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 80点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 2. レポート レポートは20点満点の採点とする。課題については授業時に説明する。			
【教科書】 書名：相談援助 著者名：松原康雄・村田典子・南野奈津子 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	児童家庭福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師	こん きよ たか 今 清 孝	開講期	前期・後期
	非常勤講師	か とう 加 藤 とよ	授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		今…オフィスアワーは、初回授業時に説明する。 加藤…授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 社会福祉の構成要素のひとつである児童家庭福祉は、対象者を児童だけではなく、子どもの育つ環境全体を視野に入れた理解により、豊かなものにする事ができる。 本講義では、児童家庭福祉の基本的理念、制度、施設等の運営、ソーシャルワークなどの児童家庭福祉援助について体系的に学び、保育者として必要な知識と思考方法を身につける。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。	目標	A・C		
児童家庭福祉サービスについて理解する。	目標	A・J		
児童家庭福祉における専門職としての保育者の役割を理解する。	目標	A・C・J・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 保育における児童家庭福祉	授業計画 授業資料1 授業資料完成	教科書P2～9を事前に読む
2	現代社会と子ども・家庭 — 社会・家庭・地域の変容 —	授業資料2 授業資料完成	教科書P11～21を事前に読む
3	現代社会と児童家庭福祉 — 児童家庭福祉の方向性 —	授業資料3 授業資料完成	教科書P22～41を事前に読む
4	児童家庭福祉の概念と理念 — 児童の権利条約 —	授業資料4 授業資料完成	教科書P43～57を事前に読む
5	児童家庭福祉の歴史的展開	授業資料5 授業資料完成	教科書P57～72を事前に読む 1～5のまとめ レポート作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	児童家庭福祉の法体系 — 児童福祉6法及び関連法 —	授業資料6 授業資料完成	教科書P73～83を事前に読む
7	児童家庭福祉の実施体制	授業資料7 授業資料完成	教科書P84～99を事前に読む
8	児童家庭福祉の費用 児童家庭福祉の専門職とネットワーク	授業資料8 授業資料完成	教科書P99～114を事前に読む 6～8のまとめ レポート作成
9	児童家庭福祉の現状と課題(1) — 子育て支援サービスと保育ニーズ —	授業資料9 授業資料完成	教科書P115～137を事前に読む
10	児童家庭福祉の現状と課題(2) — 母子保健サービス —	授業資料10 授業資料完成	教科書P137～147を事前に読む
11	児童家庭福祉の現状と課題(3) — 障害のある子どもへの支援 —	授業資料11 授業資料完成 DVD視聴32分 「児童虐待」「DV」	教科書P147～166を事前に読む
12	児童家庭福祉の現状と課題(4) — 児童虐待とDV —	授業資料12 授業資料完成	教科書P166～178を事前に読む
13	児童家庭福祉の現状と課題(5) — 社会的養護サービス —	授業資料13 授業資料完成	教科書P178～190を事前に読む
14	児童家庭福祉の現状と課題(6) — ひとり親家庭福祉 —	授業資料14 授業資料完成	教科書P190～200を事前に読む 9～14のまとめ レポート作成
15	児童家庭福祉援助活動 — 児童家庭福祉援助活動と保育及び相談援助 —	授業資料15 授業資料完成	教科書P201～243を事前に読む
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

今…… 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。
加藤… 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 筆記試験 70点満点の筆記試験を前・後期末に実施する。
- レポート レポート（3回）は30（各10）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。
- その他 毎授業終了時にレスポンスシートに授業で分かったこと、わからなかったことを記入し提出させ、次回授業時にコメントを記入し返却することで、授業の理解度を深める。

【教科書】 書名：新・保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉
著者名：柏女霊峰ほか
発行所：社会福祉法人 全国社会福祉協議会
価格：1,900円（税別）

【その他補足事項】

筆記試験の際には、授業配付資料のみの持ち込みを可とし、教科書やノートの持ち込みは不可とする。
授業配付資料は、適宜授業内容を書き込みしたり、重要点にアンダーラインを引いたりして、授業中や授業後に完成させ試験に臨むこと。

授業科目名	教育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 せきもと ひとし 関本 仁	開講期	前期・後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 これまで人間が営んできた歴史の中で、その時々 の社会・文化を背景として、どのように教育とい うものを捉えてきたのか。教育思想の歴史を概 観しつつ、その様々な思想が現在おこなわれ ている教育に対してどのような影響を与えてい るのか、について考える。特に、子どもの福 祉に関わる教育論に注目しながら、子どもた ちにとって豊かな育ちを支える教育のあり方 について、皆さんとともに考えていきたい。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
教育の意義・目的について学び、児童福祉とのかわりについて理解する。		目標	A・C	
教育の理念に関わる歴史を学び、基礎的な教育理論について理解する。		目標	A・C	
国内外を含めた、さまざまな教育制度を理解する。		目標	A・C	
教育実践でなされているさまざまな取り組みについて理解する。		目標	D・J	
社会教育・生涯学習の観点から、現代の教育的課題について理解する。		目標	J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育とは何か	授業計画 スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	配付資料の復習
2	教育の目的：教育と教化と形成	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み (予習) 配付資料の復習
3	教育と児童福祉	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み (予習) 配付資料の復習
4	西洋における教育思想と歴史(1) — 古代～コメニウス、ルソー、ペスタロッチ —	確認小テスト スライド資料提示 ペア/グループディスカッション	プリント下読み (予習) 配付資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	西洋における教育思想と歴史(2) — フレーベル、デューイ～現代 —	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
6	日本の教育思想と歴史	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
7	子ども観と教育観	確認小テスト スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
8	教育制度の基本	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
9	教育にかかわる法律と行政	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
10	さまざまな国の教育制度	確認小テスト スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
11	教育実践の基礎	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
12	さまざまな教育実践	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
13	社会教育と生涯学習	確認小テスト スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
14	教育の権利保障	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	プリント下読み（予習） 配付資料の復習
15	教育の現代的課題／まとめ	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション	配付資料の復習
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> • 期末試験……50% • 授業内での確認小テスト（4回）……20% • 授業態度など……30% 			
【その他補足事項】 教科書は指定せず、各回の終わりに次回使用するスライドのハンドアウトを配付する。予習として、その下読みをおこない、授業の準備をしておくこと。 参考書に関しては、授業の進行に応じて、適宜紹介していく。			

授業科目名	保育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 中野明子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明する。			

【授業の概要】 本授業では、保育学の基本的事項の理解、保育実践に生かせる知識の修得、専門職としての保育者の役割の理解、諸外国の保育・保育の多様なあり方への理解、日本の保育の現状と今日的課題を理解すること等を通して、保育現場での実際や現代の子ども達がおかれている状況を把握し、子どもや保護者へ対しての、より良い支援のあり方を考察する。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	○	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代社会における保育の理念、保育の意義について理解する。		目標	A・C
保育所保育指針における保育の基本について理解する。		目標	A・C
子どもの発達に応じた援助について理解する。		目標	A・C・F・J
保育の思想と歴史的変遷について理解する。		目標	A・C
保護案件の事例等を通して、保育の現状と課題について考察し、保育者の役割と専門性について理解を深める。		目標	A・C・D・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 2. 「保育」とは何か	授業計画 なぜ保育科に入学したか、「保育」とは何かイメージしたことを発表する	入学動機をまとめておく
2	保育支援の必要性和社会的役割 (現代社会における保育の意義について・養護と教育の一体性)	教科書・プリント グループ討論	自分の子ども時代を思い起こして授業に臨む
3	今、子どもたちのまわりで何が起きているか (保護案件の事例を通し保護者との信頼関係、職員間、専門機関との連携の重要性について理解する)	教科書・プリント レポート作成	保護者支援に関する記事等、報道された子ども虐待について調べておく
4	保育所・幼稚園・認定こども園について ・就学前保育、教育制度と法体系 ・保育所保育の理念と意義	プリント 保育所保育指針 保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 グループ討議	保育所保育指針20年告示第1章 総則(P4~P7)を予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育思想の歴史 — 西欧の保育 —	教科書・プリント	
6	保育思想の歴史 — 日本の保育 —	教科書・プリント	自分の地域の保育所、幼稚園について、園の特徴等を調べておく
7	子どもを理解する — 食育について — (保育現場での食育の取り組み)	プリント・教科書 グループ討議 レポート作成	保育所保育指針 第5章 健康及び安全 (P27～P30)を予習
8	子どもを理解する — 子どもの発達(1) — ・乳幼児期の発達の特性・発達過程について	VTR「赤ちゃん胎内からの出発」(20分) グループ討議	保育所保育指針 第2章 子どもの発達 (P8～P11)を予習
9	子どもを理解する — 子どもの発達(2) — ・アタッチメントの重要性 ・自己肯定感の定義についての考察	プリント・教科書 グループ討議 レポート作成	保育所保育指針 第2章 子どもの発達 (P8～P11)を予習
10	保育の環境(1) 人的環境・物的環境・自然や社会事象 (遊びの特性と構成する要素についての理解)	VTR「元気遊び川和保育園」(30分) プリント	保育所保育指針 第3章 保育の内容 (P12～P21)を予習
11	保育の環境(2) — 自然は偉大な教師 — (見守る援助、直接体験の重要性)	VTR「里山で子ども達が輝く」(35分) レポート作成	保育所保育指針 第3章 保育の内容 (P12～P21)を予習
12	諸外国の保育事情 (世界の国々の保育事情について理解を深める)	プリント グループ討議 VTR「世界で活躍する卒業生」(10分)	
13	保護者とのかかわりの中で求められるもの (発達障害の理解、親の障害受容の難しさを知る)	プリント・教科書 グループ討議 レポート作成	保育所保育指針 第6章 保護者に対する支援 (P31～P33)を予習
14	保育の計画 ・保育形態について — (様々な保育形態、異年齢保育について知る) ・保育と指導計画について (保育において指導計画がなぜ必要か理解する)	プリント・教科書 保育所保育指針解説書	授業後、実習先の保育形態を調べ、実習先の保育課程、保育方針、保育の特色等について理解する
15	保育の制度 現状と課題 ・今、求められる保育者の役割と専門性 ・まとめ	プリント・教科書 グループ討論	今までの授業を振り返り、整理しておく
期末試験	期末試験	筆記試験	プリントを整理して臨む
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（60%） 2. レポート及び感想文（30%）課題は授業内容に沿い、捉えたこと理解を深めた内容について記述する。 3. 授業態度（10%）グループ討議等に意欲を持って参加しているか評価する。 ※詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育原理 — はじめて保育の扉をひらくあなたへ — 著者名：咲間まり子編 発行所：株式会社みらい 価格：2,000円（税別）			
【参考書】 書名：多文化保育・教育論 著者名：咲間まり子編 発行所：株式会社みらい 価格：1,800円（税別）			
【その他補足事項】 1. 本授業では平成20年告示「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいて学んでいく。平成30年告示版については、必要に応じて説明していく。 2. 授業配付資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルして試験に臨むこと。			

授業科目名	社会的養護		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 神 戸 信 行		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 現代社会の家族や児童養護に関する問題を概説し、児童福祉の領域における社会的養護の必要性和役割・体系について説明する。 さらに、施設養護の原理とその実際について講義し、今後求められる社会的養護のあり方や子育て支援・社会的養護の担い手としての保育士の役割と専門性について理解を深める。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
今日の養育不安や児童虐待の増加など養護問題の現状を理解する		目標	A・C
今日の養育問題が惹起する背景・要因を理解する。		目標	A・C
社会的養護の体系と現状、施設養護の機能について調べ、理解する。		目標	A・C・D・I・K
「社会的養護の課題と将来像」の概要と今後の施設改革の意義を理解する。		目標	A・C・K
保育士に期待される職業倫理と専門性を理解する。		目標	C・H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業内容の概要 (2) 授業の展開と評価の視点	授業計画	
2	子どもの社会的養護の基本的考え方 児童の社会的養護の理念と概念	教科書補足資料	教科書1章1節を事前に読む
3	社会的養護の位置づけ 児童家庭福祉分野における社会的養護 児童の権利擁護と社会的養護	教科書補足資料	教科書1章2節を事前に読む
4	児童虐待問題と児童養護(1) 増加する児童虐待～児童虐待の定義と現状	教科書補足資料 VTR「こどものSOSに耳を澄ませて」20分	教科書第11章1節を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	児童虐待問題と児童養護(2) 家庭・施設の実態と児童虐待 児童虐待への対応	教科書補足資料	教科書第11章2節・3節を事前に読む
6	子どもの社会的養護の歴史(1) 欧米における児童福祉観の変遷と社会的養護 子どもの権利の国際的宣言	教科書補足資料	教科書2章1節を事前に読む
7	子どもの社会的養護の歴史(2) 日本における児童福祉観の変遷と社会的養護 戦後の児童福祉制度における社会的養護	教科書補足資料	教科書2章2節を事前に読む
8	子どもの社会的養護の概要(1) 子どもの養護の体系	教科書補足資料 配付するワークシートを使いながら、課題にしたがって調べて、発表する	教科書第3章を事前に読む
9	子どもの社会的養護の概要(2) 施設養護の体系	教科書補足資料 配付するワークシートを使いながら、課題にしたがって調べて、発表する	教科書第3章を事前に読む
10	社会的養護の課題と将来像 ケア単位の小規模化 施設の地域分散化 施設機能の高度化	教科書補足資料	教科書第12章を事前に読む
11	施設養護の基本原則(1) 人権尊重の原理 個性の尊重と個別化の原理	教科書補足資料 配付された資料「事例」をグループで話し合い、基本原則を具体的に理解する	教科書5章1節・2節を事前に読む
12	施設養護の基本原則(2) 親子関係調整の原理 集団生活の力動的活用の原理 社会参加と自立支援の原理	教科書補足資料 配付された資料「事例」をグループで話し合い、基本原則を具体的に理解する	教科書5章2節・3節を事前に読む
13	社会的養における支援計画(1) 個別支援計画の必要性和作成の留意点	教科書補足資料	教科書第10章1節を事前に読む
14	社会的養における支援計画(2) 日常生活における事例分析 自立支援に関する事例分析	教科書補足資料 事例に付された課題について、グループで話し合い、発表する	教科書第10章2節・3節を事前に読む
15	まとめ	振り返り資料	
期末試験	期末試験	筆記試験により行う	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 前・後期末に実施。70点満点とする。 2. レポート 授業中の課題を作成したものをレポートとして提出する。 提出したレポートは、30点満点とする。			
【教科書】 書名：子どもの養護 ― 社会的養護の原理と内容 第3版 著者名：松本峰雄ほか 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	教育行政		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 <small>わた なべ ひろ し</small> 渡 辺 博 志		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育行政に関する基礎的・基本的な考え方（原理、原則や動向）を幅広く理解するとともに、教育行政の具体が幼稚園・学校・教職員、家庭や地域社会とどのような関係をもっているのかについて考えを深め、幼稚園及び学校における適切で効果的な経営、保育・教育実践の在り方について探究する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
※わが国の教育行政の考え方や仕組み、教育制度の具体について自分の言葉で表現し説明できるようになる。			目標	A・D・I
前項※で得た知見を活用しながら、教育行政が幼稚園や学校経営、保育・教育活動、地域との連携に深い関わりをもっていることを探り、豊かな園・学校経営や保育・教育実践の在り方について自分の視点から論じることができるようになる。			目標	A・C・K
様々な教育的社会事象や教育改革の動向から、社会の変化に対応できる教育行政の在り方や成長する教師・保育者の在り方について具体事例をもとに論じることができるようになる。			目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 教育行政で何を学ぶのか	授業計画 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習
2	公教育と教育行政の関係 ・教育に関する法規、教育制度、教育政策を概観 ・教育行政の役割	プリント教材 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート1

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	保育の専門家としての条件 — 教員・保育士の資格、力量、研修 — ・成長する教師の基盤は研修と研究 ・資格要件 特色ある研修の具体事例	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 2
4	日本の公教育制度 ・公教育の理念と制度 ・公教育のしくみ	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 3
5	学校（幼稚園）教育のしくみ ・日本と世界の学校（幼稚園）制度の比較 ・特色ある幼稚園教育の事例検討	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 4
6	教育や保育を支える法規 ・難しそうだけど含蓄がある教育法規 ・教育基本法 学校教育法 児童福祉法 幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 5
7	時事問題からみた教育行政 ・教育の話題の背景にある教育行政の現状と課題 ・時事問題からみた教育行政の取り組み	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 6
8	教育行政を動かす機関：文部科学省と教育委員会 ・文科省と教育委員会の仕組み ・幼稚園と県、教育委員会の関係	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 7
9	学校（園）の組織マネジメント ・園、学校の経営の改善・発展 ・PDCAサイクルの具体	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 8
10	教育行政からみた教師・保育者の仕事「授業・保育」 ・授業・保育で磨く教師・保育者としての力量 ・保育者の力量形成 — 研究・研修	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 9
11	教職員の職務と服務 ・服務に関する法規：職務上の義務・身分上の義務 ・職務遂行と服務は表裏一体 ・服務規程の具体	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート 1
12	教育改革からみた教育行政 ・教育課題の背景にある教育行政の取り組み ・教育改革の具体と教育行政の取り組み	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート10
13	子どもの側からみた教育行政 ・教育を受ける権利の保障 ・人権教育としての幼児教育 (ペイリーとレッジョ・エミリアの取り組み事例) ・子どもの権利条約	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート11
14	教育行政と教育財政 ・教育に関する費用：我が国の教育予算・教育財政 ・幼稚園・保育所の財務と教育費用	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート12
15	教育行政の動向と幼児教育改革への対応 ・世界の教育改革と幼児教育の動向 ・日本の幼児教育と制度改革	プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習
期末 試験	期末試験	記述方式テスト	

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 60点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。
2. 授業後の「学びの着地点」「授業テーマに関する学修ミニレポート」を30点満点で採点する。
学修ミニレポートは、予習課題、振り返り課題、追究課題を設定。
3. 授業への参加態度（討議、発言、質問、提案など）を10点満点で採点する。

【参考書】

1. 書名：新しい時代の幼児教育
著者名：小田 豊・榎沢良彦 編
発行所：有斐閣
価格：1,800円（税別）
2. 書名：教育行政学
著者名：勝野正章 編
発行所：学文社
価格：1,800円（税別）

【その他補足事項】

1. 毎時間の授業内容は「学びのナビゲーション」として概要を提示し、授業に取り組みやすくする。
2. 授業のはじめにそれまでの授業内容の振り返りを「クリッカー問題」として提示し、ペア・グループ討議を通して理解を深める。
3. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 田 辺 <small>たなべ</small> 稔 <small>みのる</small>	開講期	前期・後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、幼稚園の具体的な場面を想定しながら、教育の過程における心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育を展開するために必要な教育心理学の基本的事項を修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの心身の発達、特に心の発達過程に焦点を当てながら「発達」の基本を自分の言葉で説明できるようになる。			目標	A・C・J
日頃の生活や遊びを通して、「学び(学習)」の過程について理解を深め支援のあり方や課題について考えていけるようになる。			目標	A・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育心理学で何を学ぶのか。評価方法等	授業計画 教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
2	心理学の研究方法与教育心理学の課題 個人差をどのように捉えていくのか	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p4～p13を事前に読むこと
3	発達段階の理解(1) 生涯発達の発達段階と発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
4	発達段階の理解(2) エリクソン、ハヴィガーストの発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
5	学習(1) 学習の意味、子どもが学ぶ事の意味やその心理学的な過程の理解	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p71～p78を事前に読むこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	学習(2) 学習の過程と理論	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 71～ p 78を事前に読むこと
7	学習(3) 学習の過程と理論、条件付けと認知過程	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 78～ p 82を事前に読むこと
8	個人差の理解と教育(1) 個人差とは・個人差の理解	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 35～ p 37を事前に読むこと
9	個人差の理解と教育(2) パーソナリティの理解・代表的な見方ととらえ方	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 37～ p 40を事前に読むこと
10	個人差の理解と教育(3) パーソナリティの発達	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 42～ p 45を事前に読むこと
11	個人差の理解と教育(4) パーソナリティの測定	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	具体的な測定例として自己分析を試みる
12	教育評価(1) 評価の種類、その方法と整理	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 197～ p 200を事前に読むこと
13	教育評価(2) 教育・保育場面で活用できる統計手法	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	卓上計算機（携帯電話でも可）を用意
14	まとめ(1) 総括的な振り返り（発達から学習）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
15	まとめ(2) 総括的な振り返り（人格から教育評価）	資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 2. レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心を持った領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 3. その他 授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			
【教科書】 書名：基礎から学ぶ教育心理学 著者名：工藤俊郎・高井直美・上田恵津子 発行所：八千代出版 価格：2,200円（税別）			
【その他補足事項】 本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。やむを得ず欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。			

授業科目名	発達心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢	こ せき けん	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業では人間発達の基本的な事項や各発達段階における子どもの行動の特徴について、心理学の視点から学ぶ。特に、乳児期や幼児期を中心として、子どもの各領域（身体・運動、認知、言語など）の発達を理解できるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
人間発達の特徴について、発達に関する基本的な知識を用いて説明できるようになる。			目標	A・C
子どもの心身の発達や行動の特徴について、心理学の用語を用いてさまざまな観点から説明できるようになる。			目標	A・J
保育するうえで重要であると思われる事項について、発達心理学の視点から考察できるようになる。			目標	C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書補足資料1	教科書 p 1～3 を事前に読む
2	発達の基礎(1) 人間発達の特殊性 発達の生物学的基礎	教科書補足資料2 ミニテスト 意見発表	教科書 p 3～9 を事前に読む
3	発達の基礎(2) 発達の規定要因 遺伝と環境	教科書補足資料3 ミニテスト 意見発表	教科書 p 10～19 を事前に読む
4	新生児期(1) 誕生時の身体発育 新生児期の行動	教科書補足資料4 ミニテスト 意見発表	教科書 p 20～24 を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	新生児期(2) 新生児の知覚 新生児期の能力	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書 p 25～29を事前に読む
6	乳幼児期(1) 生涯発達からみた乳幼児期 初期経験の重要性	教科書補足資料6・ミニテスト・DVD視聴（20分）「刷り込み」（映像利用）	教科書 p 30～34を事前に読む
7	乳幼児期(2) 特徴 発達課題	教科書補足資料7 ミニテスト 意見発表	教科書 p 35～41を事前に読む
8	児童期 特徴 発達課題	教科書補足資料8 ミニテスト 意見発表	教科書 p 42～50を事前に読む
9	青年期・成人期・老年期 各段階の特徴 発達課題	教科書補足資料9 ミニテスト 意見発表	教科書 p 51～60を事前に読む
10	身体・運動の発達 移動運動 協調運動	教科書補足資料10・ミニテスト・DVD視聴（20分）「運動機能の発達」（映像利用）	教科書 p 61～72を事前に読む
11	認知の発達(1) ピアジェの発達理論 人や物に対する認知	教科書補足資料11・ミニテスト・DVD視聴（20分）「認知機能の発達」（映像利用）	教科書 p 73～76を事前に読む
12	認知の発達(2) 保存 心の理論	教科書補足資料12・ミニテスト・DVD視聴（20分）「社会性の発達」（映像利用）	教科書 p 76～82を事前に読む
13	言語の発達 前言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーション	教科書補足資料13・ミニテスト・DVD視聴（20分）「ことばの発達」（映像利用）	教科書 p 83～92を事前に読む
14	感情・気質の発達 感情の発達 気質・性格の発達	教科書補足資料14・ミニテスト・DVD視聴（20分）「情緒の発達」（映像利用）	教科書 p 93～112を事前に読む
15	まとめと発達障害の理解 発達理解の方法 障害の理解	教科書補足資料15・DVD視聴（20分）「社会性の発達」（映像利用）	教科書 p 113～122を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 記述式テスト（70点満点）を学期末に実施する。 2. 授業で実施した各ミニテストは30点満点に換算する。			
【教科書】 書名：保育の心理学Ⅰ・Ⅱ 著者名：本郷一夫（編） 発行所：建帛社 価格：2,200円（税別）			

授業科目名	発達心理学Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 発達心理学で学んだ内容を基にして、隣接領域や保育現場と関連づけながら専門的な知識を修得する。また、保育環境や保育者を含めて保育現場の問題について、発達心理学の視点から総合的に考察できるようになる。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもに関する特有な行動について、発達心理学の視点から説明できるようになる。			目標	A・C
子どもの抱える心理的問題点について、さまざまな角度から考察できるようになる。			目標	A・I
保育現場で予想される子どもの問題点について、発達心理学の観点から理解し援助の方法について考えることができる。			目標	C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書補足資料1	
2	発達初期の諸問題(1) 生物学的基礎	教科書補足資料2 ミニテスト・意見発表 ディスカッション	教科書補足資料1を読む
3	発達初期の諸問題(2) 人とのかかわり	教科書補足資料3 ミニテスト・意見発表 ディスカッション	教科書補足資料2を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	発達初期の諸問題(3) 社会・文化の要因	教科書補足資料4 ミニテスト・意見発表 ディスカッション	教科書補足資料3を事前に読む
5	新生児期の特徴 感覚・対人関係 事例	教科書補足資料5 ミニテスト・意見発表 ケーススタディ	教科書補足資料4を事前に読む
6	乳幼児期の特徴(1) 人とのかかわり 事例	教科書補足資料6・DVD視聴 (32分)「乳児期の発達と保育0 歳児」(映像利用)	教科書補足資料5を事前に読む
7	乳幼児期の特徴(2) 言葉の発達 事例	教科書補足資料7・DVD視聴 (30分)「乳児期の発達と保育1・ 2歳児」(映像利用)	教科書補足資料6を事前に読む
8	乳幼児期の特徴(3) 認知の発達① 事例	教科書補足資料8・DVD視聴 (30分)「乳児期の発達と保育3 ～5歳児」(映像利用)	教科書補足資料7を事前に読む
9	乳幼児期の特徴(4) 認知の発達② 事例	教科書補足資料9 ミニテスト・意見発表 ケーススタディ	教科書補足資料8を事前に読む
10	乳幼児期の特徴(5) 自己意識 事例	教科書補足資料10 ミニテスト・意見発表 ケーススタディ	教科書補足資料9を事前に読む
11	子どもの支援(1) 言葉 事例	教科書補足資料11 ミニテスト・意見発表 ケーススタディ	教科書補足資料10を事前に読む
12	子どもの支援(2) 仲間関係 事例	教科書補足資料12 ミニテスト・意見発表 ケーススタディ	教科書補足資料11を事前に読む
13	子どもの支援(3) 遊び 事例	教科書補足資料13 ミニテスト・意見発表 ケーススタディ	教科書補足資料12を事前に読む
14	発達障害の理解と支援 障害の理解 事例	教科書補足資料14・DVD視聴 (15分)「発達障害1」(映像利用)	教科書補足資料13を事前に読む
15	まとめ	教科書補足資料15・DVD視聴 (30分)「発達障害2」(映像利用)	教科書補足資料14を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 授業で実施した各ミニテストを70点満点に換算 2. 授業中のプレゼンテーションおよびミニレポートを30点満点に換算			
【参考書】 書名：発達心理学 著者名：本郷一夫（編） 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	臨床心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 臨床心理学の基礎的な知識を学びながら、異常といわれている心理現象についての判断基準を理解する。また、事例をとおして心理援助の実践や代表的な理論・心理療法について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
臨床心理学の基本的な事項について、専門用語を用いて説明できるようになる。			目標	A・C
臨床心理学の基本的な知識を用いて、さまざまな症状や心理現象などについて説明できるようになる。			目標	A・I
典型的なケースを基にして、心理援助の方法や理論について簡単に説明できるようになる。			目標	C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書補足資料1	教科書p8までを事前に読む
2	臨床心理学の基礎(1) 正常と異常① 統計的基準・価値的基準	教科書補足資料2 ミニテスト 意見発表	教科書p9～16を事前に読む
3	臨床心理学の基礎(2) 正常と異常② 社会的適応の基準・絶対的基準など	教科書補足資料3 ミニテスト 意見発表	教科書p18～21を事前に読む
4	臨床心理学の基礎(3) 極限状態と異常 日常生活と異常	教科書補足資料4 ミニテスト 意見発表	教科書p22～27を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	心理援助の実際(1) 事例と解説 自閉スペクトラム症・注意欠如・多動症	教科書補足資料5・ミニテスト・DVD視聴（16分） 「ADHD」（映像利用）	教科書 p 28～36を事前に読む
6	心理援助の実際(2) 事例と解説 学習障害・知的能力障害など	教科書補足資料6・ミニテスト・DVD視聴（10分） 「学習障害」（映像利用）	教科書 p 37～51を事前に読む
7	心理援助の実際(3) 事例と解説 摂食障害など	教科書補足資料7・ミニテスト・DVD視聴（36分） 「摂食障害」（映像利用）	教科書 p 52～68を事前に読む
8	心理援助の実際(4) 事例と解説 ヒステリーなど	教科書補足資料8・ミニテスト・DVD視聴（40分） 「解離性障害」（映像利用）	教科書 p 69～77を事前に読む
9	心理援助の実際(5) 事例と解説 認知症など	補足資料9・ミニテスト・DVD視聴（40分） 「自閉スペクトラム症」（映像利用）	教科書 p 78～87を事前に読む
10	心理援助の基礎(1) 人格理論 フロイト	教科書補足資料10・ミニテスト・DVD視聴（40分） 「フロイト」（映像利用）	教科書 p 90～96を事前に読む
11	心理援助の基礎(2) 人格理論 ユング・ロジャースなど	教科書補足資料11 ミニテスト 意見発表	教科書 p 97～104を事前に読む
12	心理援助の基礎(3) 人格理論 エリクソンなど	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書 p 105～110を事前に読む
13	心理アセスメント 情報の収集と整理 各種心理検査の特徴	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書 p 112～137を事前に読む
14	心理援助の方法(1) 心理療法 クライアント中心療法など	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書 p 140～148を事前に読む
15	心理援助の方法(2) 心理療法 認知行動療法・遊戯療法など	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書 p 149～160を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 授業で実施した各ミニテストを70点満点に換算 2. 授業中のプレゼンテーションおよびミニレポートを30点満点に換算			
【教科書】 書名：心とかかわる臨床心理 著者名：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円（税別）			

授業科目名	臨床心理学Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 日常生活で陥りやすいさまざまな問題（軽い心の変調状態やいわゆる「神経症」など）について、具体的な事例をとおして学ぶ。また、発達障害や虐待など子どもの問題について、事例を基にして理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
日常生活で生じる心理的な問題点について、臨床心理学の用語を用いて説明できるようになる。			目標	A・C
日常生活に潜む重大な心理的問題点について、さまざまな角度から考察できるようになる。			目標	A・I
子どもの抱えている問題点について、臨床心理学の観点から理解し援助の方法について考えることができる。			目標	C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書補足資料1	
2	全般不安症・パニック症など 特徴と症状 事例	教科書補足資料2・ミニテスト・DVD視聴（18分）「パニック障害」（映像利用）	教科書補足資料1を読む
3	強迫症など 特徴と症状 事例	教科書補足資料3・ミニテスト・DVD視聴（20分）「強迫症」（映像利用）	教科書補足資料2を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	恐怖症など 特徴と症状 事例	教科書補足資料4・ミニテスト・DVD視聴（40分）「恐怖症」（映像利用）	教科書補足資料3を事前に読む
5	解離症・変換症 特徴と症状 事例	教科書補足資料5・ミニテスト・DVD視聴（30分）「解離性障害」（映像利用）	教科書補足資料4を事前に読む
6	同一性障害 特徴と症状 事例	教科書補足資料6 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料5を事前に読む
7	統合失調症 特徴 事例	教科書補足資料7・ミニテスト・DVD視聴（30分）「統合失調症」（映像利用）	教科書補足資料6を事前に読む
8	双極性障害 特徴 事例	教科書補足資料8・ミニテスト・DVD視聴（30分）「双極性障害」（映像利用）	教科書補足資料7を事前に読む
9	その他の障害 特徴と症状 事例	教科書補足資料9 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料8を事前に読む
10	子どもの問題行動と支援(1) 問題行動 支援の方法	教科書補足資料10 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料9を事前に読む
11	子どもの問題行動と支援(2) 情緒障害 支援の方法	教科書補足資料11 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料10を事前に読む
12	子どもの問題行動と支援(3) 虐待等 支援の方法	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料11を事前に読む
13	子どもの問題行動と療法(1) 遊戯療法 事例	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料12を事前に読む
14	子どもの問題行動と療法(2) 芸術療法 事例	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料13を事前に読む
15	まとめ	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書補足資料14を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 授業で実施した各ミニテストを70点満点に換算 2. 授業中の意見発表およびミニレポートを30点満点に換算			
【参考書】 書名：心とかかわる臨床心理 著者名：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円（税別）			

授業科目名	子どもの保健		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤助教 石井佳世子 〔本務先：福島県立医科大学 職名：助手〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目では、小児の特徴を理解し、小児が心身ともに健康に発育していくために必要な知識や支援について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子ども心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。			目標	A
子どもの発育、発達、保健について理解する。			目標	A
子どもの疾病と予防及び対応について理解する。			目標	A・B・K
子どもの精神保健とその課題について理解する。			目標	A・C・D・G・K
保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。			目標	A・B
施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 人の成り立ち、子どもの特徴	授業計画 プリントを中心とした講義	
2	小児保健の目標と現状 健康の概念	〃	配付プリントの予習・復習
3	子どもの成長発達(1) 身体発育	〃	〃
4	子どもの成長発達(2) 生理機能 (呼吸・循環・体温調節)	〃	〃
5	子どもの成長発達(3) 運動機能	〃	〃
6	子どもの成長発達(4) 精神機能	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	子どもの生活(1)（衣服・免疫機能・清潔）	授業計画 プリントを中心とした講義	配付プリントの予習・復習
8	子どもの生活(2)（排泄）	〃	〃
9	子どもの生活(3)（消化機能・栄養）	〃	〃
10	子どもの生活(4)（睡眠・脳・感覚機能）	〃	〃
11	子どもの生活(5)（遊び）	〃	〃
12	子どもの生活環境・保育の多様化	〃	〃
13	子どもの精神保健(1)（心身症、虐待）	〃	〃
14	子どもの精神保健(2)（障害）	〃	〃
15	起こりやすい事故と事故予防	〃	〃
16	前期末試験	筆記試験	
17	子どもの疾病(1)	プリントを中心とした講義	配付プリントの予習・復習
18	子どもの疾病(2)	〃	〃
19	子どもの疾病(3)	〃	〃
20	子どもの疾病(4)	〃	〃
21	子どもの疾病(5)	〃	〃
22	子どもの疾病(6)	〃	〃
23	子どもの疾病(7)	〃	〃
24	子どもに起こりやすい症状(1)（発熱・痛み）	〃	〃
25	子どもに起こりやすい症状(2)（咳・呼吸困難）	〃	〃
26	子どもに起こりやすい症状(3)（下痢・嘔吐・腹痛）	〃	〃
27	子どもに起こりやすい症状(4)（脱水・けいれん）	〃	〃
28	子どもの救急処置	〃	〃
29	保育環境と衛生管理・安全管理	〃	〃
30	健康及び安全の実施体制 母子保健施策 まとめ	〃	〃
期末 試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期末試験（40%）、後期末試験（40%）、出席状況（10%）、授業への参加度（10%）により総合的に評価する。 試験については、筆記試験を予定している。			
【教科書】 指定なし。講義用のプリントを配付する。			

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>わた なべ かず よ</small> 渡 邊 一 代 〔本務先：福島県立医科大学 職名：講師〕		開講期	半期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 健康な小児の発育・発達を理解し、適切な保育のあり方の基本知識と技術態度を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの健康及び安全に関わる保健活動の計画及び評価について修得する。			目標	A・C・J・K
子どもの保健増進及び心身の発達・発育を促す保健活動や環境を理解する。			目標	A・C・G・J・K・L
子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に身につける。			目標	A・B・C・G・J・K・L
救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に理解する。			目標	A・B・C・G・J・L
現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。			目標	A・J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 保健活動の計画及び評価	授業計画 教科書	教科書の該当箇所を事前に通読
2	子どもの養護(1)	演習：抱き方、背負い方、衣類の着脱、おむつ交換、授乳法 教科書、レポート①	
3	子どもの養護(2)		
4	子どもの養護(3)		
5	子どもの生理機能の測定 子どもの身体計測(1)	演習：頭囲・胸囲・身長・呼吸・脈拍・体温の計測と測定 教科書、レポート②	
6	子どもの身体計測(2)		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	子どもの神経系の発達評価	教科書、プリント配付 レポート③	
8	子どもの歯の健康	演習：歯磨き、手洗い 教科書、レポート④	
9	子どもの身体の清潔(1)	DVD「赤ちゃんのお世話」15分 演習：沐浴 教科書、レポート⑤	教科書の該当箇所を事前に通読
10	子どもの身体の清潔(2)		
11	子どもの異常症状と適切な対応(1)	ビデオ「ママの応急手当」21分 教科書、レポート⑥	
12	子どもの異常症状と適切な対応(2) 子どもの事故と応急手当(1)		
13	子どもの事故と応急手当(2)		
14	心肺蘇生法	演習：心肺蘇生法、 教科書、レポート⑦	
15	心と身体の問題と地域保健活動 三角巾を使用した応急処置	演習：三角巾の活用 教科書、レポート⑧	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験 70点満点 2. 小テスト（12回） 12点満点 3. 実技試験（4回） 8点満点 4. レポート（8回） 8点満点 5. 発表（2回） 2点満点 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。			
【教科書】 書名：子どもの保健Ⅱ 著者名：高内正子 編集 発行所：建帛社 価格：2,100円（税別）			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 田村佳奈美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 乳児期から小児、学童期と子どもの食生活は心身の健全な発育、発達のみならず、生涯にわたる健康的な食習慣を築く基礎となる。また将来の疾病予防とも大きな関連がある。近年、栄養の偏りや「欠食」、「こ食」の問題も大きい。子どもの成長段階に応じた栄養・健康について食を通して考え、保育士として必要な子どもの食と栄養について学び、適正な食、栄養のあり方の知識、技術を習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
栄養、食に関する基礎知識を修得する。		目標	A・B・C	
健康な生活の基本としての食事の意義や食事の大切さを学ぶ。		目標	A・C・H	
子どもの食と栄養を理解し栄養と発育の関連、栄養の過不足が理解できる		目標	A・B・C・J・K	
食育の基本を地域社会、文化との関わりを通して学び、食育を企画することができる。		目標	A・B・C・I・J	
家庭や児童福祉施設の食生活の現状、特別な配慮を要する子どもの食事と栄養について理解する。		目標	A・B・C・H	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方 その他	授業計画 教科書	
2	第1章 世界における子どもの栄養の問題 子どもの栄養不良の現状 栄養不良とは	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 1～6 を事前に読む
3	第2章 子供にとって食・栄養がなぜ大切か 子どもの発育と発育の評価	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 7～18 を事前に読む
4	第3章 栄養にかかわる主な器官とその発達 1. 栄養の基礎知識 (1) 三大栄養素、五大栄養素、水、栄養素の各論	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 19～28 を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	(2) 栄養素の消化吸収 2. 栄養にかかわる器官とその発達	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 29～36を事前に読む
6	第4章 栄養バランスのとれた食事とは 1. 日本人の食事摂取基準(2015年版)と小児の特徴	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 37～41を事前に読む
7	2. 子どもの食事と栄養バランス (1) 食品がもつ栄養・嗜好・生体調節機能 (2) 献立作成、食品群の種類と特徴	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 41～53を事前に読む
8	3. サプリメントと子どもの食事 4. 食品表示について	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 54～57を事前に読む
9	演習 (1) 市販離乳食、市販加工品の食品表示調べ (2) 離乳食の味見 (3) 前日の食事記録の栄養バランス、評価	教科書、補足資料、 食品サンプル（離乳食、缶詰） グループディスカッション (1)の発表（各グループ） (2)のレポート提出	教科書 p 58～59 前日の食事を記録してくる
10	第5章 胎児期の栄養と母体の栄養と特徴	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 60～67を事前に読む
11	演習 (1) 胎児に影響する有害因子について (2) 葉酸・鉄・カルシウムの摂り方	教科書、補足資料 (1)、(2)の発表	教科書 p 68～69を事前に考える
12	第6章 乳児期の栄養・食生活の特徴 1. 母乳栄養	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 70～75を事前に読む
13	2. 人工乳栄養、人工栄養 3. 混合栄養 4. 乳児の食育の考え方	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 76～81を事前に読む
14	5. 離乳食 6. 乳児期の栄養障害・食生活上の問題と対応	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 82～96を事前に読む
15	前期まとめと演習 幼児の献立作成（夏期課題レポート）	教科書、補足資料 パワーポイント 夏期課題レポート	前期の復習
16	第7章 幼児期の栄養・食生活の特徴 1. 成長と発達 2. 食習慣の形成 3. 食生活上の問題	教科書、補足資料 パワーポイント 夏期課題レポート提出	教科書 p 97～105を事前に読む
17	4. 幼児の食事 5. 幼児の食育の実際	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 106～111を事前に読む
18	演習 (1) 食材料に興味・関心が持てるような与え方 (2) 食事のマナーを身に付ける方法 (3) お弁当作りのポイント	教科書、補足資料 パワーポイント (1)、(2)、(3)の発表	教科書 p 112～113を事前に調べる
19	第8章 学童・思春期の栄養・食生活の特徴	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 114～128を事前に読む
20	第9章 食育の基本 1. 食育における養護と教育 2. 食育の内容と計画・評価	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 129～136を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	3. 食育のための環境 4. 地域、職員連携 5. 食生活の指導、支援	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 136～149を事前に読む
22	ここまでのまとめ 確認ミニテスト	教科書、補足資料 パワーポイント ミニテスト	教科書 ここまでの復習
23	第10章 子どもの食と栄養 1. 家庭における食事と栄養 演習（食事調べ）	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 150～152前日の 食事を記録してくる
24	2. 児童福祉施設における食事と栄養 確認ミニテスト	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 152～160を事前に読む
25	第11章 小児の疾患と栄養 1. 小児の疾患 2. 新生児期にみられる疾患 脱水と熱中症	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 161～164を事前に読む
26	3. 小児期にみられる疾患	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 165～172を事前に読む
27	4. 慢性疾患・アレルギー等	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 173～184を事前に読む
28	5. 障害のある子どもの食事	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 p 173～184を事前に読む
29	演習 食物アレルギーの子どもが入所した場合の対応	教科書、補足資料 演習の発表	教科書 p 193～194
30	統括まとめ		
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験は70点満点の記述式のテストを学期末に実施する。 2. 授業内レポートは10点満点の採点とする。 3. 前期末の夏期課題レポート（献立作成）は夏期休暇明けの提出とし、20点満点で採点する。 提出が遅れた場合には採点結果より5点マイナスとする。 4. その他 (1) 演習とまとめを授業内で行い、数名に発表してもらい意見を出し合うなどのディスカッションをする。 (2) 授業内容の理解のために2～3回確認ミニテストを行う。答え合わせは授業内で行い、理解度を各自確認する資料とする。			
【教科書】 書名：改定 セミナー 子どもの食と栄養 著者名：上原誉志夫・根岸由紀子編著 発行所：建帛社 価格：2,600円（税別）			
【その他補足事項】 グループワーク：市販離乳食、加工食品の表示確認、発表、ディスカッション 体験学習：市販の離乳食の味見 夏期レポート：献立作成と1品調理、写真撮影			

授業科目名	家庭支援論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	なかのあきこ 中野明子	開講期	前期・後期
	講師	たかはしゆうじ 高橋雄二	授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 家庭支援の意義と役割を理解すると共に、家庭生活を取り巻く社会的状況を学ぶ。 子育て家庭の多様なニーズに対する支援体制とその展開、関係機関との連携について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
家庭支援の意義とその機能について理解する。			目標	A
子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。			目標	A
子育て家庭の支援体制について理解する。			目標	A・G
子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。			目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法 授業の進め方と留意点 第1講 家庭の意義と機能 「家庭」「親族」「世帯」とは 家族の定義と機能の変化	授業計画 教科書補足資料1	シラバス 教科書p 2~12を事前に読む
2	第2講 家庭支援の必要性 家庭における無生活課題 生活の主体である家庭がもつ力	教科書補足資料2	教科書p 14~24を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第3講 保育士等が行う家庭支援の原理 児童福祉法改正と家庭支援の制度化 保育所・幼稚園における家庭支援	教科書補足資料3 DVD視聴（20分） 「プロフェッショナル」	教科書 p 26～36を事前に読む
4	第4講 家庭生活を取り巻く社会的状況の変化 家庭とは 「おかあさん」という存在の多様性	教科書補足資料4 DVD視聴（30分）「マザーズ産みの親はだれですか」	教科書 p 38～44を事前に読む
5	第5講 地域社会の変容と家庭支援 地域における多様な福祉課題 子どもの貧困対策	教科書補足資料5 DVD視聴（30分） 「記憶の回廊」	教科書 p 50～60を事前に読む
6	第6講 現代の家庭における人間関係 現代の家族・家庭の変容 家庭支援の際に配慮すべき人間関係	教科書補足資料6	教科書 p 64～72を事前に読む
7	第7講 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス 仕事と育児の両立環境	教科書補足資料7	教科書 p 76～86を事前に読む
8	第8講 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 児童家庭福祉の施策体系 社会資源としての専門機関	教科書補足資料8	教科書 p 88～98を事前に読む
9	第9講 子育て支援施策・次世代育成支援施策 子育て支援・次世代育成支援の経緯 子ども・子育て関連3法の概要	教科書補足資料9	教科書 p 100～110を事前に読む
10	第10講 多様な子育て支援サービスの概要 子育て支援サービスの意義と体制 子ども・子育て支援新体制の概要	教科書補足資料10	教科書 p 112～124を事前に読む
11	第11講 保育所入所児童の家庭への支援 保育所の役割 入所している子どもの保護者への支援	教科書補足資料11	教科書 p 126～138を事前に読む
12	第12講 地域の子育て家庭への支援 地域子育て家庭への支援とは何か 保育所の特性を活用した地域子育て家庭への支援	教科書補足資料12	教科書 p 140～149を事前に読む
13	第13講 要保護児童およびその家庭に対する支援 要保護児童の全体像と家族的背景 親子関係再構築支援	教科書補足資料13	教科書 p 152～162を事前に読む
14	第14講 子育て支援における関係機関との連携 関係機関と連携する意味 子育てしやすい地域づくり	教科書補足資料14	教科書 p 164～173を事前に読む
15	第15講 子育て支援サービスの課題 待機児童対策と子育て支援 社会資源としての地域社会のあり方 まとめ	教科書補足資料15	教科書 p 176～184を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 80点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 2. レポート レポートは20点満点の採点とする。課題については授業時に説明する。			
【教科書】 書名：家庭支援論 著者名：新保幸男・小林 理 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 さくま まさ ひろ 佐久間 正 弘		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 カリキュラムと教育課程の意義、様々な教育思想に基づく教育課程について理解するとともに、日本における教育課程に係る法令及び保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学習し、保育・教育課程の編成方法の理解を深めた上で、長期的指導計画、短期的指導計画試案を作成する。指導と評価の一体化の視点で教育課程改善の実際事例を考察する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育・教育課程の意義を理解し、その必要性、法的根拠、編成の手順を説明できる。			目標	A・C
発達段階に応じた長期的計画、短期的計画の試案を作成できる。			目標	D・J
指導と評価の一体化の視点から、より質の高い教育課程の在り方を検討できる。			目標	C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標、評価方法 (2) カリキュラムと教育課程	講義 授業計画 PowerPointによるスライド 配付資料	授業計画を読んでおく
2	ふたつのカリキュラム 意図したカリキュラム 意図しないカリキュラム	講義と話し合い PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
3	カリキュラムの類型と歴史 教科カリキュラム・経験カリキュラム フレーベル～倉橋惣三～現代	講義と話し合い PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
4	保育・幼稚園教育の基本 幼稚園と保育所、認定こども園 保育所以外の児童福祉施設	講義と話し合い 教科書 PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
5	保育・幼稚園教育の基本に関連して重視すること ふさわしい生活の展開、遊びをとおしての総合的な 指導、一人一人の特性に応じた指導	講義と話し合い 教科書 PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	計画的な環境構成と保育者・教師の役割 幼児の主體的活動と環境構成	講義と話し合い PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく レポート提出
7	教育時間終了後等に行う教育活動 教育活動と子育て支援	講義と話し合い 教科書 PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
8	指導計画作成の手順とポイント 幼児の姿、具体的なねらいと内容 ねらい、内容と環境構成	講義と話し合い 教科書 PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
9	長期の指導計画の実際 事例の検討と作成準備	小グループでの話し合いと準備活動 教科書	試案作成準備
10	長期の指導計画の作成 試案の作成	個人で指導計画を完成させる 教科書	試案を完成させる
11	短期の指導計画の実際 事例の検討と作成準備	小グループでの話し合いと準備活動 教科書	試案作成準備
12	短期の指導計画の作成 試案の作成	個人で指導計画を完成させる 教科書	試案を完成させる
13	幼児教育と小学校教育の接続 円滑な接続と指導計画	講義と話し合い 教科書 PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
14	評価と指導計画の改善 長期・短期の評価と改善 指導の過程における評価と改善	講義と話し合い 教科書 PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
15	まとめ 新しい時代の幼児教育	講義と話し合い PowerPointによるスライド 配付資料	配付資料を読んでおく
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. レポート（授業中に課題を提示する） 30点満点 2. 指導計画試案（第9～12回の授業で作成する） 30点満点 3. 期末試験 30点満点 4. 授業への積極的参加態度 10点満点			
【教科書】 書名：幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：250円（税別）			
【参考書】 書名：教育課程・保育課程論 著者名：千葉武夫・那須信樹 発行所：中央法規出版 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育内容総論		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 ながしまてる すずきとも 鈴木智子	こ 子	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育・保育所・認定こども園の教育及び保育の基本に基づく保育内容の総合的な達成の理解に重点をおいて、保育内容の相互関連的な理解の具体化を図る。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育内容の相互関連性を具体的に理解する。			目標	A・C・G
保育内容の歴史の変遷や現在の子どもを取り巻く社会的環境の変化について学ぶ。			目標	A
5領域を通し幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容とその果たす役割を理解する。			目標	A・I・J
養護と教育、保幼小連携について学ぶ。			目標	A・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育内容総論を学ぶにあたって	授業計画 教科書 レポート (感想)	予習 教科書 (P10~P17)
2	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容	教科書 (P10~P17) グループワーク 講義	授業の復習
3	「幼稚園教育要領」における保育内容	教科書 (P32~P43) 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 講義	授業の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「保育所保育指針」における保育内容	教科書（P18～P31） 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 講義	授業の復習
5	保育内容と養護にかかわる事項	教科書（P22～P24） プリント 講義	授業の復習
6	保育内容と総合的な保育展開「健康」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
7	保育内容と総合的な保育展開「人間関係」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
8	保育内容と総合的な保育展開「環境」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
9	保育内容と総合的な保育展開「言葉」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
10	保育内容と総合的な保育展開「表現」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	レポート：「保育現場における遊び」について
11	保幼小の連携を創造する保育内容	教科書（P114～P127） 講義	レポート提出 授業の復習
12	子育て支援を創造する保育内容	教科書（P128～P141） 講義 グループワーク	授業の復習
13	わが国における保育内容の変遷	教科書（P154～P165） 講義	授業の復習
14	これからの保育内容の課題	教科書（P178～P192） 講義 グループワーク	授業の復習
15	まとめ ・保育者に求められる姿 ・保育内容総論のまとめ（期末試験について）	教科書 グループワーク 発表	まとめ・期末試験の予習
期末試験	期末試験	ペーパー試験	

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 筆記試験：80点満点の記述方式のテストを学期末に実施。
- レポート：1回提出で20点満点の採点とする。

- 【教科書】
1. 書名：実践を創造する演習「保育内容総論」
著者名：豊田和子
発行所：(株)みらい
価格：2,000円（税別）
 2. 書名：保育所保育指針
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：120円（税別）
 3. 書名：保育所保育指針解説書
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：190円（税別）
 4. 書名：幼稚園教育要領
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：100円（税別）
 5. 書名：幼稚園教育要領解説書
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
 6. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：150円（税別）
 7. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：249円（税別）

※ 2～7については平成20年度告示版。

授業科目名	保育内容指導法 健康		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 さとう おさむ 佐藤 理		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子ども自身が自ら健康で安全な生活を創り出す力を培うために保育者として乳幼児の健康と安全にどう関わるかについて、基本的な生活習慣、安全能力の育成などに関する指導の実践力を養う点から、指導案の作成、教材・教具の工夫、模擬指導などを演習形式で進めます。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育内容「健康」について乳幼児の発達過程に即して理解し、総合的な指導・援助ができる。			目標	A
健康的な発育発達支援のための指導計画案を作成し、模擬指導をととして指導することができる。			目標	B・D・E・F・G・I・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価の方法 (3) その他	授業計画 幼稚園教育要領 保育所保育指針	
2	領域「健康」のねらいと内容(1)	スライドによる解説 保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
3	領域「健康」のねらいと内容(2)	スライドによる解説 保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	健康づくりに向けた保健指導(1) 指導のねらい1 指導案1	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
5	健康づくりに向けた保健指導(2) 教材・教具の工夫1	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
6	健康づくりに向けた保健指導(3) 教材・教具の工夫2	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
7	健康づくりに向けた保健指導(4) 模擬指導1	模擬指導演習	講義内容の復習
8	健康づくりに向けた保健指導(5) 模擬指導2	模擬指導演習	講義内容の復習
9	健康づくりに向けた保健指導(6) 指導のねらい2 指導案2	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
10	健康づくりに向けた保健指導(7) 教材・教具の工夫3	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
11	健康づくりに向けた保健指導(8) 教材・教具の工夫4	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
12	健康づくりに向けた保健指導(9) 模擬指導3	模擬指導演習	講義内容の復習
13	健康づくりに向けた保健指導(10) 模擬指導3	模擬指導演習	講義内容の復習
14	まとめ(1)	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
15	まとめ(2)〔試験を含む〕		
【期末試験の講評】 希望者には試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 教材・教具制作 30% 2. 模擬指導 30% 3. 試験 30% (小テストを含む) 4. 受講態度 10%（意見発表及び発言内容等）			
【教科書】 書名：保育所保育指針 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：120円（税別）			
【参考書】 書名：幼稚園教育要領 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：100円（税別）			
【その他補足事項】 模擬指導のための教具作成を行う。準備する物については、オリエンテーションで説明する。			

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 鈴木智子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」について理解し、乳児期から幼児期にかけての発達、道徳性や規範意識の発達について理解する。 具体的には、保育における人間関係を様々な側面から理解できるように、現場での実践を振り返る際、自分自身が経験してきた人間関係や現在の他者との関係の持ち方なども考え、具体的なテーマに基づいて理解を深める。人間関係の指導方法を実践事例を通して具体的に培う。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代社会における子どもを取りまく環境とその「人間関係」を理解する。		目標	A・C・L
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域の「人間関係」のねらいや内容を具体的事例から学び、その指導法について理解する。		目標	A・B・G
保育実践での「人間関係」に関わる具体的問題を取り上げ、基本的な考え方と方法を考察し適切な援助や対応ができる力を培う。		目標	A・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 ○なぜ人間関係を学ぶのか ～人とかかわる力の成長と現代社会～	授業計画 教科書 「今までの人生で自分が出会った心に残る人々」について【グループ討議】	課題レポート① 「今まで私を支えてくれた人々」
2	1. 現代社会の子どもを取り巻く今日的課題	教科書 プリント資料1	復習 人とかかわる力の成長と現代社会
3	2. 幼児期の環境構成や人とかかわり ○園舎内外の環境構成と保育方法	教科書 プリント資料2 VTR (30分)「子どもを育む保育の環境」(映像利用) 【グループ討議】	復習 教科書 P 9～20 現代社会の子どもを取り巻く今日的課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	3. 領域「人間関係」と他領域との関連 ○他領域との関係の基礎理解と指導方法の実際	教科書 プリント資料3	復習 P53～65 幼児期の環境構成や人とのかかわり
5	4. 乳幼児の発達と人間関係 ○0歳児～3歳未満児の発達とかかわりの方法 ○3歳以上児の発達とかかわりの方法	教科書 プリント資料4	復習 P21～30 領域「人間関係」と他領域との関連
6	5. 遊びのなかで育つ人間関係 ○友達とかかわりをねらいにした指導計画案の作成と保育方法	教科書 VTR (30分) 育ちあい「ある保育園の子どもたち」(映像利用) 【グループ討議】	復習 P31～39 乳幼児の発達と人間関係
7	6. 保育者に求められている人間関係 ○保育者とかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法	教科書 プリント資料5	復習 P40～52 遊びのなかで育つ人間関係
8	7. 特別な支援を必要とする幼児と他の幼児がともに育ちあうためのかかわり ○支援計画の立案について	教科書 プリント資料6	復習 P66～76 保育者に求められている人間関係
9	8. さまざまな人々との交流と保・幼・小の交流活動の実践	教科書 プリント資料7 【グループ討議】	復習 P77～86 特別な支援を必要とする幼児と他の幼児がともに育ちあうためのかかわり
10	9. 就学前の子どもの育ちを支える人間関係	教科書 プリント資料8	復習 P87～97 さまざまな人々との交流と幼・保・小の交流活動の実践
11	10. 保育者と保護者の人間関係 保護者への支援事例	教科書 プリント資料9	課題レポート② 「私が保育現場で大切にしたい人間関係」
12	11. 地域子育て支援活動や預かり保育における保育者の工夫や取り組み	教科書 プリント資料10	復習 P109～117 保育者と保護者の人間関係
13	12. 多文化保育と人間関係 異文化理解のためのかかわり	教科書 プリント資料11 【グループ討議】	復習 P118～124 地域子育て支援活動や預かり保育における保育者の工夫や取り組み
14	13. 指導計画の立案と保育の実践方法	教科書 プリント資料12	復習 P125～133 多文化保育と人間関係
15	授業内容のまとめ	教科書 プリント資料13 1～14の振り返り	復習 「総まとめ」
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 …… 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 2. レポート …… レポートは2回提出で30点満点の採点とする。(15点×2回)			
【教科書】 書名：保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」 著者名：咲間まり子 発行所：みらい 価格：2,000円（税別） ※保育所保育指針・保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書は、授業で使用するので20年告示版、30年告示版を持参すること。 *初回授業で説明する。			

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 佐藤 菊子		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等は教室で対応する。		

【授業の概要】 領域「人間関係」のねらいおよび内容について、ビデオ・事例を使用しながら展開する。乳幼児の人間関係を育てるために、保育の方法・内容・環境・保育者の援助を踏まえ、「人とかかわる力」を身につけるため主体的に授業に参画する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
人間関係の育ちから、幼児の心を捉えることができるように、ビデオ視聴や絵本などの活用を図り理論と実践を繋げながら保育のあり方を具体的に学びコミュニケーション能力が身につくようにすることを到達目的とする。			目標	A・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 幼児教育の基本 ～幼児教育の目的と領域～ ～環境を通しての教育～	授業計画 VTR「幼稚園の1日の生活から」 幼稚園の実践から	<ul style="list-style-type: none"> レポート「子どもの遊び」を次回まで仕上げてくる 教科書P25～28を読んでくる
2	幼児教育の基本 ～保育者のさまざまな役割～	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P29～32を読んでくる
3	乳幼児期の発達と領域「人間関係」 ～人とのかかわり～	人とのかかわりと遊び VTR「ちっちゃいけどいい？」(22分) 視聴後、グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P49～55を読んでくる VTR「ちっちゃいけどいい？」のレポートを次回までに仕上げてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	乳幼児の発達と領域「人間関係」 ～友だち・集団・友だちとぶつかる～	友だちとぶつかることについて事例から理解する	・日案「おにごっこ」遊びを次回まで仕上げてくる ・教科書P58～65を読んでくる
5	子どもと保育者のかかわり ～信頼関係・子どもの関係～	実践「運動会に向けて：鬼ごっこ遊び」	・教科書P72～81を読んでくる
6	子どもと保育者のかかわり ～幼児期の人間関係とコミュニケーション～	VTR「あしたね」(20分) 視聴後、グループワーク 資料「人間関係のしくみ」	・教科書P84～90を読んでくる
7	遊びのなかの人とのかかわり ～幼児期の人間関係とコミュニケーション～	ごっこ遊びの事例・ごっこ遊びで育つ事例についてグループワーク（遊びの中でのいざござから）	・資料「集団遊び」を読んでくる ・教科書P97～103を読んでくる
8	遊びのなかの人とのかかわり ～自己表現と仲間づくり～	実践「集団遊び」 グループワーク	・ミニレポート「仲間づくり」 ・教科書P106～112を読んでくる
9	生活を通して育つ人とのかかわり ～子どもの生活と「人間関係」～	VTR「ほんとうのオバケみたい」(20分) 視聴後、グループワーク	・教科書P128～144を読んでくる ・資料「集団遊び：くつつき鬼」を読んでくる
10	個と集団の育ち ～集団で活躍する楽しさの「人間関係」～	実践「集団遊び：くつつき鬼」のグループワーク	・教科書P156～162を読んでくる
11	人とのかかわりを見る視点 ～遊びの中の「人間関係」～	VTR「迷路ごっこだよ」(25分) 視聴、グループワーク	・教科書P163～167を読んでくる ・資料「集団遊び：猛獣狩りにいこうよ」を読んでくる
12	人とのかかわりを見る視点 ～遊びの中の「人間関係」～	実践「集団遊び：猛獣狩りにいこうよ」グループワーク	教科書P168～172を読んでくる
13	人とのかかわりの育ちと「人間関係」 ～依存と自立、自我と自己主張～	グループワーク（見守るなど）	教科書P174～176を読んでくる
14	幼児教育の現代の課題と領域「人間関係」 ～地域社会と子どもの育ち～	人とのかかわり「保育現場から学ぶ」	教科書P177～182を読んでくる レポート「地域の子どもたち」 次回まで仕上げる
15	幼児教育の現代と課題と「人間関係」 ～地域社会と子どもの育ち～	人とのかかわりと今日的課題 グループワーク・発表	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験 60% レポート、ミニレポート 20% 授業態度等 20% ※1. 「成績評価への補足的対応措置」により、授業態度と欠席、遅刻・早退による減点を行う。 2. 課題（宿題）未提出は各2点減点。優秀レポートは各1～3点加点。 なお、詳細については初回の授業時に説明する。			
【教科書】 書名：事例で学ぶ保育内容「人間関係」 著者名：無藤 隆 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 環境		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 すぎ 浦 ひろ ゆき 杉 浦 広 幸		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業におけるテーマは、保育における環境（子どもの暮らし、あそび、学びにとって意味のある外界）としての物的環境、人的環境、自然環境および社会的環境を学習する。また、基本的に知っておくべき動植物について学習してもらう。そして、出身地・実習先の環境に関わる特徴の学習について、学生の自主的な学習を促す。さらに、放射能の問題もまだ残っているため、保護者に安心してもらえるよう、対策と必要な知識を学習してもらう。さらに、能動的学習についても取り入れる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子どもが周囲の環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味関心を持たせられるような保育ができるようになる。		目標	A・H	
子どもが身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れられるような保育ができるようになる。		目標	B・K	
身近な事象を見たり考えたり、扱ったりする中で物の性質や数量、文字などに対する感覚が豊かになるような保育ができるようになる。		目標	C・I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業オリエンテーション、保育での「環境」とは (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 (園庭の構造を理解する)	授業計画 教科書 園庭見学	幼児期に遊んだ空間を思い出し、整理しておく 教科書（左記頁）を読んでおく
2	領域「環境」のとらえ方と考え方（子どもにとって魅力ある「環境」とは） 幼稚園教育要領・保育所保育指針および認定こども園教育・保育要領より	教科書、Power Point、 手製資料（法・規則）	幼稚園・保育所の認可基準を調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	保育環境の基本 (乳幼児の環境、環境を通しての保育、保育環境の構成する保育者)	教科書 Power Point	出身幼稚園・保育所の敷地を思い出して整理しておく
4	身近な環境の構成：人的環境 (子どもと保育者の意味、友だちや異年齢の子、様々な人との関わり、物の媒介とイメージの共有)	教科書、Power Point、 グループワーク(人的環境)	自身の望む将来の家庭像を創造しておく
5	身近な環境の構成：物的環境 (幼児にとって魅力ある環境、屋内環境と屋外環境)	教科書、Power Point、 グループワーク(屋内環境)	校舎内の構造物が、自分に及ぼす影響を考えておく
6	身近な環境の構成：社会的環境 (社会問題、法、園行事)	教科書、Power Point、 グループワーク(社会環境)	保育と地域社会の関係について整理しておく
7	乳幼児の発達と環境、数量・文字、図形・標識 試験準備（復習）	教科書、Power Point	生活の中で、社会のルールをどう学んだか整理しておく
8	中間テスト 季節との出会い	ペーパー式テスト 季節の発見	今までのところを復習しておく
9	さまざまな環境(1) (自然の事象への関心、地元の自然、遠足)	教科書、手製資料（自然公園）、Power Point、 グループワーク（遠足）	出身地周辺の自然公園を調べておく
10	さまざまな環境(2) (植物とのかかわり、花と草)	教科書、Power Point、 小テスト①花・草	こどもの好きな草花を調べておく
11	さまざまな環境(3) (植物とのかかわり、木)	教科書、Power Point、 小テスト②木	木や葉の保育での利用方法を調べておく
12	さまざまな環境(4) (生き物とのかかわり)	教科書、Power Point、 小テスト③生き物1	こどもが好きな生き物を調べておく
13	自然環境(5) (農作物の栽培と利用、ビオトープ)	教科書、Power Point、 小テスト④生き物2	こどものころの野菜栽培体験を整理しておく
14	安全対策(1) (震災対策)	教科書、Power Point、 グループワーク(津波避難)	震災について、自身の体験を整理しておく
15	安全対策(2) (原発事故、その他)	教科書、Power Point、 レポート（原発事故対策の基準値）	乳幼児の基準値と成人の基準値の違いを確認しておく
【到達度の評価（評価方法・基準）】 中間テスト40点。小テスト40点（10点満点×4回、間違った回答へのレポート対応可）。 レポート10点（1回）。プレゼンテーション10点（5点×2回）。 「成績評価への補足的対応措置」により、減点等を行う。 ※詳細については、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：生活事例からはじめる ― 保育内容 ― 環境 著者名：徳安 敦・瀧川光治・杉浦広幸 発行所：青踏社 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 本授業は、季節感や体験を重視するため、基本的に授業中毎回屋外に出る機会を設ける予定である。 そのため、服と靴は屋外を散策するのに問題ないものとする。			

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 田 上 貞一郎 <small>た がみ ていいちろう</small>		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の言葉の発達の特徴や言語環境とのかかわりから、幼児の言語的資質を高める理論と実践について理解を深める。「言葉のモデル」としての保育者の言葉遣いについても触れる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの言葉の獲得と発達について理解を深める。			目標	A・B
乳幼児期の言葉の特徴やその指導について知識・能力を深化させたい。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 保育内容「言葉」の位置づけと内容	自己プレゼンテーション 教材：授業計画 教科書	教育計画の確認
2	「言葉」に関するねらいと内容 — 幼稚園教育要領 —	朗読 指名問答 教材：幼稚園教育要領解説 教科書	幼稚園教育要領解説予習 朗読練習
3	「言葉」に関するねらいと内容 — 保育所保育指針 — — 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 —	朗読 指名問答 教材：保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 教科書	保育所保育指針解説書予 習 幼保連携型認定こども 園教育・保育要領予習 朗読練習
4	保育者のことば 方言・敬語・幼稚園語	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育者のことば 保育者の話し方・発問と助言・保育者の発声	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
6	子どものことば ことばの発達・ことばの発達と条件・音声の発達	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書 DVD視聴（「ことばの発達」21分）	学習範囲予習 朗読練習
7	子どものことば 語彙の発達・文字の発達・言語障害	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書 DVD視聴（「早期教育を考える」21分）	学習範囲予習 朗読練習
8	ことばの指導と計画 年間・学期別・月間指導計画表、週案、日案	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：課題（日案の書写） 作成
9	子どもの言葉を発達させる活動 — ことば遊び — (課題の提出)	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
10	子どもの言葉を発達させる活動 — 絵本(1) —	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
11	子どもの言葉を発達させる活動 — 絵本(2) —	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
12	「ブックスタート」について	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書VTR視聴（「クシュラの奇跡」24分）（「ブックスタートの活動」16分）	学習範囲予習 朗読練習
13	子どもの言葉を発達させる活動 — 紙芝居 —	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
14	子どもの言葉を発達させる活動 — その他の活動 —	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書 カセットテープ 聴取（NHKラジオ第2 「お話出てこい」15分）	学習範囲予習 朗読練習
15	総括質疑 — 今までの授業内容を踏まえて「言葉」について質疑する —	口頭発表 指名問答 教材：教科書	質疑の準備
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書の朗読（10%）、期末試験の成績（80%）、課題提出（10%）から客観的に評価する。 ※欠席1回につき3点減点とする。ただし、実習による欠席は減点の対象外とする。 ※教科書等教材忘れは1回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育内容指導法 言葉 著者名：田上貞一郎 他 発行所：萌文書林 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 <small>ながしまてるこ</small> 長島輝子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 人間にとっての「ことば」の歴史から、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」のねらいを学び、0歳児から就学前の幼児の言葉の発達の特徴や保育者のかかわりおよび役割等について理解を深める。 さらに実践を通して、年齢に応じた「ことば」の表現を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領のねらいと内容を理解する。			目標	A
「ことば」の育つ道筋、育むための保育者のかかわり・役割を知る。			目標	C・J・L
指導計画と「ことば」について年齢別に学ぶ。			目標	A・F
「ことば」と子どもの権利及び新たな課題について学ぶ。			目標	J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と到達目標 ・授業内容と評価方法 他	自己紹介・講義 授業計画 プリント	授業計画の確認
2	人間にとっての「ことば」とは ・コミュニケーションの手段としてのことば ・行動の調整とことば 他	講義 プリント レポート (感想)	予習：幼稚園教育要領の読み込み
3	幼稚園教育要領から ・領域「言葉」に関するねらいと内容	講義・朗読 (指名) 幼稚園教育要領解説書	予習：保育所保育指針の読み込み
4	保育所保育指針から ・領域「言葉」に関するねらいと内容	講義・朗読 (指名) 保育所保育指針解説書	予習：認定こども園教育・保育要領読み込み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	認定こども園教育・保育要領から ・領域「言葉」に関するねらいと内容	講義・朗読（指名） 認定こども園教育・保育要領解説書	復習：レポート（感想）をまとめる
6	「ことば」の育つみちすじ ・0歳児～5歳児のことば ・1年生のことば	講義・質疑応答 プリント レポート作成	予習：資料の読み込み
7	「ことば」を育むための保育者のかかわり・役割 ・話し合いの場面での保育者の役割 ・けんか、トラブル場面での保育者の役割 他	講義・グループワーク 質疑応答 レポート作成	予習：資料の読み込み
8	「ことば」を育てるあそび（児童文化財に触れる） ・ことばあそび ・絵本、紙芝居	グループワーク 発表	予習：資料の読み込み
9	「ことば」を育てるあそび（児童文化財に触れる） ・わらべうた（手あそび、歌あそび等も含む）	グループワーク 発表	予習：資料の読み込み
10	ことばあそびから劇あそびへと保育が展開する例 ・DVD「ミュージカルしろおばけとくろおばけ」	DVD鑑賞 レポート作成（感想他）	予習：資料の読み込み
11	指導計画と「ことば」 ・指導計画とは ・乳児保育の指導計画例	講義 質疑応答	予習：資料の読み込み
12	指導計画と「ことば」 ・3～5歳児保育における週案 ・3～5歳児保育における日案	講義 質疑応答	復習：部分案作成
13	家庭との連携と「ことば」 ・保育を伝える手段としての「クラスだより」 ・園と家庭をつなぐ連絡帳	講義 クラスだよりについて質疑応答	復習：クラスだより作成
14	「ことば」を聞く意味、記録する意味 乳幼児期の「ことば」と子どもの権利	講義 質疑応答	復習：クラスだより作成
15	「ことば」をめぐる新しい課題 ・乳幼児期の異文化コミュニケーションとことば まとめ	講義 質疑応答 レポート作成	要点整理と期末試験の準備
期末試験	期末試験	ペーパー試験 (持ち込みなし)	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（80%） 2. 課題提出（10%） 3. 受講態度（10%） 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。 ※詳細についてはオリエンテーション時に説明する。			
【教科書】 資料を印刷し配付する。			
【参考書】			
1. 書名：幼稚園教育要領解説書 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別）		2. 書名：保育所保育指針解説書 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別）	
3. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 著者名：内閣府（文部科学省・厚生労働省） 発行所：フレーベル館 価格：249円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 表現		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	いし だ とし かず 石 田 敏 和	開講期	前期・後期
	兼任准教授	すず き み き 鈴 木 美 樹	授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の造形表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解する。幼児の姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていく。実技では保育現場で行う様々な表現技法と指導上の留意点や、材料用具の特徴を知る。基礎・基本を体験的に学びながら、製作を通して知識や技術を身に付ける。そして「表現」領域における造形表現の望ましい指導の在り方をさぐる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
幼児の造形表現の姿や、表現活動の意義を理解し、保育者として望ましい指導援助の仕方を考えられるようになる。		目標	A・B・K	
感性が豊かになり、イメージを膨らませて、造形的な表現力を高めることができる。		目標	F・J・K	
作品製作を通して、材料用具の特性を把握し、それを用いた様々な技法を習得することで、目的に応じた活用ができるようになる。		目標	A・B・F・J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 2. 感性と表現について	授業計画 プリント①	自然観察 プリント①の復習
2	「表現」のねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をふまえて	プリント② ビデオ視聴 (20分) 「0歳からの表現活動」(映像利用) 感想や意見を述べる	プリント②の復習とプリント③の予習 ビデオ視聴後の感想をまとめる
3	幼児造形表現の特質 ・遊びを通じた造形表現	プリント③ 感想や意見を述べる	プリント③の復習とプリント④の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	幼児造形表現の発達(1) ・発達の特徴	プリント④ ビデオ視聴（20分）「触れること、かくこと、つくること」(映像利用) 感想や意見を述べる	プリント④の復習とプリント⑤の予習 ビデオ視聴後の感想をまとめる
5	幼児造形表現の発達(2) ・造形表現における発達段階	プリント⑤ ビデオ視聴（20分）「かく、つくる、あそぶ～社会性を育む幼児の表現活動」(映像利用) 感想や意見を述べる	プリント⑤の復習とプリント⑥の予習 ビデオ視聴後の感想をまとめる
6	幼児画の特徴や様式 ・幼児画の特徴を理解する	プリント⑥ ビデオ視聴（20分）「子どもの絵を読み取る」(映像利用) 感想や意見を述べる	プリント①～⑥の復習 ビデオ視聴後の感想をまとめる
7	中間試験 作品製作の留意点	プリント 画用紙等	試験の復習を行う 空き時間を使って、課題をすすめる
8	造形表現の内容とその指導(1) ・技法による表現と製作（マーブリングなど）	プリント⑦ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑦の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
9	造形表現の内容とその指導(2) ・技法による表現と製作（デカルコマニーなど）	プリント⑧ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑧の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
10	造形表現の内容とその指導(3) ・技法による表現と製作（スパッタリングなど）	プリント⑨ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑨の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
11	造形表現の内容とその指導(4) ・技法による表現と製作（フロッターージュなど）	プリント⑩ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑩の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
12	造形表現の内容とその指導(5) ・技法による表現と製作（ドリッピングなど）	プリント⑪ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑪の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
13	造形表現の内容とその指導(6) ・技法による表現と製作（スタンピングなど）	プリント⑫ 絵具、画用紙等 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑫の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
14	造形表現の内容とその指導(7) ・技法による表現と製作（ウオッシングなど）	プリント⑬ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑬の復習 空き時間を使って、課題をすすめる
15	造形表現の内容とその指導(8) ・技法による表現と製作（まとめ）	プリント⑭ 絵具、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する。 感想を述べ合う	プリント①～⑭の確認 空き時間を使って、課題をすすめる
期末試験	期末試験	プリント	試験の復習を行う
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品評価40%、試験40%（中間試験20%・期末試験20%） 受講態度20%（授業に臨む意欲と姿勢、質疑応答の内容と頻度） 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。 ※詳細については、初回授業時に説明する。			
【教科書】 その都度プリントを配付する。			
【その他補足事項】 材料費として800円を徴収する。 ※学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合がある。			

授業科目名	教育方法及び技術		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 さくま まさひろ 佐久間 正 弘		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、幼児教育の現場で行われる教育の方法と技術について実践的かつ総合的に学習する。はじめに教育方法の歴史的変遷を概観し、先人の教育方法についての思想を考察した後、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育課程編成と授業設計・指導、教材教具と情報機器・ICTの活用、評価方法等の基本的技術を修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育方法の意義と守備範囲について理解し説明できる。			目標	A・C
教育方法の歴史的変遷について理解した上で、これまでの方法を批判的に読み解くことができる。			目標	C・J
今日の幼児教育の方法と技術の基本を理解し、活用できる。			目標	B・K
情報化社会の光と影を理解した上で、幼児教育における教育メディアとICTを適切かつ効果的に活用できる。			目標	A・C・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標、評価方法 (2) 教育方法の意義と範囲	講義 授業計画 配付資料	シラバスを読んでおく
2	今日の幼児教育 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と基本	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
3	教育方法の歴史的展開(1) 西欧の教育方法	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
4	教育方法の歴史的展開(2) 近・現代の教育方法	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	教育方法の歴史的展開(3) 日本の教育方法	講義とグループ討議 配付資料 レポート課題提示	配付資料を事前に読んでおく
6	教育方法と技術の改革(1) 学習心理学と教授理論	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく レポート作成
7	教育方法と技術の改革(2) 教材・教具の活用	講義 教材・教具活用の演習 配付資料	配付資料を事前に読んでおく レポート作成
8	情報機器・ICTの活用 情報化の光と影 教育への活用	講義 ICT活用の演習 配付資料	配付資料を事前に読んでおく レポート提出
9	幼児期の発達課題を踏まえた教育課程 教育課程の原理と編成	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
10	幼稚園教育要領（保育所保育指針）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	講義とグループ討議 配付資料 幼稚園教育要領	配付資料を事前に読んでおく
11	教育評価の理論と方法 相対評価と絶対評価 評価の活用	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
12	授業の設計と模擬実践(1)	指導計画の作成 模擬授業	指導案の作成
13	授業の設計と模擬実践(2)	指導計画の作成 模擬授業	模擬授業の自己評価をまとめる
14	幼児教育における留意事項 安全に関すること、障害のある幼児の指導、小学校教育との連携	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
15	まとめ 教育方法の課題と今後の展望	講義とグループ討議 配付資料	配付資料を事前に読んでおく
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 小テスト 第2回授業から第11回授業まで小テストを行う。（各2点×10回）20点満点 2. レポート 授業中に課題を提示する。30点満点 3. 期末試験 40点満点 4. 授業参加態度及び模擬授業 10点満点			
【教科書】 資料を配付する。			
【参考書】 書名：教育の方法と技術 著者名：平沢 茂 編著 発行所：図書文化 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	さくま まさひろ 佐久間 正 弘	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育相談には治療的相談だけでなく開発的相談があること、一部の担当者だけでなくすべての教師が行うべきものであることを理解し、教育相談・カウンセリングの初歩的な技法を修得し活用できるようにする。また、日常的な教育相談のあり方と不登校やいじめなどの教育現場における課題についての理解を深め、適切なかわり方ができるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育相談の意義と働きを理解し、すべての教師が行う教育活動であり、組織的・計画的に展開されることを説明できる。			目標	A・C
カウンセリングの初歩的技法を身に付けて、それらの技法を活用することができる。			目標	B・E・F・H
諸課題についての理解を深め、それらへのかかわり方を工夫することができる。			目標	J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標、評価方法 (2) 教育相談とは何か	講義、ディスカッション 授業計画 教科書、配付資料	授業計画を読む
2	教育相談の種類と担い手 開発的教育相談・予防的教育相談・治療的教育相談、 教師のカウンセリングマインド	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
3	子どもの発達をとらえた教育相談 子どもの発達とアセスメント	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
4	家庭で育つ心と幼稚園で育つ心 家族との間でつくれる心の世界 友達との間でつくれる心の世界	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	言葉と体をとおして見える子どもの心 心と言葉のつながり 心と体のつながり	講義、ディスカッション 教科書配付資料 レポート課題提示	配付資料を事前に読む レポート作成
6	話を聴くための心構えと基礎的な技法 心に耳を傾けること 非言語的技法と言語的技法	ディスカッション、ロールプレイ 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む レポート作成
7	気になる子どもへのかかわり 1人ひとりを大切にするかかわり つながりをつくるかかわり	ディスカッション、ロールプレイ 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む レポート作成
8	気になる親へのかかわり 一緒に考えるかかわり	ディスカッション、ロールプレイ 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む レポート提出
9	不登校・登園しぶりの理解とかかわり 未然防止と援助・指導	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
10	いじめの理解とかかわり 「いじめ」の理解 未然防止と対応	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
11	発達障害の理解とかかわり 困難さを見定めることの大切さと指導・支援	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
12	園内・校内の組織的な教育相談 支援チームとスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
13	関係機関との連携 一対一の連携とサポートチームでの連携	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
14	教師自身のケア 自分でできるケアと組織的なケア	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
15	まとめ これまでの学習の振り返り	講義、ディスカッション 教科書、配付資料	配付資料を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 小テスト 毎回授業の終わりに小テストを行う（2点×15回）。30点満点 2. レポート 授業中に課題を提示する。30点満点 3. 期末試験 30点満点 4. 授業への積極的参加態度 10点満点			
【教科書】 書名：子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 著者名：西見奈子 編著 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）			
【参考書】 書名：教師のたまごのための教育相談 著者名：会沢信彦・安齋順子 編著 発行所：北樹出版 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任助教 木村泰博 きむらやすひろ		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等				

【授業の概要】 1. 教育や保育の現場における教育相談のあり方とそのための基本的な知識や方法を学ぶ。 2. カウンセリングに関する初歩的・基礎的な方法を学ぶ。 3. 教育や保育の現場で想定される事例をもとにグループで体験的に学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育や保育の現場で援助を必要とする状況について説明できるようになる。			目標	A
教育相談の対象と方法について述べるができるようになる。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点	授業計画	
2	教育相談とは	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	現場における問題と教育相談	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
4	教育相談に関わる職種	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	カウンセリングマインド(1)	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
6	カウンセリングマインド(2)	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
7	カウンセリングワーク	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
8	ケーススタディ(1)	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	不登校、登園しぶり	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
10	ケーススタディ(2)	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
11	いじめ	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
12	ケーススタディ(3)	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
13	発達障害	パワーポイントを使用した講義	期末レポートに取り組む
14	ケーススタディ(4)	グループワーク	期末レポートに取り組む
15	保護者対応	パワーポイントを使用した講義	期末レポートに取り組む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 毎回の感想レポート 40% 2. 期末レポート 40% 3. ワーク、ディスカッション、発表などにおける積極的発言・質問 20%			

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	さくま まさ ひろ 佐久間 正 弘	開講期	後期
	講師	せき もと ひとし 関 本 仁	授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「学びの軌跡の集大成」としての本科目では、保育者・教育者としての生活を円滑にスタートするために自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能を補い定着を図る。 演習をととして、次に関する事項について学習する。 (1) 使命感や責任感、教育愛情等 (2) 社会性や対人関係能力 (3) 幼児・児童理解や学級経営等 (4) 保育内容等の指導力	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
使命感や情熱、強い意志をもち、自己の職責を果たすことができる。			目標	H
組織の一員としての自覚をもち、他の職員と協力して職務を遂行することができるようになる。			目標	G・L
子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解して適切な指導を行うことができるようになる。			目標	B・K
子どもの活動や反応等の状況に応じて、指導計画や形態を工夫することができるようになる。			目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標、評価方法 (2) 保育・教育実習の振り返り	講義 授業計画 グループ討議	保育・教育実習における自己の課題を整理する
2	子どもを理解すること 見る・視る・看る・診る	グループ討議 全体討議 配付資料	「みる」の違いを整理する
3	子どもを見る“まなざし” 「加点法」で「ほめる」こと	グループ討議 ロールプレイ レポート①課題提示	「ほめる」という活動の意義をまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	子ども一人ひとりに「寄り添う」ということ 保育士、教師の動き	グループ討議 ロールプレイ 配付資料	「寄り添う」ということの意味をまとめる
5	保育士・教師の指導、援助 子どもへの柔らかな対応	グループ討議 ロールプレイ 配付資料	レポート①提出
6	子どもの活動（遊び）の統合性 遊び・5領域にまたがる活動 保育・教育の重点化、焦点化	グループ討議 全体討議 配付資料	「遊び」における遊具の条件を検討する
7	指導と評価 子どもの姿の見とりと援助 (気になる子への対応)	グループ討議 ロールプレイ 配付資料	指導と評価の言一体化についてまとめる
8	職場における人間関係構築 組織の一員としての自覚 教職員の協力	グループ討議 全体討議 配付資料	履修カルテを整理する
9	学級運営とPTA 近年のPTAの課題と問題 これからのPTAのあり方	グループ討議 全体討議 配付資料 新聞資料	履修カルテを整理する
10	保護者、地域との人間関係の構築 声に耳を傾けることと理解を得る説明	グループ討議 ロールプレイ 配付資料 新聞資料	履修カルテを整理する
11	保育所・幼稚園における危機管理(1) 事件・事故の未然防止	グループ討議 ロールプレイ 配付資料 新聞資料	履修カルテを整理する
12	保育所・幼稚園における危機管理(2) 事件・事故への適切な対応	グループ討議 ロールプレイ 配付資料 新聞資料	履修カルテを整理する
13	教員の研修と自己評価	グループ討議 全体討議 配付資料 レポート②課題提示	履修カルテを整理する
14	目指したい保育者・教師像	グループ討議 全体討議 配付資料	履修カルテを整理する
15	まとめ 自己を振り返りまとめる	グループ討議 全体討議	履修カルテ提出 レポート②提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. レポート レポート① 30点満点 レポート② 30点満点 2. 履修カルテ 30点満点（最終的に「履修カルテ」を提出しない場合は、単位の認定をしない） 3. 授業中の積極的活動、参加態度 10点満点			
【教科書】 資料を配付する。			

授業科目名	社会的養護内容		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 神 戸 信 行	のぶ ゆき	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 児童福祉施設において日常的に展開されている養護実践について、そのあり方や具体的な方法について学び理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
施設の児童養護のあり方やその内容を理解し、日々行われる支援内容や支援者の課題を理解する。			目標	A・C・K
児童を多面的に理解し、児童の権利と心身の発達を保障する養護を実践できる知識や技能を事例等の研究により修得する。			目標	A・B・C・G・I・J・K
養護実践における支援者の児童観の倫理を理解する。			目標	A・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業内容の概要 (2) 授業の展開と評価の視点	授業計画	
2	社会的養護の理念と原理 (1) 社会的養護の理念 (2) 社会的養護の原理	配付資料	現代の日本の家族の課題について調べる
3	社会的養護と児童福祉施設の役割 (1) 児童福祉施設の体系 (2) 児童福祉施設の役割	配付資料	児童福祉施設の種類を調べる
4	施設養護の従事者 (1) 従事者の職種と職務内容 (2) チームワークによる支援 (3) 保育士等の倫理と専門性	配付資料 ディスカッション	チームワークの目的と成立要件について調べる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	施設養護の基本的在り方 (1) アドミッションケアとインケア (2) リーピングケアとアフターケア (3) 家族への支援	配付資料 ディスカッション 課題レポートの提出	
6	養育・支援の基本 (1) 信頼関係の形成 (2) 基本的生活習慣の形成 (3) 発達の保障	配付資料 ディスカッション	子どもの発達課題について調べる
7	生活リズムと日課 (1) 生活日課 (2) 生活サイクル	配付資料 ディスカッション	
8	衣食住の基礎的ニーズの充足 (1) 食生活 (2) 衣生活 (3) 住生活	配付資料 ディスカッション 課題レポートの提出	
9	生活習慣の形成と生活技術の修得 (1) しつけのあり方 (2) しつけの方法 ～ほめ方と叱り方	配付資料 ディスカッション 課題レポートの提出	新聞等で報道された児童虐待の事例を調べる
10	健康と安全の確保 (1) 健康の維持と管理 (2) 性に関する教育 (3) 自己領域の確保と生き立ちの整理	配付資料 ディスカッション 課題レポートの提出	自分自身のライフヒストリーを整理してみる
11	自立の支援 (1) 学習支援 (2) 就職支援 (3) 進学支援	配付資料 ディスカッション	
12	関係機関や地域社会との連携 (1) 学校との連携 (2) 児童相談所等との連携 (3) 地域社会・ボランティアとの連携	配付資料 ディスカッション	関係機関にはどのようなものがあるのか調べる
13	行動上の問題や問題状況への対応 (1) 子どもの理解とチームケア (2) 心理的支援 (3) 関係機関や家族との連携	配付資料 ディスカッション 課題レポートの提出	
14	自立支援計画の作成と事例分析 (1) 自立支援計画の役割 (2) 自立支援計画策定の留意点 (3) 事例分析の方法	配付資料 ディスカッション	
15	まとめ	振り返り資料	
期末試験	期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 学期末に実施する。(50点満点) 2. レポート 授業中の課題を作成し、レポートとして提出する。(50点満点)			
【教科書】 授業ごとに資料を配付する。			
【参考書】 1. 書名：子どもの養護 ― 社会的養護の原理と内容 第3版 著者名：松本峰雄ほか 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別） 2. 書名：この子を受けとめて、育むために ― 育てる・育ちあういとなみ 著者名：児童養護における養育のあり方に関する検討委員会（委員長：村瀬嘉代子） 発行所：全国社会福祉協議会 価格：500円（税別）			

授業科目名	保育相談支援		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 こん 今 きよ 清 たか 孝	開講期	前期・後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 具体的に保護者が抱える育児に関する問題を、子どものより良い保育環境を整える視点から考える。 子どもにかかわる大人の生活（ライフサイクル）を理解し、保護者の子育てに関する問題に適切な対処をし、相談支援の記録・評価ができる力を養う。 本授業は講義のほかグループ討議、模擬相談演習、ロールプレイなどを行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子どもや保護者の様子、また実際の保護者からの相談内容から、問題を見出し、支援を具体化する能力を身につける。		目標	A・B・C・H・J・K・L	
問題の整理方法と支援方法、またそれらの過程を記録し評価する技術を身につける。		目標	A・B・C・J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 プロジェクト・アドベンチャー	授業計画 授業資料1・ゲーム	課題解決過程の復習
2	保育相談支援の意義	授業資料2 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
3	保育相談支援の原則	授業資料3 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
4	保育相談支援の進め方	授業資料4 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
5	保育相談支援の技術(1)	授業資料5 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	保育相談支援の技術(2)	授業資料6 授業資料完成グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討 1～6のまとめ
7	中間まとめ 小レポート作成	授業資料7	前回授業資料の確認 授業資料の整理
8	保育相談支援の実際(1)	授業資料8 DVD視聴「保育相談支援」 37分	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情報提供」の 在り方の検討
9	保育相談支援の実際(2)	授業資料9 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情報提供」の 在り方の検討
10	保育相談支援の実際(3)	授業資料10 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在り方の検討
11	保育相談支援の記録(1)	授業資料11 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在り方の検討
12	保育相談支援の記録(2)	授業資料12 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提供」の在り 方の検討
13	保育相談支援の評価(1)	授業資料13 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提供」の在り 方の検討
14	保育相談支援の評価(2)	授業資料14 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「環境構成」の在り方の検討 8～14のまとめ
15	まとめ 小レポート作成		前回授業資料の確認
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 70点満点の筆記試験を学期末に実施する。 2. レポート レポート（2回）は30（各15）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。 3. その他 毎授業終了時にレスポンスシートに授業で分かったこと、わからなかったことを記入し提出させ、次回授業時にコメントを記入し返却することで、授業の理解度を深める。			
【教科書】 書名：演習 保育相談支援（第2版） 著者名：小林育子 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）			
【その他補足事項】 1. 初回授業時に身体運動のゲームを行うので、活動しやすい服装で出席のこと。 2. ロールプレイ等の実施のため、軽度の運動ができる服装で出席することを求める。 3. 筆記試験の際には、授業配付資料のみの持ち込みを可とする。			

授業科目名	乳児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師	なが さわ たか こ 永 澤 孝 子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 乳児期は人間形成の基礎となる重要な時期である。これを踏まえた上で、乳児保育の専門的知識や方法を学び、さらに技術の基本を理論と実践から修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力		
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
乳児保育の理念と歴史的変遷や役割等について認識が出来て、自分の言葉で説明が出来るようになる。			目標	A・C
保育所・認定こども園・乳児院の保育の現状と課題について理解が出来て、自分の視点で論じることが出来るようになる。			目標	A・K
3歳未満児の発育・発達を通して、生活や遊びの大切さが理解出来て、実践に備えることが出来るようになる。			目標	B・C・E・F・G
乳児保育の計画・保育内容・環境構成や観察・記録等について理解が出来て、実践に備える事が出来るようになる。			目標	A・C・D
乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解が出来て、保育者として職務に着いた時に、誇りを持って出来るようになる。			目標	G・H・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 乳児保育はなぜ必要なのか ・社会的背景から考える 赤ちゃん人形を抱く	授業計画 たて抱き・横抱きの体験 第1回レポート作成	教科書P2～5を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	抱っこの仕方・おんぶの仕方 ・乳児とのふれ合いの基本を学ぶ 抱っこ・おんぶ・おむつの替え方	グループワーク：抱っこ・おんぶ・おむつ交換を学ぶ (人形使用) プリント	教科書 P 114～115、 P 124～126を事前に読む
3	乳児保育の成り立ちを知ろう ・歴史と現状を理解する 乳児院の社会的役割 ・乳児が暮らす福祉施設の現状	VTR視聴（20分） 「保育者への歩み」 プリント	教科書 P 6～17を事前に 読む
4	認定こども園とはどんな施設 ・社会的背景と課題 乳児保育に関わる法律 ・児童福祉法、労働基準法、育児介護休業法等	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読む ワークシートを使う プリント	教科書 P 18～31を事前に 読む
5	「保育所保育指針」に書いてあること ・現行指針のポイント 幼保連携型認定こども園教育・保育要領とは ・教育・保育要領の構成と内容 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の比較	保育所保育指針解説書を読む 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読む プリント	教科書 P 32～39を事前に 読む
6	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント ・0、1、2歳児の発達過程をとらえる ・0、1、2歳児の保育に関わる配慮事項	保育所保育指針や保育所保育指針解説書を読む ワークシートを使う	教科書 P 40～49を事前に 読む
7	人生の基礎としての乳児期 ・ポルトマンの考え方に学ぶ 乳児の噛みつき・引っかきの対応 ・トラブルの背景と保護者との連携について	グループワーク：トラブルのロールプレイングを行う プリント	教科書 P 50～53、P 144～145を事前に読む
8	乳児の心の発達 ・身近な人との絆を育む過程 アタッチメントの形成 ・愛着の役割と形成について	グループ討議：アタッチメントについて プリント	教科書 P 54～59を事前に 読む
9	乳児のことばの発達 ・思いを伝え合う手段を得る過程 0歳児1歳児2歳児の喜ぶ絵本	VTR視聴（20分） 「絵本の読み聞かせ」 プリント	教科書 P 60～65、P 174～177を事前に読む
10	乳児のからだ ・からだの発育と運動機能の発達 折り紙遊び	VTR視聴（20分） 「乳児保育の実際」後編 プリント	教科書 P 60～65を事前に 読む
11	乳児保育における複数担任制 ・保育者同士の連携のあり方 乳児の手遊び・歌遊び ・笑顔を引き出し、絆を深めるために	DVD視聴（20分） 「楽しいうた遊び」	教科書 P 78～81、P 162～173を事前に読む
12	保育所で過ごす1日の流れ ・年齢別デイリープログラム（日課表） 乳幼児の砂遊び ・砂遊びによる発達の要素	VTR視聴（20分） 「元気な仲間——福島保育所の1日」 プリント	教科書 P 82～91を事前に 読む
13	手作りおもちゃの製作(1) ・人と関わる楽しさを伝えるおもちゃ作り	おもちゃの製作 ・音の鳴るおもちゃを作る プリント	教科書 P 66～67を事前に 読む 乳児の発達を考慮し音の鳴る玩具を考えておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	手作りおもちゃの製作(2) ・完成したおもちゃの発表	おもちゃの発表をする ・わかり易い発表の仕方 第2回レポート作成	
15	前期末試験		
16	保護者との連携を考えよう ・乳児を取り巻く協力を目ざして	DVD視聴（30分） 「ママ達が非常事態」 グループ討議：虐待の発見と対応について プリント	教科書 P 92～100を事前に読む
17	発達の遅れと向き合う ・保護者を支える 連絡帳の書き方 ・子どもの育ちを保護者とわかち合う	DVD視聴（20分） 「育ち育てる子育ての時間」 連絡帳を書く （ワークシート使用） プリント	教科書 P 104～111、 P 156～159を事前に読む
18	乳児の衣服の基礎知識 ・衣服の特徴と扱い方を知る 衣服の着せ方・脱がせ方 ・着替えの配慮のポイントを学ぶ	グループワーク：着せ方・脱がせ方を学ぶ（人形使用） プリント	教科書 P 118～123を事前に読む
19	乳児のトイレトレーニング ・トレーニングのポイント 乳児の睡眠について ・「寝る子は育つ」とは	グループ討議：トイレの誘い方について 絵本「パンツのはきかた」 （パネルシアター） プリント	教科書 P 127、 P 76～77 を事前に読む
20	授乳の仕方とその準備 ・人工乳・冷凍母乳の扱い方を学ぶ 食物アレルギーの対応 ・病気の特徴と対応のポイント	DVD視聴（20分） 「聞いてみよう！食物アレルギーのこと」 グループワーク：調乳をする プリント	教科書 P 128～131、 P 136～137を事前に読む
21	離乳食の基礎知識 ・離乳にむけた食事の進め方を知る ・離乳食の献立作成	グループワーク：献立作成 第3回レポート作成 プリント	教科書 P 132～137を事前に読む
22	沐浴の仕方・清拭の仕方 ・乳児のからだを清潔に保つために 折り紙遊び	DVD視聴（20分） 「やさしい沐浴法」 グループワーク：沐浴をする （人形使用） プリント	教科書 P 138～141を事前に読む
23	保育環境の衛生管理 ・乳児の生活を清潔に保つために 乳児保育における安全管理(1) ・乳児期特有の病気と薬の扱い方を学ぶ	VTR視聴（20分） 「保育の安全と事故防止」 プリント	教科書 P 142～143、 P 146～149を事前に読む
24	乳児保育における安全管理(2) ・乳児を事件・事故から守る方法を知る	グループ討議：日常の危険と回避の仕方について 第4回レポート作成 プリント	教科書 P 150～155を事前に読む 実習先での日常の危険についてまとめておく
25	宗教について考える ・保護者との信頼関係のために 諸外国の出産の現状と子育て ・カンボジア（アンコールワット）等の出産現状	DVD視聴（30分） 「小さな命の詩」	教科書 P 102～103を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	乳児保育指導計画 ・年間指導計画の見方 ・指導案の部分作成 わらべうた遊び	グループ討議：4月指導案の部分作成 プリント	教科書P82～91を事前に読む
27	福島の子どもの外遊び・砂遊び ・東日本大震災と原発事故 ・外遊び・砂遊びと乳児の発達 乳幼児の外遊び・砂遊びの取り組みや配慮について	DVD視聴（20分） 「砂遊びから見る子どもの発達」 グループ討議：外遊び・砂遊びの取り組みについて 第5回レポート作成	実習先での外遊び、砂遊びの取り組みについてまとめておく
28	絵本の読み聞かせ(1) ・簡単な絵本作り（終らない絵本）	グループワーク：読んであげたい絵本を決める プリント	乳児に読んであげたい絵本を持参する
29	絵本の読み聞かせ(2) ・読み聞かせの発表をする	グループワーク：グループ毎に読み聞かせをする	
30	まとめ ・保育者の役割と専門性	DVD視聴（20分） 「地域の顔が見える子育て支援」	保育者の役割と専門性について考えておく
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験（前期末試験・後期末試験）60% 2. レポート・製作物提出 30% 3. 授業態度等 10% ※授業計画P14・15の「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行う。 レポート・製作物未定は2点減点、優秀なものは、1～2点の加点とする。 ※詳細については、第1回目の授業で説明する。			
【教科書】 書名：はじめて学ぶ乳児保育 著者名：志村聡子 発行所：株式会社 同文書院 価格：2,000円（税別）			
【参考書】 1. 書名：保育所保育指針 発行所：フレーベル館 価格：120円（税別） 2. 書名：保育所保育指針解説書 発行所：フレーベル館 価格：190円（別税） 3. 書名：幼児連携型認定こども園教育・保育要領 発行所：フレーベル館 価格：150円（別税） 4. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 発行所：フレーベル館 価格：249円（別税） ※他の授業科目で購入したもの。この授業で使用する時はその都度指示する。			
【その他補足事項】 1. 教科書の予習・復習をすること。 2. 絵本に関心を持ち、ひとり1冊、乳児にふさわしい絵本を用意しておく。 3. 折り紙遊びを行うので、適量の折り紙を用意しておく。			

授業科目名	障害児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授	にしむら 西村まなぶ 學	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、障害者権利条約（わが国は2014年に批准）では、障害者との共生社会の実現が謳われている。共生社会とは、障害者の人権が保障され、障害者の全面的な社会参加が実現された社会である。このような社会を実現するうえでの障害児保育の意義、障害のある子どもの発達支援、保護者の育児支援、学校教育の制度、差別のない地域づくりなどについて学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
共生社会を実現するうえでの障害児保育の意義を理解する。			目標	A・D・F
障害のある子ども及びその発達支援の方法について理解する。			目標	A・D・F
障害のある子どもの保護者にたいする育児支援の方法について理解する。			目標	A・D・F
学校教育制度（特別支援教育）について理解する。			目標	A・D・F
障害者差別のない地域づくりについて理解する。			目標	A・D・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画 DVD視聴（25分）「統合保育」（映像利用） 	
2	障害のある子どもの早期療育体制 ○専門機関における保育、「ペアレントメンター」	DVD視聴（25分）「親の支援」（映像利用）、資料①	<ul style="list-style-type: none"> 資料に事前事後に目を通す レポート作成
3	障害のある子どもの保育 ○統合保育の歴史、意義、「スーパーバイザー」	DVD視聴（25分）「子どもの支援」（映像利用）、資料②	〃
4	大人になった発達障害児から学ぶ ○発達障害児が求める育児環境	DVD視聴（25分）「大人の発達障害」（映像利用）、資料③	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	発達障害児の特異能力 — 障害者は世界の変革者 ○自閉スペクトラム症、サバン症候群	DVD視聴（30分）「サバン症候群」（映像利用）、資料④	・資料に事前事後に目を通す ・レポート作成
6	発達障害児（ADHD）の発達と支援 ○共感、受容、環境の構造化	DVD視聴（40分）「ADHD」（映像利用）、資料⑤	〃
7	発達障害児の「居場所」づくり ○ユニバーサルデザイン	DVD視聴（25分）「環境の構造化」（映像利用）、資料⑥	〃
8	自閉スペクトラム症児のコミュニケーション ○言語の獲得過程、視覚の活用	DVD視聴（25分）「AAC」（映像利用）、資料⑦	〃
9	第2次障害をどう防ぐか ○育児環境によって生み出される障害	DVD視聴（25分）「第2次障害」（映像利用）、資料⑧	〃
10	障害児の教育（特別支援学校）(1) ○障害児教育の制度、特別支援学校の諸課題	DVD視聴（40分）「特別支援学校①」（映像利用）、資料⑨	〃
11	障害児の教育（特別支援学校）(2) ○特別支援学校の諸課題をどう解決すべきか	DVD視聴（40分）「特別支援学校②」（映像利用）、資料⑩	〃
12	統合教育(1)機能的統合 ○統合教育の3形態、脳性まひ児の発達と支援	DVD視聴（25分）「ともだち」（映像利用）、資料⑪	〃
13	統合教育(2)社会的統合 ○特別支援学級の教育実践	DVD視聴（30分）「特別支援学級」（映像利用）、資料⑫	〃
14	統合教育(3)通級指導 ○インクルージョン教育の実践	DVD視聴（40分）「通級指導の実態」（映像利用）、資料⑬	〃
15	日本の障害者福祉の原点 ○糸賀一雄の福祉理念、「この子らを世の光に」	DVD視聴（40分）「糸賀一雄」（映像利用）、資料⑭	〃
16	障害児の家族支援(1) ○障害児の家族はどんな支援を求めているか	DVD視聴（15分）「青空の下で」（映像利用）、資料⑮	〃
17	障害児の家族支援(2) ○障害児の「きょうだい」の支援、地域づくり	DVD視聴（15分）「音楽祭」（映像利用）、資料⑯	〃
18	ノーマライゼーション理念の実現(1) ○「国連障害者の10年」、施設から地域へ	DVD視聴（25分）「脱施設」（映像利用）、資料⑰	〃
19	ノーマライゼーション理念の実現(2) ○職業選択の保障、脳性まひ、頸椎損傷	DVD視聴（30分）「医者と教師誕生」（映像利用）、資料⑱	〃
20	ノーマライゼーション理念の実現(3) ○知的障害者の結婚と子育て	DVD視聴（40分）「はまなすの家族」（映像利用）、資料⑲	〃
21	障害者差別(1)虐待 ○「障害者虐待防止法」、強度行動障害	DVD視聴（25分）「障害者虐待の実態」（映像利用）、資料⑳	〃
22	障害者差別(2)差別のない地域づくり ○「障害者差別解消法」、日本の差別の実情	DVD視聴（30分）「千葉県の事例」（映像利用）、資料㉑	〃
23	障害者の権利条約(1)合理的配慮 ○障害者の権利条約の諸規定	DVD視聴（25分）「合理的配慮とは」（映像利用）、資料㉒	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	障害者の権利条約(2)自己決定 ○本人活動、ピープルファースト、PCP	DVD視聴（25分）「自己決定の支援」（映像利用）、資料⑳	・資料に事前事後に目を通す ・レポート作成
25	知的障害 ○知的障害児の発達と支援、主体性を育てる教育	DVD視聴（30分）「輝きにふれたい」（映像利用）、資料㉑	〃
26	ダウン症 ○ダウン症児の発達と支援、主体的な社会参加	DVD視聴（40分）「まごころケーキ」（映像利用）、資料㉒	〃
27	出生前診断 ○新出生前診断、母体保護法	DVD視聴（40分）「出生前診断」（映像利用）、資料㉓	〃
28	障害者本人の声を聞く ○自閉スペクトラム症者の意味世界を知る	DVD視聴（40分）「ドナの世界」（映像利用）、資料㉔	〃
29	聴覚障害 ○聴覚障害児の発達と支援、手話の歴史	DVD視聴（15分）「幼児と手話」（映像利用）、資料㉕	〃
30	盲ろう児 ○盲ろう児の発達と支援、盲ろう児の教育制度	DVD視聴（25分）「盲ろう児の教育」（映像利用）、資料㉖	〃
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 50点満点のテストを学期末に実施する。 2. レポート 授業のたびに、「映像から何を学んだか」というテーマのレポートを提出してもらう。これらのレポート（全部で30本）を50点満点で採点する。			

授業科目名	幼 児 音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 さ とう あつ こ 佐 藤 敦 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園、保育所等の保育現場で対応できる歌唱、楽器、理論を学ぶ。 1. 様々な種類の歌（あそび歌、手あそび歌、わらべ唄他を含む）を表情豊かに歌う。 2. 簡易楽器や民族楽器、ハンドベル、トーンチャイムを演奏し楽器演奏を体験する。 3. 簡単な音楽理論を学ぶ。（キーボードハーモニー簡易伴奏法も含む） 4. 保育現場における音楽療法を学ぶ。「気になる子」「つまりきのある子」への音楽でのかかわり方を学ぶ。 5. グループごとに「ミニ・ミュージカル」を体験する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
○	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
音楽の楽しさや喜びを子どもたちに伝えるための音楽技術、および表現方法を修得する。 幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を修得する。 様々な角度から音楽を学び保育者として自己表現することを体得する。			目標	A・B・E・F・G・H・I・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 こどもの歌名曲選 プリント	教材の楽譜や音楽理論について自学学習しておく
2	歌唱(1)	こどもの歌名曲選 プリント DVD	〃
3	歌唱(2) 簡単な音楽理論(1)	〃	〃
4	歌唱(3)、簡単な音楽理論(2)	〃	〃
5	歌唱(4)、簡単な音楽理論(3)	楽譜	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	歌唱(5)、簡単な音楽理論(4)	こどもの歌名曲選 プリント	音楽理論について自学学習しておく
7	前期中間試験		
8	楽器演奏(1) (簡易楽器、ハンドベル、トーンチャイム)	楽器	楽器の使い方を自学学習しておく
9	楽器演奏(2) (簡易楽器、ハンドベル、トーンチャイム)	〃	〃
10	音楽療法(1) (七夕づくり、手作り楽器)	楽器、プリント	音楽療法について自学学習しておく 七夕について調べておく
11	歌唱(6)、簡単な音楽理論(5)	〃	音楽理論について自学学習しておく
12	特別講義(1) ゲストスピーカー(予定) 遠山文吉氏（東京芸術大学元教授）	〃	講義に該当する内容について自学学習しておく
13	音楽療法(2)、簡単な音楽理論(6)	楽器、プリント	楽器の使い方を自学学習しておく
14	楽器演奏(3) (簡易楽器、ハンドベル、トーンチャイム) 前期のまとめ	こどもの歌名曲選 プリント	教材の楽譜をみて自学学習しておく 音楽理論について自学学習しておく
15	前期末試験		
16	歌唱(7)、簡単な音楽理論(7)	プリント	音楽理論について自学学習しておく
17	歌唱(8)	こどもの歌名曲選 プリント	教材の楽譜をみて自学学習しておく
18	ミニ・ミュージカル(1) アクティブラーニング	グループで実施	発表会に向けて自学学習しておく
19	ミニ・ミュージカル(2) アクティブラーニング	〃	〃
20	ミニ・ミュージカル(3) アクティブラーニング	〃	〃
21	後期中間試験、ミニ・ミュージカル発表会	グループで実施	
22	歌唱(9)	楽譜、プリント	歌唱の練習をしておく
23	楽器演奏(4) (ハンドベル、トーンチャイム)	〃	楽器の特質を自学学習しておく
24	特別講義(2) ゲストスピーカー(予定) 下川英子氏（埼玉療育センター職員）	〃	講義に該当する内容について自学学習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	歌唱(10)	プリント	歌唱の練習をしておく
26	「気になる子」「つまずきのある子」への音楽指導(1)	楽譜、プリント	「気になる子」への理解を深める
27	「気になる子」「つまずきのある子」への音楽指導(2)	〃	「気になる子」への理解を深める
28	簡単な鍵盤ハーモニー(1)	プリント	簡単な鍵盤ハーモニーを自学学習しておく
29	歌唱(11)	楽譜、プリント	個人歌唱発表を自学学習しておく
30	まとめ	個人歌唱発表	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1. 前期中間試験 25% ・ 前期末試験 30% ・ 後期中間試験 25% ※3回の試験と個人歌唱発表をしない場合は、単位を認定しない。</p> <p>2. 授業の参加態度等 20%（授業へ積極的に参加する。質問事項に答える） ※実技を実施するので、参加態度により学生の授業への意欲をみることが出来る。「成績評価への補足的対応措置」により、加点・減点等を行う。 ※詳細は初回授業時に示す。</p>			
<p>【教科書】 書名：こどもの歌名曲選 著者名：足羽 章 発行所：ドレミ楽譜出版社 価格：1,500円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>1. 大学で実施する音楽鑑賞会に参加する場合がある。 2. 楽器作り、七夕づくり、ミニ・ミュージカル等において材料費が発生する場合がある。（自己負担とする）</p>			

授業科目名	幼 児 音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 伊 藤 俊 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、幼稚園及び保育所等の保育現場で必要となる、歌うことや身近な楽器を使って演奏すること、音楽を聴いて表現することなどを学び、幼児が音楽に親しみ、音楽を楽しく聴いたり表現したりすることができるような指導力を身に付ける。 1. わらべうたや唱歌、童謡などを表情豊かに歌う。 2. 体や身近な打楽器等を使って、リズム遊びをする。 3. 手話ソングを通して手話に親しむ。 4. 手作り楽器を製作し、音楽に合わせてリズムを打つ。 5. 音楽の基礎的な理論を学び、音楽理解に役だてる。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
○	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
授業で扱う歌を表情豊かに自信をもって歌うことができる。			目標	E・F
拍の流れにのり、手拍子や打楽器を使って楽しくリズム遊びができる。			目標	F・G
手話ソングに積極的に取り組み、手話を使った表現の大切さが理解できる。			目標	E・J
手作り楽器で自由に表現したり、音楽表現を楽しんだりすることができる。			目標	J・G
楽譜の読み方や楽譜の決まり事について正しく理解することができる。			目標	A・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 (授業内容) ・評価方法及び授業の進め方について	・授業計画の説明 ・授業内容についての質問等	年間の授業内容を把握し学修の見直しをもつ
2	手話を使っての音楽表現 ・手話の必要性について ・手話ソング及び手話を使った簡単な表現	・二人組になって互いに手話で挨拶等を行う ・手話に関するプリント	手話についてのプリントを読んで予習
3	わらべうたで遊ぶ(1) ・知っているわらべうたを歌う	・グループでわらべうたについての討議 ・わらべうたのプリント	わらべうたの遊び方を予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	わらべうたで遊ぶ(2) ・わらべうたを歌いながら動きを付けて遊ぶ ・わらべうたの動きを工夫して遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> グループでわらべうたの動きを工夫して発表 	わらべうたの遊び方についての工夫
5	わらべうたで遊ぶ(3) ・わらべうたに楽器で伴奏を付けて歌う ・わらべうたに関するレポートの記述及び提出	<ul style="list-style-type: none"> 二人組でわらべうたに楽器の伴奏を付けて表現 	伴奏の付け方に関するプリントを読んで予習
6	リズム遊び(1) ・手拍子でリズムの模倣やリズムリレーの表現 ・体の各部分を使ってのリズム表現	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びに関するプリント 二人でリズム表現の工夫 	リズム遊びに関するプリントで内容を予習
7	リズム遊び(2) ・リズムの模倣やリズムリレーで楽しくリズム遊びをする	<ul style="list-style-type: none"> グループ及び全体でリズム模倣やリズムリレーを工夫 	リズム遊びの工夫を予習
8	リズム遊び(3) ・リズム問答やリズムの即興的な表現を楽しむ ・小テスト①	<ul style="list-style-type: none"> グループによるリズム遊びの工夫 	即興的な表現に関するプリントを読んで予習
9	ふし遊び(1) ・拍の流れにのって歌でふし問答をする	<ul style="list-style-type: none"> ふし遊びに関するプリント 二人組になってふし問答 	ふし遊びに関するプリントで予習
10	ふし遊び(2) ・楽器を使ってふし問答をしたり、即興的にふし遊びをしたりする	<ul style="list-style-type: none"> グループでふし遊びの工夫や即興的な表現についての討議 	楽器を使っての即興的な表現についての予習
11	ふし遊び(3) ・グループでまとまりのあるふしづくりをする	<ul style="list-style-type: none"> グループによるふし遊びの工夫 	ふしづくりに関する内容についての予習
12	楽器を使って表現(1) ・グループで身近な楽器を使って簡単なアンサンブル表現を計画する	<ul style="list-style-type: none"> グループで楽器を使ったアンサンブルに関する計画づくりを相談 	発表するアンサンブルの内容を考えてくる
13	楽器を使って表現(2) ・グループで協力し、身近な楽器を使った簡単なアンサンブルを表現する	<ul style="list-style-type: none"> グループで楽器を使っているアンサンブルの練習 	アンサンブルの担当パートを予習
14	楽器を使って表現(3) ・発表に向け、グループごとに身近な楽器を使ったアンサンブルを仕上げる	<ul style="list-style-type: none"> グループで互いに教え合い、磨きをかけて練習 	同上
15	アンサンブルのミニ発表会 ・前期に学んだ内容を踏まえ、グループで練習した成果をアンサンブルとしてまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 互いにアンサンブルを聴き合って意見交換 感想カードの記入 	発表会で演奏するための構想を考えてくる
16	手作り楽器(1) ・身近にある材料を使い手作り楽器を製作し表現する	<ul style="list-style-type: none"> 手作り楽器のプリント グループで手作り楽器についての相談 	手作り楽器製作のプリントを通読して予習
17	手作り楽器(2) ・手作り楽器（カズー）を製作し、いろいろな楽曲をカズーで吹く	<ul style="list-style-type: none"> カズーに関する表現の仕方についての討議 カズーを使っての表現 	カズーに関するプリントを読み内容を把握
18	手作り楽器(3) ・手作り楽器（マラカスや風船太鼓）を製作し、作った楽器で音楽表現をする	<ul style="list-style-type: none"> マラカスや風船太鼓を使った表現についての討議 	マラカスや風船太鼓の作り方をプリントで通読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	季節や生活に関連した歌 ・季節や生活に関連した歌を探し、聴いたり歌ったりする	・季節や生活に関連した歌を探し出し、グループ発表する相談	唱歌や童謡、子どもの歌に関する曲を選曲
20	音楽で物語をつくる(1) ・昔話や名作の中から選んだ物語をリメイクし、音楽で物語をつくる相談をする	・音楽物語に関する先輩の作品をDVDで視聴	音楽で物語をつくることについての構想を練る
21	音楽で物語をつくる(2) ・各自が持ち寄った昔話の内容を検討し、グループでどの物語を発表するかについて討議する	・グループで昔話を基にどの物語にするかを相談して決める	物語についての構想を発表できるように予習
22	音楽で物語をつくる(3) ・グループで相談し、演目を決定して構想を練る	・グループで演目についての検討を重ね、挿入曲について相談する	同上
23	音楽で物語をつくる(4) ・リメイクした音楽劇の台詞や舞台装置（背景）作りの相談をする。	・グループで台詞や舞台装置（背景）挿入曲についての討議	物語の全体像を各自が確認する
24	音楽で物語をつくる(5) ・グループごとに音楽劇の内容に沿った台詞や舞台の背景作りを行う	・グループ内で互いに相談し、台詞や背景作り、挿入曲に関する意見交換	役割分担に即して各自の構想を練る
25	音楽で物語をつくる(6) ・各自役割分担に即し、発表に向けての練習をする	・役割分担に即した練習と練習の反省	役割分担に応じた内容を各自が練習、確認
26	音楽で物語をつくる(7) ・練習した成果を各グループで発表する ・各自が感想カードに発表に関する内容を記入	・グループでリメイクした音楽劇の内容を発表	同上
27	手遊び歌(1) ・手遊び歌を探し、グループで歌ったり手遊びを紹介したりする	・手遊びに関するプリント ・グループで手遊びについての話し合いと紹介	手遊び①プリントで予習
28	手遊び歌(2) ・既成の手遊びの歌をリメイクして歌ったり発表したりする	・既成の手遊び歌をリメイクする相談をしたり発表したりする	手遊び②プリントで予習
29	手遊び歌(3) ・手遊びの歌を創作し、発表のための練習をする	・グループごとに手遊びを創作するための相談	手遊び③プリントで予習
30	手遊び歌(4) ・手遊び歌の発表会 ・1年間の学習のまとめ	・練習した手遊びを発表する ・1年間を振り返る	発表に向けての練習
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 各授業内容に応じたレポートを提出する。課題は複数の課題から選択し、40点満点の採点とする。 2. 毎回実施する学習カード（「本日の授業で学んだことと授業の感想」）から各自の授業内容の理解度を確認する。30点満点の採点とする。 3. 授業内容に応じた発表会での練習の成果やグループ内での協力度、意欲等をDVDに録画して評価する。30点満点の採点とする。			
【教科書】 特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し授業内容に即したプリントを配付する。			

授業科目名	幼児音楽Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 <small>ながくぼ かず こ</small> 長久保 和子	開講期	通年	
		授業回数	30回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目は、手遊びや身体表現、歌唱などの活動を通して、楽しく音楽に親しめるような内容を学ぶ。保育現場における音楽（身体）表現遊びの事例を検討し、子どもたちが喜んで活動し豊かな感性を育むための保育技術を身につける。 また、指導計画案を基に、子どもと保育者側に分け言葉かけなど想定しながら模擬保育を行い、保育における歌うことの楽しさや歌詞の伝え方、歌い方について話し合う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
実際に子どもたちが喜んで遊べるものを作ったり、動いて表現したりしながら、音楽に慣れ親しみ、音楽活動の楽しさを味わう。			目標	A・B・E・F・H・J
楽器遊び、身体表現、手作りおもちゃ等、子どもたちが興味を持つものについてグループごとに話し合い、保育における歌うことの楽しさや歌詞の伝え方、歌い方への理解や関心を深める。			目標	A・B・F・G・J・L
指導案を自分で作り模擬保育を行う中で、子どもの反応について話し合い、環境の作り方や導入の仕方、言葉かけなど保育技術を身に付ける。			目標	A・B・F・G・H・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 概要の説明および評価について 歌「さくらさくら」(4月)：歌唱 歌とダンス「夢をかなえてドラえもん」	授業計画・CD、ピアノ伴奏 模擬保育(学内散策) グループワーク 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集 ミニレポート
2	指導案の立て方と伴奏法について 歌「チューリップ」(4月)：歌唱、身体表現 ・役割を決め、ダンスを作る ミニレポート提出	ピアノ伴奏・グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンス練習 指導案作成
3	歌「チューリップ」：歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う 歌とダンス「夢をかなえてドラえもん」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク(発表) 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	歌「こいのぼり」（5月）：歌唱、身体表現 ・役割を決め、ダンスを作る	ピアノ伴奏・グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンス練習 指導案作成
5	歌「こいのぼり」：歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う 歌とダンス「夢をかなえてドラえもん」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集
6	歌「かたつむり」（6月）：歌唱、身体表現 ・役割を決め、ダンスを作る	ピアノ伴奏・グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンス練習 指導案作成
7	歌「かえるのうた」（6月）：合唱 ・役割を決め、伴奏やハーモニーを作る	ピアノ伴奏・グループワーク 歌唱	伴奏、歌唱練習 指導案作成
8	歌(1)「かたつむり」：歌唱、身体表現 歌(2)「かえるのうた」：合唱 ・指導案をもとに模擬保育を行う 歌とダンス「夢をかなえてドラえもん」	(1)(2)どちらかを選ぶ CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集
9	歌「いるかはざんぶらこ」（7月）：歌唱、身体表現 ・役割を決め、ダンスを作る	ピアノ伴奏・グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンスの練習 指導案作成
10	歌「いるかはざんぶらこ」：歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う 運動会音楽について（準備体操・バルーンなど）	CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集
11	歌「うみ」（8月）：身体表現 ・役割を決め、ダンスを作る	ピアノ伴奏・グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンスの練習 指導案作成
12	歌「うみ」：歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う 歌とダンス「ワンダーランドたいそう」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集
13	歌「とんぼのめがね」（9月）：歌唱 ・とんぼおもちゃの製作 ・グループで役割を決め、伴奏や製作手順を考える ダンス「スターウォーズのテーマ」 ・バルーン曲について	CD、ピアノ伴奏 グループワーク・おもちゃ製作 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱の練習 指導案作成
14	歌「とんぼのめがね」：歌唱 ・指導案をもとに模擬保育を行う グループ編成 ・次回の課題曲を決め、内容や役割を決める	ピアノ伴奏 グループワーク（発表）	課題曲の練習 指導案の作成
15	歌の発表会（グループごと） ピアノを使用したゲームについて「イス取りゲーム」 歌とダンス「夢をかなえてドラえもん」	グループ発表・CD ピアノ伴奏（ゲーム） グループワーク 歌唱と簡単なダンス	指導計画の確認
16	後期の授業内容について 歌「どんぐりころころ」（9月）：歌唱、身体表現 ・どんぐりマラカスの製作 ・役割を決め、伴奏や製作手順を考える	授業計画・ピアノ伴奏 楽器製作（学内散策） グループワーク 演奏と歌唱、身体表現	テーマに関する情報収集
17	歌「森のくまさん」（9月）：歌唱、劇 ・お話を作り、役割を決め、伴奏や構成を考える 作ってダンス「ありがとう」 キラキラペットの製作	ピアノ伴奏、演劇 グループワーク おもちゃ製作 CD・歌唱とダンス	伴奏、歌唱、劇の練習 指導案作成 おもちゃの持参
18	発表会「森のくまさん」：歌唱、劇 ・劇を発表する ・指導案をもとに模擬保育を行う ダンス「ありがとう」	ピアノ伴奏、演劇 グループワーク（発表） CD・歌唱とダンス	テーマに関する情報収集

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	歌「山の音楽家」(10月)：歌唱、劇、楽器演奏 ・楽器に触れる ・お話を作り、役割を決め、伴奏や構成を考える	学内散策・ピアノ伴奏、演劇 楽器演奏・グループワーク 演奏と歌唱、身体表現	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案の作成
20	発表会「山の音楽家」：歌唱、劇、楽器演奏 ・発表する ・指導案をもとに模擬保育を行う なりきりダンス「忍者でござる」	ピアノ伴奏、演劇、楽器演奏 グループワーク（発表） CD・簡単なダンス	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案の作成
21	発表会「山の音楽家」：歌唱、劇、楽器演奏 ・発表する ・指導案をもとに模擬保育を行う 伝承遊び「だるまさんがころんだスペシャル」	ピアノ伴奏、演劇、楽器演奏 グループワーク（発表） ゲーム	テーマに関する情報収集
22	歌「あわてんぼうのサンタクロース」(12月) ：歌唱、劇、楽器演奏 ・お話を作り、役割を決め、伴奏や構成を考える 作ってダンス「大宙へのステップ」	ピアノ伴奏、演劇、楽器演奏 グループワーク・おもちゃ製作 CD・歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案作成 おもちゃの持参
23	発表会「あわてんぼうのサンタクロース」 ・発表する ・指導案をもとに模擬保育を行う ダンス「大宙へのステップ」	ピアノ伴奏、演劇、楽器演奏 グループワーク（発表） CD・歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案作成 おもちゃの持参
24	発表会「あわてんぼうのサンタクロース」 ・発表する ・指導案をもとに模擬保育を行う チームでダンス「大宙へのステップ」	ピアノ伴奏、演劇、楽器演奏 グループワーク（発表） CD・ダンス	テーマに関する情報収集
25	歌「ゆき」(1月)：歌唱、身体表現 ・役割を決め、ダンスを作る 作ってダンス「アンダー・ザ・シー」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク・おもちゃ製作 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンスの練習 指導案作成 おもちゃの持参
26	歌「ゆき」：歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う チームでダンス「アンダー・ザ・シー」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） ダンス	テーマに関する情報収集
27	歌「鬼は外」(2月)：歌唱、身体表現 ・鬼の面の製作 ・役割を決め、ダンスを作る ダンス「みんなのリズム」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク・製作 歌唱と簡単なダンス	伴奏や歌唱、ダンスの練習 指導案の作成
28	歌「春の小川」(3月)：合唱 ・役割を決め、伴奏やハーモニーを作る みんなでダンス「みんなのリズム」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏や歌唱の練習 鬼の面を持参
29	発表会「鬼は外」「春の小川」 ・指導案をもとに模擬保育を行う マーチでダンス「365日の紙飛行機」	CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） 歌唱とグループダンス	ミニレポート
30	まとめ 1年間を振り返る（発表） ミニレポート提出 みんなでダンス（今までのおさらい）	CD、ピアノ伴奏 グループワーク（発表） 歌唱と簡単なダンス	指導案の整理
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. グループでの実技発表を50%とする。 2. 授業に取り組む姿勢や意欲、参加態度、積極性を30%とする。 3. 授業時における発表、提出物等を20%とする。 ※詳細は初回授業にて説明する。			
【その他補足事項】 1. 教室は基本的に音楽館第1音楽室とする。授業内容などによっては変更する場合もある。 2. 前もって指示があった場合は、材料や道具を各自準備し、授業に臨むこと。			

授業科目名	ピアノ演習 (初心者レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 佐藤あつこ さとうあつこ		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初心者レベルの課題曲数は、抜粋でバイエル100番終了程度と歌曲を合わせて30曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初心者レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初心者レベルの課題曲数は、抜粋でバイエル100番終了程度と歌曲を合わせて30曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初心者レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	客員教授 さくら だ よう こ 桜 田 葉 子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初心者レベルの課題曲数は、抜粋でバイエル100番終了程度と歌曲を合わせて30曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初心者レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 <small>あさ</small> 浅 <small>の</small> 野 <small>よう</small> 洋 <small>こ</small> 子	開講期	通年	
		授業回数	30回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初心者レベルの課題曲数は、抜粋でバイエル100番終了程度と歌曲を合わせて30曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・レベルの確認 ・その他 (本科目の留意点)	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック (確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初心者レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師	わた なべ あき こ 渡 邊 聡 子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初心者レベルの課題曲数は、抜粋でバイエル100番終了程度と歌曲を合わせて30曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初心者レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>いけだ</small> 池田 <small>な</small> 奈央 <small>お</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初心者レベルの課題曲数は、抜粋でバイエル100番終了程度と歌曲を合わせて30曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・その他（本科目の留意点） ・授業の進め方 ・レベルの確認	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 佐藤敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他 (本科目の留意点)	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック (確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	客員教授 さくら だ よう こ 桜 田 葉 子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・レベルの確認 ・その他 (本科目の留意点)	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック (確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 浅野 洋子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他 (本科目の留意点)	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック (確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師	わた なべ あき こ 渡 邊 聡 子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 いけだ なお 池田 奈央		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他 (本科目の留意点)	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック (確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（ツェルニー・ブルグミュラー）を通してピアノの奏法を学ぶ。 中級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ブルグミュラー程度と歌曲を合わせて42曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 教科書の購入について別に指示する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 浅野 洋子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（ツェルニー・ブルグミュラー）を通してピアノの奏法を学ぶ。 中級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ブルグミュラー程度と歌曲を合わせて42曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他 (本科目の留意点)	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック (確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 教科書の購入について別に指示する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中上級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（ツェルニー・ブルグミュラー）を通してピアノの奏法を学ぶ。 中上級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ソナチネ程度と歌曲を合わせて47曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力（アレンジできる能力を含む）を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 教科書の購入について別に指示する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中上級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 浅野 洋子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（ツェルニー・ブルグミュラー）を通してピアノの奏法を学ぶ。 中上級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ソナチネ程度と歌曲を合わせて47曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力（アレンジできる能力を含む）を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・レベルの確認 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て、弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲達成 50% 2. 前期末試験 20% ・ 後期末試験 20% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 教科書の購入について別に指示する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 課題曲を達成しないと見込まれる学生については、担当教員が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習（再履修科目） （初心者・初級・中級・中上級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 （職名・氏名）	非常勤講師 わたなべあきこ 渡邊 聡子		開講期	前期
			授業回数	30回 （週2コマ実施）
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習」の単位を取得できなかった履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲を通してピアノの奏法を学ぶ。 各レベルの課題曲数は、1年次での課題曲の残曲数を含めて、初心者レベル15曲、初級レベル17曲、中級レベル20曲、中上級レベル22曲とする。 課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標		
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力（アレンジできる能力を含む）を身につけることができる。	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション • 授業概要と目標 • 評価方法 • その他（本科目の留意点） • 授業の進め方 • レベルの確認	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書・楽譜を見て1年次での課題曲をレッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	レベル別楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期中間試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	前期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 各レベルの課題曲の達成 50% 2. 前期中間試験 20% ・ 前期末試験 20% ＊前期中間試験（実技試験）・前期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10% ※評価点については、再履修科目であることからB評価以下とする。			
【教科書】 1年次に使用した教科書と楽譜を使用する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 各レベルの課題曲（残曲以外）は担当教員が選定する。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習（再履修科目） （初心者・初級・中級・中上級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 （職名・氏名）	非常勤講師 いけ だ な お 池 田 奈 央		開講期	前期
			授業回数	30回 （週2コマ実施）
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習」の単位を取得できなかった履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲を通してピアノの奏法を学ぶ。 各レベルの課題曲数は、1年次での課題曲の残曲数を含めて、初心者レベル15曲、初級レベル17曲、中級レベル20曲、中上級レベル22曲とする。 課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標		
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力（アレンジできる能力を含む）を身につけることができる。	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション • 授業概要と目標 • 評価方法 • その他（本科目の留意点） • 授業の進め方 • レベルの確認	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書・楽譜を見て1年次での課題曲をレッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	レベル別楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期中間試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	前期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 各レベルの課題曲の達成 50% 2. 前期中間試験 20% ・ 前期末試験 20% ＊前期中間試験（実技試験）・前期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10% ※評価点については、再履修科目であることからB評価以下とする。			
【教科書】 1年次に使用した教科書と楽譜を使用する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 1. 各レベルの課題曲（残曲以外）は担当教員が選定する。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習（初心者レベル）」の単位を取得した者で、次のレベルを希望する履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と目標 評価方法 その他（本科目の留意点） 	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲の達成 80% 2. 前期末試験 5% ・ 後期末試験 5% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社（ドレミ楽譜出版社） 価格：900円（税別） ※初級レベル履修者の教科書は、1年次に購入した上記を使用する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習（初級レベル）」の単位を取得した者で、次のレベルを希望する履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（ツェルニー・ブルグミュラー）を通してピアノの奏法を学ぶ。 中級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ブルグミュラー程度と歌曲を合わせて42曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と目標 評価方法 その他（本科目の留意点） 	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 課題曲の達成 80%
2. 前期末試験 5% ・ 後期末試験 5%
※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。
3. 受講態度 10%

【教科書】 教科書の購入について別に指示する。
その他、楽譜のプリントを適宜配付する。

【その他補足事項】

課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。

授業科目名	ピアノ演習 (中上級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、時間割確定後に説明する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習(中級レベル)」の単位を取得した者で、次のレベルを希望する履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)・練習曲(ツェルニー・ソナチネ)を通してピアノの奏法を学ぶ。 中上級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ソナチネ程度と歌曲を合わせて47曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック(確認テスト)を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力(アレンジできる能力を含む)を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と目標 評価方法 その他(本科目の留意点) 	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック(確認テスト)	楽譜配付 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲の達成 80% 2. 前期末試験 5% ・ 後期末試験 5% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 教科書の購入について別に指示する。 その他、楽譜のプリントを適宜配付する。			
【その他補足事項】 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ギター演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{さとう} 佐藤 ^{たかし} 隆 〔本務先：福島ギター学院 職名：院長〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了時に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 ピアノ以外の楽器で、ギターを履修したい学生を対象とする。 ギターの特性を生かしながら、歌の伴奏を通して、表現豊かに演奏を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ギターのコードを覚え、弾き語りを出来る様にする。			目標	A・B
保育現場での対応を出来る様にする。			目標	E・F・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 1. 授業の概要と到達目標 2. 授業内容と評価方法 3. その他	授業計画	
2	ハ長調 Iポジション ド～ソを覚える	ヤマハクラシックギター コースVol. 1	課題曲について自学自習 をすること
3	〃 ソ～シを覚える	〃	〃
4	〃 ド～ファを覚える	〃	〃
5	〃 低いミ～シを覚える	〃	〃
6	C & G ₇ コードを覚える	〃	〃
7	C & G ₇ コードでリズムパターン	〃	〃
8	メロディーと伴奏の同時演奏	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	イ短調 Am & E ₇ コードを覚える	〃	〃
10	Dmコードを覚える アルペジオ	〃	〃
11	今までの曲をより滑らかに弾き語り(1)	〃	〃
12	今までの曲をより滑らかに弾き語り(2)	〃	〃
13	小セーハのFコードを覚える	〃	〃
14	大セーハのFコードを覚える	〃	〃
15	前期末試験		
16	ト長調 音階とG & D ₇ コードを覚える	ヤマハクラシックギター コースVol. 1 こどもの歌謡曲集	課題曲について自学自習 をすること
17	G & D ₇ コードでリズムパターン	〃	〃
18	ホ短調 Em & B ₇ コードを覚える	〃	〃
19	Em & B ₇ コードでリズムパターン	〃	〃
20	Eグループコード郡(1)	〃	〃
21	Eグループコード郡(2)	〃	〃
22	主要三和音	〃	〃
23	パワーコード	〃	〃
24	現場で役立ついろいろな曲 練習(1)	〃	〃
25	現場で役立ついろいろな曲 練習(2)	〃	〃
26	現場で役立ついろいろな曲 練習(3)	〃	〃
27	現場で役立ついろいろな曲 練習(4)	〃	〃
28	現場で役立ついろいろな曲 練習(5)	〃	〃
29	現場で役立ついろいろな曲 練習(6)	〃	〃
30	後期末試験の選曲	〃	〃
期末 試験	後期末試験（実技）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 前期、後期、2回の期末試験（実技試験）80%（40%×2回） 2. 授業態度等20% ※詳しくは初回授業時に示す。			
【教科書】 書名：ヤマハクラシックギターコースVol. 1 著者名：音楽振興会 発行所：(株)ヤマハミュージックメディア 価格：900円（税別）			
【その他補足事項】 履修者7名以上で開講する。			

授業科目名	図 画 工 作		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 石 田 敏 和 兼任准教授 鈴 木 美 樹	いし だ とし かず すず き み き	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子どもの造形活動に伴う、様々な材料や道具の基礎知識と、表現方法について学ぶ。具体的には、様々な描画材を用いた平面作品や、紙材や粘土等を用いた立体作品を作る。必要に応じて講義も取り入れながら、造形表現力の向上を目指し、子どもの造形活動を適切に指導、援助するための方法を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
形や色、物質や空間等、造形の基本要素や理論を知り、表現するための技術を高めることができる。			目標	A・B・K
感性が磨かれ、イメージ豊かに表現できる。			目標	F・K
創造活動を楽しみながら、美術文化に関心を抱き、主体的にかかわる態度が身に付く。			目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 2. 美術教育の意義について	授業計画 意見を述べ、疑問点を質問する	自然観察
2	<絵画表現のための基礎演習Ⅰ> 無彩色による表現(1)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
3	<絵画表現のための基礎演習Ⅰ> 無彩色による表現(2)	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
4	<絵画表現のための基礎演習Ⅱ> 図法を理解する(1)	プリント① 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント①の復習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	<絵画表現のための基礎演習Ⅱ> 図法を理解する(2)	プリント② 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント②の復習 空き時間を使って、課題を進める
6	<写生による絵画表現> フレーミング	プリント③ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント③の復習 空き時間を使って、製作を進める
7	<写生による絵画表現> 対象物の構造を理解する	プリント④ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント④の復習 空き時間を使って、課題を進める
8	<写生による絵画表現> 明暗、質感、固有色	プリント⑤ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑤の復習 空き時間を使って、課題を進める
9	<写生による絵画表現> 表現技法	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント①～⑤の復習 空き時間を使って、課題を進める
10	<写生による絵画表現> 仕上げ	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 疑問点を質問する	プリント①～⑤の確認 空き時間を使って、課題を進める
11	<色彩の理解> 知覚のシステム	プリント⑥ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑥の復習 空き時間を使って、課題を進める
12	<色彩の理解> 色の整理と分類(1)	プリント⑦ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑦の復習 空き時間を使って、課題を進める
13	<色彩の理解> 色の整理と分類(2)	プリント⑧ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑧の復習 空き時間を使って、課題を進める
14	<色彩の理解> 色名を覚える	プリント⑨ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑨の復習 空き時間を使って、課題を進める
15	前期末試験 ※担当教員の指示により、筆記試験 もしくはレポート提出とする	プリント	プリント①～⑨の確認 空き時間を使って、課題を進める
16	<粘土による表現> 粘土の種類について 立体の表現(1)	プリント⑩ 粘土等で製作する 疑問点を質問する 感想や意見を述べ合う	プリント⑩の復習 対象の観察
17	<粘土による表現> 立体の表現(2)	プリント⑪ 粘土等で製作する 疑問点を質問する 感想や意見を述べ合う	プリント⑪の復習 対象の観察
18	<粘土による表現> 立体の表現(3)	プリント⑫ 粘土等で製作する 疑問点を質問する 感想や意見を述べ合う	プリント⑩～⑫の復習 対象の観察
19	<紙材による表現Ⅰ> 基礎技法	プリント⑬ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑬の復習 空き時間を使って、課題を進める
20	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(1)	プリント⑭ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑭の復習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(2)	各自の製作テーマを述べる プリント⑮ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑮の復習 空き時間を使って、課題を進める
22	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(3)	各自の製作テーマを述べる プリント⑯ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑯の復習 空き時間を使って、課題を進める
23	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(4)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	資料を準備する 空き時間を使って、課題を進める
24	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(5)	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 意見を述べ、疑問点を質問する	資料を準備する 空き時間を使って、課題を進める
25	<紙材による表現Ⅱ> 折り紙による表現(1)	プリント⑰ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑰の復習 空き時間を使って、課題を進める
26	<紙材による表現Ⅱ> 全体の構成を考える(2)	各自の製作テーマを述べる プリント⑱ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑱の復習 空き時間を使って、課題を進める
27	<紙材による表現Ⅱ> パーツを製作する(3)	各自の製作テーマを述べる プリント⑲ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑲の復習 空き時間を使って、課題を進める
28	<紙材による表現Ⅱ> パーツを製作する(4)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
29	<紙材による表現Ⅱ> パーツを製作する(5)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
30	<紙材による表現Ⅱ> 仕上げ(6)	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
期末 試験	期末試験	プリント	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品評価50%、期末試験40%（前期末試験20%・後期末試験20%）、受講態度10%。 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。 ※詳細については、初回授業時に説明する。			
【教科書】 その都度プリントを配付する。			
【その他補足事項】 材料費として1,800円を徴収する。 ※学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合がある。			

授業科目名	幼 児 体 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 おか だ ま き 岡 田 麻 紀		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		質問等はメールにて受け付ける。		

【授業の概要】 本科目では、幼児体育についての基礎を理論と実践の両面から理解する。発育発達段階に応じた運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法を学習する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育現場で活用できる運動遊びを習得する。また子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につける。			目標	A・B・E
運動の指導者としてふさわしい実技能力を高め、表現力を養い、魅力ある指導者となる資質を身につける。			目標	B・E・G・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と進め方 (3) 評価方法 (4) その他 (本科目の留意点)	授業計画	幼児体育の概要を調べてくる
2	幼児体育の実際	グループワーク	幼児体育の概要を調べてくる
3	体づくり運動(1)	グループワーク	テーマに関する遊びについて調べてくる
4	リズム体操(1)	グループワーク	テーマに関する遊びについて調べてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	鬼遊び	グループ発表①	テーマに関する遊びについて調べてくる
6	触れ合い遊び	グループ発表②	テーマに関する遊びについて調べてくる
7	用具を使った遊び(1) ボール	グループ発表③	テーマに関する遊びについて調べてくる
8	用具を使った遊び(2) フラフープ	グループ発表④	テーマに関する遊びについて調べてくる
9	用具を使った遊び(3) 短縄	グループ発表⑤	テーマに関する遊びについて調べてくる
10	用具を使った遊び(4) 長縄	グループ発表⑥	テーマに関する遊びについて調べてくる
11	器具を使った遊び(1) マット	グループ発表⑦	テーマに関する遊びについて調べてくる
12	器具を使った遊び(2) 平均台	グループ発表⑧	テーマに関する遊びについて調べてくる
13	器具を使った遊び(3) 跳び箱	グループ発表⑨	テーマに関する遊びについて調べてくる
14	音楽を使った遊び	グループ発表⑩	テーマに関する遊びについて調べてくる
15	前期末試験	筆記試験	授業の復習
16	体づくり運動(2)	グループワーク	テーマに関する遊びについて調べてくる
17	リズム体操(2)	グループワーク	テーマに関する遊びについて調べてくる
18	ジャンプ遊び	グループ発表Ⅱ①	テーマに関する遊びについて調べてくる
19	身近な素材を使った遊び（新聞紙）	グループ発表Ⅱ②	テーマに関する遊びについて調べてくる
20	身近な素材を使った遊び（タオル）	グループ発表Ⅱ③	テーマに関する遊びについて調べてくる
21	伝承遊び	グループ発表Ⅱ④	テーマに関する遊びについて調べてくる
22	ヨガ遊び	グループ発表Ⅱ⑤	テーマに関する遊びについて調べてくる
23	リレー遊び	グループ発表Ⅱ⑥	テーマに関する遊びについて調べてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	表現遊び	グループ発表Ⅱ⑦	テーマに関する遊びについて調べてくる
25	運動会	グループ発表Ⅱ⑧	テーマに関する遊びについて調べてくる
26	現代社会における幼児体育の意義	補足資料	教科書を読んで理解する
27	幼児体育のねらいと指導方法	補足資料	教科書を読んで理解する
28	幼児体育の今後の課題	補足資料	教科書を読んで理解する
29	幼児の心と体	補足資料	教科書を読んで理解する
30	幼児体育と安全教育	補足資料	教科書を読んで理解する
期末試験	後期末試験	筆記試験	授業の復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験 前期20点 後期20点 2. グループ発表 前期20点 後期20点 3. 授業態度 20点 *詳細は、オリエンテーション時に説明する。			
【教科書】 書名：楽しく学ぶ運動遊びのすすめ — ポートフォリオを活用した保育実践力の探求 — 著者名：柴田卓・石森真由子（編者） 発行所：株式会社 みらい 価格：1,300円（税別）			
【その他補足事項】 1. 運動できる服装および室内用シューズを着用すること。 （スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めない） 2. 授業が始まるまでに、アクセサリ類は必ず外すこと。 3. 髪が長い学生は一つにまとめること。 4. 貴重品はロッカーに入れること。			

授業科目名	幼 児 体 育		授業形態・単位数	演習・2単位	
			開 講 年 次	2年次	
担当教員 (職名・氏名)	兼担准教授 非常勤講師	ふじもと 藤本 おかだ 岡田 ま 麻	かなめ 要 き 紀	開 講 期	通年
				授 業 回 数	30回
				期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業		専門教育科目	必修		
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修		
保育士資格		〃	必修		
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。 授業終了後に教室で質問等に対応する。			

【授業の概要】 本科目では、幼児体育についての基礎を理論と実践の両面から理解する。発育発達段階に応じた運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法を学習する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育現場で活用できる運動遊びを習得する。		目標	A・B・E
子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につける。		目標	B・E・I・L
運動の指導者としてふさわしい実技能力を高め、表現力を養い、魅力ある指導者となる資質を身につける。		目標	B・E・I・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と進め方 (3) 評価方法 (4) その他（本科目の留意点）	授業計画	授業計画を読み授業の概要・目標を理解しておく
2	幼児体育の実際	グループワーク	幼児体育の概要を調べてくる
3	からだを使った運動遊び(1) 移動系の遊び	グループ発表①	テーマに関する遊びについて調べてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	からだを使った運動遊び(2) 非移動系の遊び	グループ発表②	テーマに関する遊びについて調べてくる
5	ジャンプ遊び	グループ発表③	テーマに関する遊びについて調べてくる
6	器具を使った遊び(1) マット	グループ発表④	テーマに関する遊びについて調べてくる
7	器具を使った遊び(2) 跳び箱	グループ発表⑤	テーマに関する遊びについて調べてくる
8	器具を使った遊び(3) 平均台	グループ発表⑥	テーマに関する遊びについて調べてくる
9	器具を使った遊び(4) 巧技台	グループ発表⑦	テーマに関する遊びについて調べてくる
10	器具を使った遊び(5) 鉄棒	グループ発表⑧	テーマに関する遊びについて調べてくる
11	用具を使った遊び(1) 短縄	グループ発表⑨	テーマに関する遊びについて調べてくる
12	用具を使った遊び(2) 長縄	グループ発表⑩	テーマに関する遊びについて調べてくる
13	用具を使った遊び(3) フラフープ	グループ発表⑪	テーマに関する遊びについて調べてくる
14	用具を使った遊び(4) ボール	グループ発表⑫	テーマに関する遊びについて調べてくる
15	前期末試験	筆記試験	授業の復習
16	オリエンテーション（担当教員交代のため） （1）授業の概要と目標 （2）授業内容と進め方 （3）評価方法 （4）その他（本科目の留意点）	授業計画	授業計画を読み授業の概要・目標を理解しておく
17	体づくり運動	グループワーク	体づくり運動の種類について調べてくる
18	ダンス・リズム体操	グループワーク	リズム体操について調べてくる
19	鬼あそび	グループ発表①	テーマに関する遊びについて調べてくる
20	伝承遊び	グループ発表②	テーマに関する遊びについて調べてくる
21	ふれあい遊び	グループ発表③	テーマに関する遊びについて調べてくる
22	ヨガ遊び	グループ発表④	テーマに関する遊びについて調べてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	身近な素材を使った遊び(1)（タオル）	グループ発表⑤	テーマに関する遊びについて調べてくる
24	身近な素材を使った遊び(2)（新聞紙）	グループ発表⑥	テーマに関する遊びについて調べてくる
25	運動会	グループ発表⑦	テーマに関する遊びについて調べてくる
26	現代社会における幼児体育の意義	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
27	幼児体育のねらいと指導方法	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
28	幼児体育の今後の課題	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
29	幼児の心と体	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
30	幼児体育と安全教育	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
期末試験	後期末試験	筆記試験	授業の復習
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー、もしくは学科長を通じて説明する。</p>			
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 前期20点 後期20点 2. グループ発表 前期20点 後期20点 3. 授業態度 20点 *詳細は、オリエンテーション時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：楽しく学ぶ運動遊びのすすめ ― ポートフォリオを活用した保育実践力の探求 ― 著者名：（編者）柴田 卓・石森真由子 発行所：株式会社 みらい 価格：1,300円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 1. 運動できる服装および室内用シューズを着用すること。 （スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めない） 2. 授業が始まるまでに、アクセサリ類は必ず外すこと。 3. 髪が長い学生は一つにまとめること。 4. 貴重品はロッカーに入れること。 5. 1～15回の授業を藤本准教授、16～30回の授業は岡田非常勤講師が担当する。前期と後期で授業担当者を交代する。 そのため前期に岡田非常勤講師が担当するクラスは、16回目から授業開始となる。</p>			

授業科目名	国語		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 田 上 貞一郎 講師 あら かわ まもる 荒 川 守		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園・小学校と連続する教科として国語教育の理解をテーマとし、次の点を到達目標とする。 1. 豊かな言語感覚と言語能力の育成の大切さを学ぶとともに、しっかりした思考力・表現力・読解力を育成する国語教育を理解する。 2. 幼稚園と小学校1、2年の国語の関連性を理解するとともに、幼稚園における国語の在り方、重要性を認識する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園教育要領や保育所保育指針さらに認定こども園教育・保育要領の「言葉」の領域への理解を深める。			目標	A・J
小学校国語教育との接続を認識し、国語科の教科専門の力を育てる。			目標	A・C・D・L
絵本・童話と文学教材、音声言語教材、伝記教材、説明文教材を取り上げ、各教材の特徴を理解し授業を行う上での基礎的な知識を学ぶ。			目標	A・B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点)	自己プレゼンテーション 教材: 授業計画・教科書・プリント	自己プレゼンテーションの用意 授業計画の確認
2	国語の位置づけと対象領域	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材: 教科書・プリント	教材予習 朗読練習
3	国語とは何か(1)(幼児にとっての国語・全体的な枠組み)	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材: 教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	国語とは何か(2)（話すこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
5	国語とは何か(3)（聞くこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
6	国語とは何か(4)（書くこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
7	国語とは何か(5)（読むこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
8	幼稚園と小学校の国語（幼稚園での文字指導）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
9	幼稚園と小学校の国語（小学校での国語の相違）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
10	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（話すこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
11	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（聞くこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
12	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（書くこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
13	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（読むこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
14	伝統的な言語文化と国語の関連	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
15	まとめと振り返り	指名問答、口頭発表	質疑の準備
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書・資料の朗読（10%）、期末試験の成績（90%）から客観的に評価する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、加点・減点等を行う。			
【教科書】 書名：小学校学習指導要領解説 国語編 著者名：文部科学省 発行所：東洋館出版社 価格：204円（税別）			

授業科目名	創作ミュージカル		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年生
担当教員 (職名・氏名)	准教授 <small>ながくぼ かず こ</small> 長久保 和子	開講期	後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目は、現代の子どもたちに「伝えたいこと」をねらいとし、課題について学生同士で分析・検討を行いながら、子どものためのミュージカルを作っていく。 創作過程の中で豊かな感性や自己表現を養い、表現する楽しさや喜びを味わう。また、ミュージカルという手段で授業での成果を観客の前で発表する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代の子どもたちに伝えたい思いを、学生同士でディスカッションし、今まで学んできた自分の保育内容や実習経験を十分に生かす。			目標	A・B・G・K・L
脚本、演技(演奏)、ダンス、舞台芸術、音響、照明といったミュージカルという総合芸術を、自分たちで作り上げ、皆で表現することの楽しさや喜び、達成感を味わう。			目標	A・B・E・F・H
ミュージカル創作の過程において、協調性・連携・責任感・自主性・思いやりなどを身に付け、保育者にとって必要なことを学ぶ。			目標	G・H・J・L
空き時間の活用など自分たちで工夫しながら時間をやりくりし、計画的に物事を進める経験を得る。また、積極的に練習へ参加し、完成度への意識を高める。			目標	B・G・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要の説明 <ul style="list-style-type: none"> 今後の日程(テーマ・題・内容の決定) 教室借用の詳細 評価方法 実行委員と係の紹介 脚本修正・各係の打ち合わせ・配役の最終決定 各係の行程表作成	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画、資料の説明 DVD 係ごとのグループディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> 行程表清書 脚本と各係の詳細打ち合わせ 教室借用調整

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各系の分担について話し合う 行程表提出 <p>脚本仕上げ</p> <p>ステージ練習(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配役のセリフ合わせ、立ち位置の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 構成作業 セリフ合わせ 歌唱、ダンス ステージ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 教室借用をクラスごと調整 指導を受けた点を修正、脚本の仕上げ 立ち位置確認
3	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各係、行程表に沿って準備を進める <p>脚本の修正と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 脚本に即して、舞台監督・音響・照明・大道具に分かれて打ち合わせをする <p>ステージ練習(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配役のセリフ合わせ、立ち位置の確認 <p>プログラム構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 構成作業（美術製作の構想・音響の選曲・照明の色合い構成、学内借用物、プログラム等） セリフ合わせ 歌唱、ダンス ステージ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 教室借用調整 指導を受けた点を修正、脚本の仕上げ 配役の確認 音響、照明、大道具、プログラム構成決定
4	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各係、行程表に沿って準備を進める <p>脚本の最終確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 脚本に即して、各係で話し合いを進める <p>ステージ練習(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配役のセリフ合わせ、立ち位置の確認 <p>プログラム構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作（音響選曲・照明構成、学内借用物、プログラム等） セリフ合わせ 歌唱、ダンス ステージ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 脚本を熟読 美術構成修正 学内借用物の決定 脚本と各係の詳細打ち合わせ
5	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 美術製作（学内借用物決定、借用表作成） 選曲・照明の決定 <p>脚本の最終確認</p> <p>立ち稽古(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟 配役のセリフ、動き方等表現指導 <p>プログラムの原案作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作 演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（立ち稽古） プログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、プログラムなど指導を受けた点の改善 配役の練習 学内借用物一覧表の作成
6	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 美術製作（学内借用一覧表提出） 選曲・照明の決定 <p>立ち稽古(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟 配役のセリフ、動き方等表現指導 <p>プログラムの決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作 演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（立ち稽古） プログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、プログラムなど指導を受けた点の改善 配役の練習 プログラムの清書提出
7	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 美術製作（大道具の保管場所確保と保管開始） 選曲・照明の決定 <p>立ち稽古(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟 配役のセリフ、動き方等表現指導 <p>通し稽古(1)</p> <p>プログラムの清書提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作 演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（立ち稽古、通し稽古） 	<ul style="list-style-type: none"> 大道具保管場所の確保（各サークルと調整） 音響、照明、プログラムなど指導を受けた点の改善 配役の練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 通し稽古(2) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 全体実行委員会について	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動 (通し稽古)	・脚本、各系の細部打ち合わせ ・指導を受けた点の改善 ・運営係の役割分担の決定 ・実行委員会の実施
9	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 総合司会、つなぎ（導入役）、記録、タイムキーパー、受付、会場係など当日の運営について 通し稽古(3) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動 (通し稽古) ・運営係でのグループディスカッション	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・運営係の確認 ・実行委員会の実施
10	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 全体練習(1) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 ・音響、照明、大道具を合体	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動 (通し稽古)	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・実行委員会の実施
11	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 全体練習(2) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 ・音響、照明、大道具を合体	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動 (通し稽古)	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・実行委員会の実施
12	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 全体練習(3) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 ・音響、照明、大道具を合体 つなぎ、当日の運営の流れについて	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動 (通し稽古) ・つなぎ、運営係のディスカッション	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・実行委員会の実施
13	全体リハーサル実施 ・音響、照明、大道具、配役の動きの最終確認 ・つなぎ、当日の運営の流れの確認	・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明、つなぎを合体させたステージ活動 ・発表会運営練習	・役割分担や、配役の立ち位置、音響、照明のタイミングなどの最終確認
14	全体リハーサル実施（授業時間外に実施） ・全クラス合同で通し稽古を行う ・総合司会、つなぎ（導入役）、受付、会場、インカム係などの立ち位置確認 ・発表会同様に流れで全体練習を行う ・各係への細かな指導	・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明、つなぎ、司会、受付、会場係を合体させたステージ活動 ・発表会運営練習 (業者参加)	・指導を受けた点を改善し、発表会に備える
15	「創作ミュージカル発表会」実施（授業時間外に実施） ・千葉記念ホールで発表会を行う	・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明、つなぎ、司会、受付、会場係を合体させたステージ活動 ・発表会運営	・発表会の感想や反省等をまとめる

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. テーマと脚本の整合性や音響・照明・大道具・衣装の創造性、配役の適性（歌唱力や演技力）など発表会における完成度を50%とする。
2. 発表会までの過程における練習意欲や態度、参加に対して30%とする。
3. 周りとの協調性や自分の役割に対する責任感を20%とする。

※発表当日およびリハーサルに参加できない場合は単位を認定しない場合がある。

※詳細は初回授業にて説明する。

【その他補足事項】

1. 授業は千葉記念ホールで行う。授業開始後、各役割に応じてリハーサルルーム、アンダルシア、情スタを使用することがある。
2. 前期から「クラスセミナーⅡ」の時間を利用して事前準備を行っていく。
3. 事前準備をしっかりと行い、予備知識を養うため、実行委員と脚本係については4月末日までに、各係は6月中までに、各クラスで自主的に話し合い、決定する。各クラスの実行委員は、各係が決まり次第、担当教員に進行状況も含め報告する。
4. 脚本は5月から構想に入り、6月から制作に入る。9月初旬に第1回目の提出（担当教員の確認）とする。内容やねらいは各クラスで話し合い、原案とする物語（グリム童話・日本民話・絵本・ディズニーアニメなどから選ぶ）を4月末日までに決め（複数可）、担当教員に報告する。5月の構想からは、原案の物語を基に脚色していく。内容がテーマに即しているかなど、細かい指導を担当教員より行うが、内容は途中で変更する場合もある。
5. 脚本構想はあくまで、子どもに向けてのものであり、歌やダンスを加えることとする。
6. 授業以外の必要な学修として、授業の空き時間や授業終了後に自主練習する時間を設ける。
自主練習に参加しない場合、評価に影響されることがある。
7. 練習に使用する教室は、事前に必ず教室使用手続きをとるようにする。

<時間割外練習教室> 千葉記念ホール・リハーサルルーム・アンダルシア・スペイン広場
図書館情報センタースタジオ・大視聴覚室・音楽館第3音楽教室 等

授業科目名	バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流 国際理解演習(バリ島)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 佐藤敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目 教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1. 音楽や踊りを通して、現地の幼稚園や村の子どもたちと交歓交流を行う。 2. 現地でのバリダンスレッスン、模擬結婚式、ミスター&ミズバリコンテストに参加する等、バリ島の芸術文化を体験し、人々と触れ合うことにより、日本文化との比較研究を行う。 3. ガムラン音楽や踊りを通しての心の癒しを体験する。 4. ハラパン幼稚園(本学認定こども園の姉妹園)を訪問して、バリ島幼児教育の実際について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
1. バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につける。			目標	A・H
2. バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、保育者としての表現力の向上を図る。			目標	B・E・F・G・I・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義、概要について	授業計画 資料配付	バリ島の事前学習
2	交歓交流について	資料配付	〃
3	バリ島の宗教・歴史(1) バリ島の芸術 各自の研究テーマについて	〃	〃
4	バリ島の地理(概説)	〃	〃
5	交流の練習(1)	歌とダンスの練習	交流の練習・渡航手続き
6	バリ島の宗教・歴史(2) バリ島の文化 交流の練習(2)	資料配付 歌とダンスの練習	〃
7	交流の練習(3)	歌とダンスの練習	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	交流のダンス指導(1)	ゲストスピーカー	交流の練習・渡航手続き
9	交流の練習(4)	歌とダンスの練習	〃
10	交流の練習(5)	歌とダンスの練習	〃
11	交流のダンス指導(2)	ゲストスピーカー	〃
12	交流のダンス指導(3)	〃	〃
13	交流の練習(6)	歌とダンスの練習	〃
14	交流の練習(7)	〃	〃
15	交流の練習(8)	〃	〃
16	交流の練習(9)	〃	〃
17	交流の練習(10)	〃	〃
18	研修旅行の実施(1) バリダンスレッスン①（1コマ）	バリ島海外研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研究
19	研修旅行の実施(2) タガス村での交流など（2コマ）	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	研修旅行の実施(3) ハラパン幼稚園訪問、園児との交流（1コマ）	〃	〃
22	研修旅行の実施(4) バリダンスレッスン②（1コマ）	〃	〃
23	研修旅行の実施(5) ケランビタン宮殿訪問他（5コマ）	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	事後指導(1)	レポート作成	レポートのまとめ
29	事後指導(2)	〃	〃
30	事後指導(3)（レポート発表）	レポート提出	〃
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1. 旅行前の事前研究（10%）</p> <p>2. 現地で実施する交流の練習意欲と参加態度（15%）</p> <p>3. 授業の出席、および事前練習への参加態度（20%）</p> <p>4. 旅行中の参加態度（35%） （集団行動の円滑化への努力、マナー、現地バリ島の人々との交流への積極性、友人との協調性） *旅行中の参加態度の詳細については、別途説明する。</p> <p>5. 最終レポートの内容（20%）</p> <p>※海外研修における現地研修については、病気等やむを得ない場合を考慮して5分の4以上の日数及び時数を出席すること。</p>			

【その他補足事項】

1. 履修届は5月20日までに行うこと。
2. ゲストスピーカー等による特別講義、交歓交流の練習など、授業時間外に実施する場合がある。
3. 全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回実施する。
4. 渡航手続は、全学科の空き時間等に設定するので、週に1回は参加すること。
5. 現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておくこと。(現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい)
6. 研修旅行中、持病(乗り物酔いを含む)のある方は、各自の責任において薬を持参すること。
7. 団体で行動するので協調性を身に付けておくこと。(現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とする)
8. 現地での体調管理については、最大限サポートをするが、自己管理、自己責任とする。
9. 研修旅行参加に伴う「承諾書」は、必ず提出すること。
10. ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催する。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合がある。
11. 最少催行人数は10名、最高催行人数は16名とする。

※海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化(テロ等)や、強度性の鳥インフルエンザが発症する等、十分な安全を確保できないと判断した場合、海外研修の実施を中止、または延期する場合がある。なお、平成29年度の海外研修実施の有無、研修日程は4月中に決定する。

授業科目名	特別研究（子どもと園芸）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 すぎ 浦 ひろ ゆき 杉 浦 広 幸		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育では多くの施設でサツマイモ栽培などが実施されているが、これは保育所保育指針の内容に「身近な動植物に親しみをもち、いたわったり大切にしたり、農作物を育てたり味わうなどし生命の尊さに気づく」とあることからであり、本授業ではこの点を重視する。つまり、農作物・植物の栽培と利用活動を保育に活用する方法を体験しながら学習し、発展させていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもが自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づくような保育ができるようにする。			目標	A・F・H
農作物栽培や庭園での活動を通し、子どもに季節感を養う保育ができるようにする。			目標	A・F
子どもが自然に関心を持ち、遊びや生活に取り入れる保育ができるようになる。			目標	A・B・F
保育で農作物を育てたり味わうなどのプログラムを実施し、子どもが生命の尊さに気づくような指導をすることができる。			目標	F・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業オリエンテーション、保育での「環境」とは (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 畑作り・種イモ準備	授業計画 野菜圃場と庭園巡回および作業（土作り体験）	幼稚園・保育所や小学校での栽培経験を整理しておく
2	ジャガイモ植え付け (タネイモ準備、定植)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、畑の除草を適宜行う
3	プランターでニンジン栽培 (カボチャの苗作り・ニンジン播種)	栽培活動 作業のため要長靴	事後学修として、畑の灌水を適宜行う

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	野菜畑の整備（サツマイモ畑の準備）	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、畑の灌水を適宜行う
5	サツマイモの定植、野菜苗作り（カボチャ苗）	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、畑の灌水を適宜行う
6	花壇・温室・畑の管理（除草）	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、庭園の除草を適宜行う
7	カボチャの定植(1) (畑整備・苗定植・追加播種)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、鳥害について調べておく
8	夏物花壇作り（花苗植え替え）、果樹の管理Ⅰ（サクランボ・イチジクのネット掛け）	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、雑草の名前を復習しておく
9	庭園整備（計画と生き物の観察） 庭園・畑の管理（除草等）	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、ピオトープを学習しておく
10	カボチャの定植(2)・栽培管理 (交配・弦の整理・追加定植)	手製資料 線量計	新聞などで放射線モニタリング結果を調べておく
11	収穫物の利用(1) 梅干し (収穫・放射性物質調査)	手製資料 要エプロン	事前学修として、ウメボシの作り方を学んでおく
12	庭園整備（石や水を使う） 畑の管理（除草等）	手製資料 作業のため要長靴	事後学修として、ホタルやトンボの生態を学習しておく
13	ジャガイモの収穫 (畑の整理)	手製資料 作業のため要長靴	事前学修として、ナス科野菜を調べておく
14	収穫物の利用(2) — 収穫野菜でカレー作り —	手製資料 要エプロン	事前学修として、カレーの調理法を理解しておく
15	冬野菜用の畑作り (シノブフユナ播種)	手製資料 作業のため要長靴	事前学修として、冬野菜の種類を調べておく
16	野菜畑の管理と整備 (冬野菜の植え付け作業)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修として、秋の雑草を調べておく
17	庭園整備・花苗の移動（保育で利用する庭整備）	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修として、秋の雑草を調べておく
18	ミニ七草園（プランター）	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修として、七草を調べておく
19	冬用花壇・野菜畑整備 (球根植え付け)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修として、秋・冬の花を調べておく
20	ハロウィンのランタン作り	手製資料 要エプロン	事前学修として、ランタンの作り方を調べておく
21	ハロウィンのランタン片付け 芋ほり	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学習としてコンポストを調べておく
22	庭園冬支度・花壇苗・球根定植 (苗の温室移動)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修として、多年生花壇苗を調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	冬野菜の収穫と利用 (漬物作り)	手製資料、要エプロン	事前学習として、漬物の漬け方を調べておく
24	収穫物の活用 — 焼いも —	手製資料・服の臭い対策・ 要エプロン	事前学修として、イモ利用法を調べておく
25	クリスマスツリー飾り付け・リース作り	手製資料 要エプロン	事前学修として、リース作りを調べておく
26	だんご刺し (かざり団子作り)	手製資料、要エプロン	事前学修として、だんご刺しを調べておく
27	門松作り	手製資料 鋸で作業できる服装	門松とはどのようなものか、理解しておく
28	春の七草 (七草がゆ)	手製資料 要エプロン	事前学修として、春の七草を暗記しておく
29	郷土野菜利用（いかニンジン） シノブフユナの漬物仕上げ	手製資料 要エプロン	事前学修として、郷土料理を調べておく
30	節分への収穫物利用（恵方巻） 保育園芸計画 — レポート作成 —	各自の準備資料	事前学修として、保育での農作物・花利用の事例を調査しておく
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 収穫物加工・作品作り90点（10点×9回）。レポート10点。 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。 ※詳細については、初回授業時に説明する。</p>			
<p>【参考書】 書名：環境を生かした保育 著者名：青木久子 発行所：チャイルド沙 価格：1,500円（税別）×4巻</p>			
<p>【その他補足事項】 実質的にガーデニングや農作業と収穫物の加工（調理）をすることになるので、それらに興味のある学生の受講を勧める。また、畑や庭園での作業が多いため、受講者は作業着（ジャージ等）や長靴を準備しておくこと。本授業の特殊性から、履修者数を20名以内とする。</p>			

授業科目名	特別研究 (園行事DVD制作演習)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 すが た きよ まさ 菅 田 清 正		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では映像を活用して「ものづくり」をする際に、その制作意図をより効果的に表現するための「映像制作の基礎知識」を学ぶ。演習では学生自らが、企画から撮影・編集までをグループに分かれて行い、オリジナルのCMや園行事DVD等を制作し、体験を通して映像制作を理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
映像制作に必要な知識と技術を修得し、自ら創造する力を身につける。			目標	A・B
自分の考えや感動をわかりやすく表現する能力と感性を身につける。			目標	F
制作過程において相手の立場を理解し、尊重する協調性を身につける。			目標	G
構成台本や字幕テロップ等の作成において文書表現能力を身につける。			目標	D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標について (2) 評価方法・授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画 去年制作のDVD視聴 	指定したWebサイトを 確認する
2	第1章 映像制作のフォローチャート 企画から台本作成・撮影・編集・完成までの流れを把握する	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 	指定したWebサイトで 制作の流れを復習する
3	第2章 撮影の基礎 (1) 画面サイズとカメラワーク (2) イマジナリーライン	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 DVD視聴～映画「激突！」 (20分) 	指定したWebサイトで 授業内容を復習する
4	第3章 音声の基礎 (1) 音源の3要素 (2) マイクの種類と録音技法	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 録音機器の説明 	指定したWebサイトで 授業内容を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第4章 照明の基礎 (1) 照明の役割と設置位置 (2) 小テスト1 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 機器の説明 小テストの回答説明 	指定したWebサイトで授業内容を復習する
6	第5章 絵コンテとは (1) 要素と構成 (2) CM立案	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 班単位で企画案を作成 	次回までにCM案をまとめる
7	第6章 CM絵コンテ作成 (1) 役割分担の決定 (2) 絵コンテ作成	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 絵コンテの完成 	次回までに撮影用の小道具等を準備する
8	第7章 撮影1 (1) ビデオカメラの操作説明 (2) 撮影開始	<ul style="list-style-type: none"> 絵コンテをもとに現場で撮影開始 	撮影上不都合が発生したら次回までに修正する
9	第7章 撮影2 (予備日) 前回に続き撮影	今回で撮影を終了する	撮影が終了しない場合は継続する
10	第8章 編集の基礎 (1) 編集とは何か (2) モンタージュ理論	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 DVD視聴～「クレシヨフ効果」(20分) 	指定したWebサイトで授業内容を復習する
11	第9章 編集1 映像編集 (1) 素材の取り込み (2) 編集開始	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 編集ソフトの説明 	次回までにBGMを選曲しておく
12	第9章 編集2 音声編集 BGMやSE等の音付け	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 音声編集を完成させる 	次回までに発表内容をまとめる
13	第10章 試写と講評 (1) 班ごとに作品発表 (2) 講評	<ul style="list-style-type: none"> 作品の制作意図を班ごとに発表する DVDの視聴と講評 	各自制作意図の反省点をまとめる
14	第11章 これだけは知っておきたい著作権 (1) 著作権とは何か (2) 小テスト2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 小テストの回答説明 	Webサイトで著作権を更に復習する
15	第12章 前期まとめ (1) これまでの復習 (2) 前期まとめレポート提出 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 授業内でレポート提出 	前期の授業内容を復習する
16	第13章 専門用語の理解 (1) テレビ用語 (2) 舞台用語	<ul style="list-style-type: none"> 前回のレポート返却と前期の振り返り 資料配付 	配付資料を復習する
17	第14章 園行事の撮影法 (1) 運動会の撮影法 (2) 舞台発表の撮影法	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 DVD視聴～前年度の園行事 (15分×2本) 	撮影法のポイントを復習する
18	第15章 インサートカットとは (1) 撮影の留意点 (2) 編集に困った時の対処法	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 	指定したWebサイトで授業内容を復習する
19	第16章 マルチカメラの撮影 (1) 1台及び複数カメラ撮影法 (2) 小テスト3 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 授業内で小テスト回答説明 	指定したWebサイトで授業内容を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	第17章 映画に見る映像表現 ・映画視聴から映像表現を考える	・映像視聴～「ハリウッド白熱教室」から（20分）	他の映画を見て授業内容を確認する
21	第18章 園行事撮影の準備 (1) 去年の園行事DVD視聴 (2) 撮影機材の説明と準備	・資料配付 ・DVD視聴～「ふれあい参観」(20分)	次回までに撮影構成を考えておく
22	第19章 現場訪問授業 ・認定こども園のふれあい参観（りんご狩り） ・撮影日～11月11日(土)予定（変更あり）	・撮影～認定こども園にて、りんご狩り・芋煮会等を撮影する	次回までに各自、編集構成を考えておく
23	第20章 編集1～映像編集 (1) 素材の取り込み (2) 編集開始	・班ごとにPCで編集開始	次回までにBGMを選曲しておく
24	第20章 編集2～音声編集 (1) BGMやSEの音付け編集 (2) ナレーション原稿作成	・班ごとにPCで編集開始	次回までにナレーション原稿を考えておく
25	第20章 編集3 (1) MA（マルチオーディオ）作業（整音） (2) 字幕テロップ作成	・映像、音声編集の完成	次回の発表内容をまとめておく
26	第20章 編集予備日 & 試写・講評 (1) 班ごとに作品を発表する (2) 講評	・構成台本通りか内容をレビューして再度確認し修正する	各自制作意図の反省点をまとめる
27	第21章 テレビ放送の仕組み (1) 放送の仕組み (2) テレビ現場の映像制作	・資料配付	各自、テレビ局のHPを確認する
28	第22章 現場で役立つトラブル対処法 (1) 映像現場 (2) 音声現場	・資料配付 ・機器の説明	対処法をまとめて、復習する
29	第23章 映像で「伝える」とは何か (1) 感性を育む (2) 後期まとめレポート2提出（20分）	・資料配付 ・まとめレポートを時間内で提出	これまでの配付授業資料を復習する
30	第24章 後期まとめ (1) これまでの振り返り (2) 制作作品の視聴	・資料配付 ・制作したDVD視聴	配付資料を一冊にまとめて保存する

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 前期末、後期末の試験は行わない。
2. 成績評価は100点満点とし、作品完成度50点、小テスト3回実施15点、レポート2回実施20点、授業の積極性15点で採点する。
3. 授業内容の理解度を確認するため小テストを3回実施し、授業内で答え合わせを行い確認する。

【その他補足事項】

1. 授業形態により履修学生は20名以下とする。
2. 現場訪問授業は園行事の都合に合わせて実施するため、通常授業日を土曜日に変更して実施することがある。
3. 授業で制作した作品を保存するDVDは各自が準備すること。

授業科目名	特別研究 (障害児生活支援演習)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 高橋 雄二 <small>たか はし ゆう じ</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、身体的に障害のある児童の日常生活を支援するための基本的な「食事・入浴・排泄」を中心とした生活支援に必要な知識と技術を修得していく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
介護の基本的な視点である、「安全・安心・自立」を中心とした支援の在り方を学ぶ。		目標	A・C
介護を必要とする児童の日常生活を支える介護技術を実践する能力を身につける。		目標	B・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法。授業の進め方と留意点 生活支援の基本理念 「介護」とは ボディメカニクス 感染予防 介護における専門用語	授業計画 資料1 DVD視聴 (10分) 「ボディメカニクスの応用、 感染予防」	
2	環境整備 ギャジベッドの使用方法 ベッドメイキング(1) 三角コーナーのベッドメイキング	資料2 DVD視聴 (10分) 「ベッドメイキング」	技術演習に必要な服装を準備しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ベッドメイキング(2) 四角コーナーのベッドメイキング 二人で行うベッドメイキング 一人で行うベッドメイキング	資料3	前回授業時配付資料を復習する
4	実技試験1「ベッドメイキング」 実技試験内容提示	実技試験問題1	前回授業時配付資料を復習する
5	実技試験1実施	個別に実技試験を実施する	実技試験の練習をする
6	移動介助(1) ベッド上の移動介助 体位変換・平行移動	資料4 DVD視聴（10分） 「体位と姿勢の変換の介助」	褥瘡について調べる
7	移動介助(2) 引き上げ 端座位	資料5	前回授業時配付資料を復習する
8	移乗の介助(1) ベッドから車いす リフターの操作	資料6	前回授業時配付資料を復習する
9	移乗の介助(2) 車いすの介助 車いすの名称・種類 車いす介助法	資料7 DVD視聴（10分） 「移動と移乗の介助」	前回授業時配付資料を復習する
10	移乗の介助(3) 車いす介助の実践 学内を車いすで巡回	グループワーク 「車いす利用者の生活環境 や安全な介助法について」	前回授業時配付資料を復習する
11	杖歩行の介助 杖の種類と使用対象者 杖使用者への介助	資料8	前回授業時配付資料を復習する
12	視覚障害者の移動介助 ガイドヘルプの方法	資料9	前回授業時配付資料を復習する
13	バイタルサイン測定 血圧測定 呼吸測定 体温測定 脈拍測定	資料10	前回授業時配付資料を復習する
14	廃用性症候群について 身体拘束	資料11	前回授業時配付資料を復習する
15	身じたくの介助(1) 衣服の着脱の介助 座位姿勢での介助	資料12 DVD視聴（10分） 「衣服の着脱の介助」	前回授業時配付資料を復習する
16	身じたくの介助(2) 衣服の着脱の介助 ベッド上での介助	資料13	前回授業時配付資料を復習する
17	実技試験2「ベッド上での着脱介助」 実技試験内容提示	実技試験問題2	前回授業時配付資料を復習する
18	実技試験2実施	個別に実技試験を実施する	実技試験の練習をする

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	入浴の介助(1) 入浴の効果 入浴介助の注意事項	資料14 DVD視聴（10分） 「入浴と清潔の保持」	入浴の効果について調べる
20	入浴の介助(2) 一般浴の介助 機械浴の介助	資料15	前回授業時配付資料を復習する
21	洗髪の介助 ベッド上での洗髪（ケリーパット）製作 ケリーパットを使用した洗髪の介助	資料16	前回授業時配付資料を復習する
22	清潔の介助 足浴の介助	資料18	前回授業時配付資料を復習する
23	食事の介助 食事介助時の留意点	資料19 DVD視聴（25分） 「こうすれば食べられる」	前回授業時配付資料を復習する
24	排泄の介助(1) ポータブルトイレの介助	資料20	排泄のメカニズムを調べる
25	排泄の介助(2) パット交換の介助	資料21	前回授業時配付資料を復習する
26	排泄の介助(3) おむつ交換（紙おむつ・布おむつ）	資料22	前回授業時配付資料を復習する
27	実技試験3「ポータブルトイレの介助」 実技試験内容提示	実技試験問題3	前回授業時配付資料を復習する
28	実技試験3実施	個別に実技試験を実施する	実技試験の練習をする
29	介護観の構築	グループワーク 「障害者の生活を支える支援の在り方について」	障害者の生活を支える支援の在り方についてレポートにまとめ
30	まとめ	振り返り資料	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 2. 実技試験 30点（10点）満点の介護技術試験を3回実施する。			
【その他補足事項】 教科書は使用しない。適宜資料を配付する。			

授業科目名	特別研究Ⅱ（保育者の表現遊び）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 （職名・氏名）	准教授 <small>ながくぼ かず こ</small> 長久保 和子	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では「製作・手遊び・踊り・歌」といった表現活動を体験し、教育・保育実習先でも実際に活用できる遊びを修得する。授業内容を「製作遊び、手遊び、身体表現遊び」の3分野に分け、保育技術が身につくよう学んでいく。 また、子どもと保育者役に分かれ、実際の保育現場で行うことを想定しながら、言葉かけなどを実演し、保育のあり方を学び考察する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）	
「作る（描く）・踊る（動く）・歌う」といった表現遊びの楽しさを味わう。		目標	A・B・E・F
表現遊びという実技を通して、保育への理解や関心を深める。		目標	A・B・G
簡単に役立つ表現遊びを習得し、実習にも生かせるようにする。		目標	B・G・J・K
グループで題材について話し合い、想像力や発想力、自主性を高める。		目標	E・F・G・L
読み聞かせの仕方や折り紙の折り方を知り、保育技術を身に付ける。		目標	A・B・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業内容の説明 ・指導計画とは（ねらい・導入・保育の流れ） ・環境構成とは（設定の仕方） 「桜」を描こう ・ちぎり絵の楽しさ ～絵本の読み聞かせ～	・授業計画 ・実践と講義 ・製作 ・絵本（紙芝居）	授業計画の確認 テーマとなる題材の情報や保育雑誌などに関心を持つ
2	「おむすびころりん」を描こう ・導入の役割 ・紙芝居の見せ方 ・わかりやすい伝え方（ネズミの描き方） ～絵本の読み聞かせ～	・実践と講義 ・製作 ・絵本（紙芝居）	授業の復習
3	「お弁当」を描こう ・教材の工夫 ・ひっかき絵 ・言葉かけの大切さ ～絵本の読み聞かせ～	・実践と講義 ・製作 ・絵本（紙芝居）	授業の復習
4	「花火」「魚」を描こう ・はじき絵の面白さ ・クレヨン、スポンジの使い方 ・壁面装飾へのつながり（作品の活用） ～絵本の読み聞かせ～	・実践と講義 ・製作 ・絵本（紙芝居）	レポートのまとめ 課題の情報（やってみよう平面技法など）を収集する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	まとめ ・絵の発達の道筋（1歳児～5歳児） ・なぐりがきの変化を描く ～作ってみよう～ 「ミニプラネタリウム」「ストロー飛行機」	・資料に基づいて説明 ・製作 ・絵本（紙芝居） ・レポート提出	次のテーマとなる題材の情報や保育雑誌などに関心を持つ
6	手を使って楽しもう(1) 「あなたのおなまえは」「はじまるよはじまるよ」他 ・保育の流れ（ねらいと導入） ・環境構成とは（設定の仕方） ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・手遊びをしながら歌う ・絵本（紙芝居） ・折り紙	授業の復習
7	手を使って楽しもう(2) 「むすんでひらいて」「あたまかたひざポン」他 ・低年齢児の遊び方 ・発達段階における遊び方 ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・手遊びをしながら歌う ・絵本（紙芝居） ・折り紙	授業の復習
8	手を使って楽しもう(3) 「鬼のパンツ」「くいしんぼうのゴリラ」 「うちゅうじん」他 ・歌詞の伝え方 ・発達段階における遊び方 ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・歌う ・絵本（紙芝居） ・折り紙	授業の復習
9	手を使って楽しもう(4) 「しあわせなら手をたたこう」「5つのメロンパン」 「魚がはねて」他 ・ゲーム、指の名前、動物の体遊び ・発達段階における遊び方 ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・手遊びをしながら歌う ・絵本（紙芝居） ・折り紙	レポートのまとめ 次回の授業で行う内容を 決め練習する
10	まとめ ～実演してみよう～ 履修者一人ずつ保育者役となり、自分の決めた内容を 他の履修者（子ども役）に伝える	・実技 ・絵本（紙芝居） ・折り紙 ・レポート提出	次のテーマとなる題材の情報や保育雑誌などに関心を持つ
11	体を使ってうたを歌おう(1) 「きらきら星」 ・幼児に対しての歌い方などのポイント ・メロディラインと歌詞の伝え方 ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・体で歌詞を表現しながら 歌う ・絵本（紙芝居）・折り紙	授業の復習
12	体を使ってうたを歌おう(2) 「チューリップ」「ちょうちょ」「かたつむり」 ・導入の仕方 ・発達段階に合わせた歌の内容 ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・体で歌詞を表現しながら 歌う ・グループワーク ・絵本（紙芝居）・折り紙	授業の復習
13	体を使ってうたを歌おう(3) 「どんぐりころころ」「おうま」「ぞうさん」 ・前回までのおさらい ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・体で歌詞を表現しながら 歌う ・グループワーク ・絵本（紙芝居）・折り紙	授業の復習
14	体を使ってうたを歌おう(4) 「手をたたきましょう」「むすんでひらいて」 ・前回までのおさらい ～折り紙を折ろう～	・実践と講義 ・グループワーク ・絵本（紙芝居）・折り紙	レポートのまとめ 次回の授業で行う内容を 決め練習する
15	まとめ ～実演してみよう～ グループごとに保育者役となり、自分たちで決めた内容を他の履修者（子ども役）に伝える	・実技 ・絵本（紙芝居） ・折り紙 ・レポート提出	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 授業に取り組む姿勢や意欲、参加態度、積極性……50% 2. 実技における完成度……30% 3. レポート内容（講義のテーマごとに考えた事や学んだ事についてまとめる）……20% ※詳細は初回授業にて説明する。			
【その他補足事項】 1. 授業の6回～10回は、動きやすい服装で出席すること。 2. 実技を伴うため履修者は15名までとする（履修者が多い場合は調整する）。 3. 授業内容および順序は進行状況により変更する場合がある。 4. 教室は音楽館第1音楽室とする。授業内容などによって、変更する場合がある。 5. 前もって指示があった場合は、下記の物を各自準備すること。 はさみ、カッターナイフ、ホチキス、セロハンテープ、定規、油性マーカー 等			

授業科目名	教育実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開講年次	1～2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	ながくぼ かずこ 長久保 和子	開講期	通年
	講師	ながしま てるこ 長島 輝子	授業回数	時間割外
	講師	なかの あきこ 中野 明子		
	講師	さくま ひろ 佐久間 正弘	期末試験の有無	無
講師	せきもと ひとし 関本 ひとし			
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	必修	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育実習は「基本実習（1週間）」「幼稚園実習（3週間）」およびその事前・事後指導からなる、長期にわたる学習である。すでに1年次において「基本実習」と事前指導の一部が実施されている。 2年次では「幼稚園実習」とそのための事前指導、すべての実習が終了した後に行う「実習反省会」などの事後指導を実施する。 ※教育実習（5単位）の内訳は、本学幼保連携型認定こども園「基本実習」（1単位）、「幼稚園実習」（3単位）、「教育実習事前・事後指導」（1単位）である。 （「教育実習事前・事後指導」（1単位）の授業計画は以下に示す）	【授業の概要と対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力		
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標と対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園教諭としての基礎的な幼児理解や専門技術を修得する。			目標	A・B・J
保育の方法を総合的に学び、望ましい幼稚園教諭としての資質・能力を養う。			目標	D・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習の概要説明(1) ・教育実習について① 〔1年次クラスセミナーで実施〕	講義 授業計画 学生便覧 プリント	復習：配付資料を熟読
2	実習の概要説明(2) ・基本実習について① ・教育実習について② 〔1年次クラスセミナーで実施〕	講義 基本実習の手引き プリント	復習：配付資料を熟読
3	実習の概要説明(3) ・基本実習について② 〔1年次クラスセミナーで実施〕	講義 基本実習の手引き プリント	復習：配付資料を熟読 実習希望調査記入

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「基本実習」事前指導(1) ・基本実習の諸注意 ・技術演習について ・技術演習指導演について など 〔1年次時間割外もしくは空き時間で実施〕	講義 基本実習の手引き プリント	復習：配付資料を熟読 技術演習教材と指導演の作成
5	「基本実習」事前指導(2) ・技術演習の実演（発表） 〔1年次時間割外もしくは空き時間で実施〕	演習 技術演習で使用する教材 技術演習指導演	技術演習の練習
6	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(1) ・次年度「教育実習計画」について ・実習先の選定・依頼について① 〔1年次クラスセミナーで実施〕	講義 プリント	次年度実習依頼先（幼稚園・幼保連携型認定こども園）を 考えておく
7	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(2) ・実習先の選定（調整）・依頼について② 〔1年次クラスセミナーで実施〕	講義 プリント（実習依頼資料）	復習：配付資料を熟読
8	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(3) ・幼稚園の役割と機能 〔1年次クラスセミナーで実施〕	講義 プリント	復習：配付資料を熟読
9	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(4) ・実習反省会への出席 〔1月中旬土曜日に実施〕	代表学生によるプレゼン テーション、ディスカッ ション	事前に「実習反省会要項」を 熟読しておく
10	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(5) ・教育実習の意義・目的① ・実習先確認 ・実習先との打合せ 〔2年次実習オリエンテーションで実施〕	講義 プリント	復習：配付資料を熟読
11	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(6) ・教育実習の意義・目的② ・実習関係書類の作成 ・守秘義務について ・実習保障制度について 〔2年次実習オリエンテーションで実施〕	講義 プリント	復習：配付資料を熟読
12	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(7) ・実習日誌作成について① ・記録の目的・方法 〔2年次実習オリエンテーションで実施〕	講義 基本実習の日誌 プリント	復習：配付資料を熟読
13	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(8) ・授業の概要、内容、評価方法について ・教育実習の意義・目的③ ・幼稚園教諭免許状について ・幼稚園の概要 〔2年次時間割内で実施〕	講義 授業計画 実習日誌 プリント	復習：配付資料を熟読
14	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(9) ・実習生としての心得 ・実習関係書類の作成② 〔2年次時間割内で実施〕	講義 プリント 資料配付	復習：配付資料を熟読 実習関連書類の作成他

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(10) ・実習先とのオリエンテーションについて ・実習の実際について ・子ども理解について [2年次時間割内で実施]	講義 質疑応答 プリント	復習：配付資料を熟読
16	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(11) ・実習日誌作成について② [2年次時間割内で実施]	講義 質疑応答 プリント	復習：配付資料を熟読
17	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(12) ・指導案とは何か ・指導計画の立て方 （立案の過程・部分実習・半日実習・全日実習） ・実習報告書について [2年次時間割内で実施]	講義 プリント	予習：部分案作成
18	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(13) ・教材研究 ＊手遊び、歌遊び、パネルシアター、絵本、 手作り人形他 ＊ゲームや鬼ごっこ、踊りや体操、製作遊び他 [2年次時間割内で実施]	講義 演習 プリント 折り紙他	予習：部分案作成
19	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(14) ・特別講義 （教育実習の実際、実習生の具体的実習方法他） [2年次時間割内で実施]	ゲストスピーカーによる 特別講義 （幼稚園長または主任教諭）	予習：実習に向け準備計画を立てる 実習の準備（教材作成など）
20	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導 ・実習反省会への出席 [1月中旬土曜日に実施]	代表学生によるプレゼンテーション、ディスカッション	事前に「実習反省会要項」を熟読しておく
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・実習事前・事後指導時の受講態度、実習報告書の提出内容、実習先からの評価点による。 ※詳細については、第1回および第13回の授業時に説明する。			
【教科書】 ・平成29年度福島学院大学認定こども園基本実習の手引き ※その他必要に応じて、毎回プリントを配付する。			
【その他補足事項】 1. 実習費（実習先への委託費）を実費徴収する。 (1) 基本実習・委託費 3,000円 (2) 教育実習・委託費 11,000円 2. 教育実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 教育実習を行うにあたり、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先に持参すること。 4. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先からの評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったとき、単位を認定しない場合がある。			

授業科目名	保育実習指導		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1～2年次 — 1年次 —
担当教員 (職名・氏名)	講師	すずきともこ 鈴木智子	開講期	通年
	講師	なかのあきこ 中野明子	授業回数	5回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導は、2年次に行われる保育所での実習「保育所実習」と保育所以外の児童福祉施設での実習「施設実習」に向けた事前・事後指導で構成される。 1年次の児童福祉施設見学実習から開始し、2年次の実習反省会にまでわたる長期の学習である。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育実習の意義・目的を理解する。			目標	A
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。			目標	A・B・D・K
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。			目標	A・B・D
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			目標	A・B・D・K
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	児童福祉施設見学実習(1)	児童福祉施設①（児童養護施設）の見学 * 9月もしくは10月に実施	見学先の施設の事前学習 見学実習報告書提出
2	児童福祉施設見学実習(2)	児童福祉施設②（障害系施設） もしくは、児童福祉施設③（保育所）の見学 * 9月もしくは10月に実施	
3	「保育実習」の目的と意義(1) ・保育者に求められる人間性と専門職 ・実習の内容と評価 ・児童福祉施設見学実習報告書をもとにディスカッション	配付資料	資料の熟読 提出物の記入 実習の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、 使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
4	「保育実習」の目的と意義(2) ・ 保育所や施設の役割と機能	配付資料	資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
5	実習反省会への出席 実習生の発表を聞き、次年度の実習 への意欲を高める	実習反省会 * 平成30年1月13日(土)実施予定	実習反省会要項の熟読
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 単位の認定は、2年次の「保育実習指導」授業終了後に行う。 2. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。 3. 下記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従ってGPAには反映しない。 報告書① 1年次（2種）：児童福祉施設見学実習終了後 報告書② 2年次（2回）：児童福祉施設実習終了後、保育所実習終了後			
【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> 書名：「福島県保育実習施設」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 ※教科書は1年次に配付する。（代金は大学で補助）その他の資料はその都度配付する。 書名：平成20年告示保育所保育指針 発行所：フレーベル館 価格：120円（税別） 書名：平成20年告示幼稚園教育要領 発行所：フレーベル館 価格：100円（税別） 書名：平成20年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領 発行所：フレーベル館 価格：150円（税別） 書名：平成20年告示保育所保育指針解説書 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別） 書名：平成20年告示幼稚園教育要領解説書 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別） 書名：平成20年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 発行所：フレーベル館 価格：249円（税別） 書名：平成30年告示保育所保育指針 発行所：フレーベル館 価格：120円（税別） 書名：平成30年告示幼稚園教育要領 発行所：フレーベル館 価格：100円（税別） 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領 発行所：フレーベル館 価格：150円（別税） 書名：平成30年告示保育所保育指針解説書 発行所：フレーベル館 価格：未定（秋頃出版予定） 書名：平成30年告示幼稚園教育要領解説書 発行所：フレーベル館 価格：未定（秋頃出版予定） 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 発行所：フレーベル館 価格：未定（秋頃出版予定） ※2～13の教科書は、他の授業科目でも使用する。それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。なお、平成30年告示版は平成30年4月より施行となる。			
【その他補足事項】 1. 実習費（実費徴収）1年次の児童福祉施設見学実習先への委託費として3,000円程度を徴収する。 2. 2年次で予定している保育所実習先（保育所、もしくは認定こども園）でのボランティア活動を学生休業期間等の時間を利用して実施すること。*ボランティア活動の詳細は、後日説明する。			

授業科目名	保育実習指導		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1～2年次 — 2年次 —
担当教員 (職名・氏名)	講師 鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	10回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導は、2年次に行われる保育所での「保育所実習」と保育所以外の児童福祉施設での「施設実習」に向けた事前・事後指導で構成される。 1年次の児童福祉施設見学実習から開始し、2年次1月の実習反省会にまでわたる長期の学習である。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育実習の意義・目的を理解する。			目標	A
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。			目標	A・B・D・K
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。			目標	A・B
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			目標	A・B・D・K
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 施設実習事前指導(1) 目的と意義、実習先配当、実習の実際	授業計画	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
2	施設実習事前指導(2) 概要、準備、心得、日誌の記入の仕方	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	施設実習事前指導(3) 施設実習の実際（事例研究）、指導計画、誓約書、腸内感染症検査、保険、準備物	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読、実習の準備
4	施設実習事前指導(4) 特別講義（事例研究） 各施設の特徴、利用児（者）の実態や援助、処遇の仕方	ゲストスピーカーによる特別講義（児童養護施設・障害系施設の施設長）	教科書、資料の熟読、実習の準備
5	施設実習事後指導 実習報告（ディスカッション） 礼状と報告書	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読、実習の準備
6	保育所実習事前指導(1) 目的と意義、概要、準備、心得	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読、提出物の記入、実習の準備
7	保育所実習事前指導(2) オリエンテーションの受け方 指導計画案の作成	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読、提出物の記入、実習の準備
8	保育所実習事前指導(3) 日誌の記入の仕方 保育計画①	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読、実習の準備
9	保育所実習事前指導(4) 日誌の記入の仕方 保育計画②	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読、実習の準備
10	実習反省会 代表者の発表を聞き、自己の実習を考察する	実習反省会 平成30年1月13日(土)予定	「平成29年度実習反省会要項」を熟読
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。 下記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従ってGPAには反映しない。 報告書①（1年次）2種：児童福祉施設見学実習終了後 ※1年次に提出済み。 報告書②（2年次）2回：児童福祉施設実習終了後、保育所実習終了後</p>			
<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 書名：「保育実習の手引き」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 書名：「福島県保育実習施設」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 <p>※教科書は、1年次クラスセミナー時に配付済み。（代金は大学で補助） その他の資料はその都度、配付する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 書名：平成30年告示保育所保育指針 発行所：フレーベル館 価格：120円（税別） 書名：平成30年告示幼稚園教育要領 発行所：フレーベル館 価格：100円（税別） 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領 発行所：フレーベル館 価格：150円（別税） 書名：平成30年告示保育所保育指針解説書 発行所：フレーベル館 価格：未定（秋頃出版予定） 書名：平成30年告示幼稚園教育要領解説書 発行所：フレーベル館 価格：未定（秋頃出版予定） 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 発行所：フレーベル館 価格：未定（秋頃出版予定） <p>* 3～8の教科書は、他の授業科目でも使用する。それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。</p>			

授業科目名	保育実習指導		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 <small>なかのあきこ</small> 中野明子	開講期	通年	
		授業回数	13回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導は、2年次に行われる保育所での「保育所実習」と保育所以外の児童福祉施設での「施設実習」に向けた事前・事後指導で構成される。 1年次の児童福祉施設見学実習から開始し、2年次1月の実習反省会にまでわたる長期の学習である。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育実習の意義・目的を理解する。			目標	A
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。			目標	A・B・D・K
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。			目標	A・B
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			目標	A・B・D・K
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「保育実習」の目的と意義(1) ・保育者に求められる人間性と専門職 ・実習の内容と評価認定 ・児童福祉施設見学実習報告書をもとにディスカッション	授業計画 配付資料	資料の熟読 実習の準備
2	「保育実習」の目的と意義(2) ・保育所や施設の役割と機能	配付資料	資料の熟読、 実習の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	保育所実習事前指導(1) 保育所実習の目的と意義 事前準備、実習の心得	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
4	保育所実習事前指導(2) オリエンテーションの受け方 指導計画案の作成	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
5	保育所実習事前指導(3) 日誌の記入の仕方 保育計画演習①	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
6	保育所実習事前指導(4) 指導案の書き方 保育計画演習②	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 実習の準備
7	保育所実習事前指導(5) 事例研究 保育所実習の実際 まとめ	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 実習の準備
8	施設実習事前指導(1) 目的と意義、実習先配当確認、実習の実際	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
9	施設実習事前指導(2) 概要、準備、心得、日誌の記入の仕方	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 実習の準備
10	施設実習事前指導(3) 施設実習の実際（事例研究）、指導計画、誓約書、腸内 感染症検査、保険、準備物	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
11	施設実習事前指導(4) 各施設の特徴、利用者の実態や援助、処遇の仕方	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 実習の準備
12	施設実習事前指導(5) 事例研究 施設実習の実際 まとめ	教科書、配付資料	教科書、資料の熟読 実習の準備
13	実習反省会 実習生の発表を聞き、自己の実習を考察する	実習反省会 平成30年1月13日(土)予定	配付した保育科実習反省 会要項を熟読
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。</p> <p>下記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従ってGPAには反映しない。</p> <p>報告書①（1年次）2種：児童福祉施設見学実習終了後 ※1年次に提出済み。</p> <p>報告書②（2年次）2回：児童福祉施設実習終了後、保育所実習終了後</p>			

【教科書】

1. 書名：保育実習の手引き
発行所：福島県保育者養成校連絡会編
 2. 書名：福島県保育実習施設
発行所：福島県保育者養成校連絡会編
 - * 2. の教科書は1年次に配付済。その他の資料は授業時に配付する。
 3. 書名：平成30年告示保育所保育指針
発行所：フレーベル館
価格：120円（税別）
 4. 書名：平成30年告示幼稚園教育要領
発行所：フレーベル館
価格：100円（税別）
 5. 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領
発行所：フレーベル館
価格：150円（別税）
 6. 書名：平成30年告示保育所保育指針解説書
発行所：フレーベル館
価格：未定（秋頃出版予定）
 7. 書名：平成30年告示幼稚園教育要領解説書
発行所：フレーベル館
価格：未定（秋頃出版予定）
 8. 書名：平成30年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
発行所：フレーベル館
価格：未定（秋頃出版予定）
- * 3～8の教科書は、他の授業科目でも使用する。それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。平成30年告示版は平成30年4月より施行となる。
なお、1年次に購入したものは、平成20年告示版である。平成20年告示版についても、それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。

【その他補足事項】

1. 1～2回の2コマ分の授業は、1年次「保育実習指導」の未実施分である。未実施分の2コマを2年次で実施する。
2. 3回～13回の授業は2年次で実施する授業内容である。（11コマ分）

授業科目名	保育実習		授業形態・単位数	実習・4単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	すずきともこ 鈴木智子	開講期	通年
	講師	なかのあきこ 中野明子	授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習は、保育所以外の児童福祉施設での実習「施設実習」をおおむね10日間、保育所での実習「保育実習」をおおむね10日間行う。 児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
実習を通して保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。	目標	A・B		
観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。	目標	A・B・K		
既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	目標	H・K		
保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解し実践する。	目標	A・B・D・K		
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	目標	A・B		

【実習期間】 保育所実習（2年次）：7月下旬～8月（おおむね10日間） 施設実習（2年次）：5月～6月、もしくは10月中旬～11月（おおむね10日間）
【到達度の評価（評価方法・基準）】 実習先からの評価点による。
【実習費（実費徴収）】 1. 児童福祉施設実習委託費 8,000円 2. 保育所実習委託費 8,000円 3. 腸内感染症検査料（2回分） 5,100円程度
【その他補足事項】 1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導」授業の出席が、5分の4以上であること。 ・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。 ※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹（はしか）・風しんの抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 4. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 鈴木智子		開講期	前期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 乳幼児の発達に応じたかかわり方についてのさらなる理解を深める。 さまざまな演習を通して実習に対しての実践力を高め、保育士の役割や専門性を再確認するとともに、グループワークや保育計画の検討等を通して、保育士になるためにそれぞれが取り組まなくてはならない課題を認識し、より良い支援のあり方について理解を深めていく。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。		目標	A・B・D・K・L
実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。		目標	A・B・D・K・L
保育の観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。		目標	A・B・D
保育士の専門性と職業倫理について理解する。		目標	A・B
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 保育実習Ⅱにおける総合的な学びとは何か、考察を深める (1) 子どもの最善の利益を生かした保育について (2) 保育所の生活の流れや展開について確認する	授業計画 保育実習の手引き	教科書の熟読 実習の準備、確認 子どもに関する報道や情報に関心を持ち考察する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	事例研究 子どもの保育と保護者支援 保育士の専門性と職業倫理の理解 保育の観察、記録、自己評価を次へ生かすための考察	配付資料 実習反省会要項 グループワーク	教科書の熟読 実習の準備、確認
3	保育方法について(1) 子どもへの具体的ななかかわりについて理解を深める	実習反省会要項 グループワーク	教科書の熟読 実習の準備、確認
4	保育方法について(2) 保育の導入、展開の仕方について理解を深める	配付資料	教科書の熟読 実習の準備、確認
5	指導計画について(1) 指導計画と実践についての理解	グループワーク	実習で行う活動内容を考える
6	指導計画について(2) 作成した保育計画に基づく保育実践と評価	配付資料	指導計画の完成
7	特別講義（事例研究） 保育所実習の実際、実習生に望むこと	ゲストスピーカーによる 講義 (保育所長または主任)	特別講義のまとめ
8	保育実習Ⅱへ向けて（確認とまとめ）	保育実習の手引き 実習反省会要項 配付済資料の確認	実習の準備、確認 保育実習Ⅱ終了後「実習 報告書」の提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。 2. 「保育実習Ⅱ」終了後、実習報告書を提出する。 3. 上記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従ってGPAには反映しない。 ※詳細は授業時に示す。			
【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> 書名：「保育実習の手引き」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 書名：「平成28年度実習反省会要項」（1年次に配付済み） 20年告示版の保育所保育指針・解説書の2冊は授業で使用。 (使用時には事前に指示をするので持参すること) 			

授 業 科 目 名	保 育 実 習 Ⅱ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員 (職 名 ・ 氏 名)	講 師	す ず ぎ とも こ 鈴 木 智 子	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	時 間 割 外
			期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		—
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
幼 稚 園 教 諭 二 種 免 許 状		〃	選 択	
保 育 士 資 格		〃	選 択 必 修	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー は、初 回 授 業 時 に 説 明 す る。		

【 授 業 の 概 要 】 「保育実習（保育所実習）」の積み上げとして、保育所における実習を部分実習、指導実習を主にを行い、保育内容の技術的修得、保育計画・指導計画等の理解と立案を実践する。保育士としての態度と技術の習熟、乳幼児の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	【 授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目 】			
	○	A	知 識	
	○	B	技 術 ・ 技 能	
		C	論 理 的 思 考 力	
	○	D	文 章 表 現 力	
		E	表 情 及 び 身 体 表 現 力	
		F	感 性 及 び 感 動 表 現 力	
		G	協 働 能 力	
	○	H	ま ご こ ろ、思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力	
		I	積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力	
		J	多 様 性 へ の 理 解 力、応 用 力	
	○	K	課 題 対 処 力	
		L	人 間 関 係、対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力	

【 授 業 の 到 達 目 標 】	【 授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 】 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
実習を通して保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。	目 標	A ・ B
子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	目 標	A ・ B
既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。	目 標	K
保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め実践する。	目 標	A ・ B ・ D ・ K
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目 標	A ・ B
実習を通して保育士としての自己の課題を明確化する。	目 標	A ・ B ・ H

【 実 習 期 間 】 8 月 中 旬 ～ 下 旬 (概 ね 10 日 間)
【 到 達 度 の 評 価 (評 価 方 法 ・ 基 準) 】 実 習 先 か ら の 評 価 点 に よ る。
【 実 習 費 (実 費 徴 収) 】 1. 保 育 実 習 Ⅱ 委 託 費 8,000 円 2. 腸 内 感 染 症 検 査 料 2,500 円 程 度
【 そ の 他 補 足 事 項 】 1. 実 習 の 履 修 制 限 ・ 再 実 習 等 に つ い て は、福 島 学 院 大 学 短 期 大 学 部 履 修 規 程 を 参 照 の こ と。 2. 履 修 に あ た っ て は、次 の 事 項 を 満 た し て い る こ と が 前 提 と な る。 ・ 「保 育 実 習 指 導 Ⅱ」授 業 の 出 席 が、5 分 の 4 以 上 で あ る こ と。 ・ 「保 育 実 習」保 育 所 実 習 と 児 童 福 祉 施 設 実 習 に 合 格 し て い る こ と。 ※ 詳 細 は 福 島 学 院 大 学 短 期 大 学 部 履 修 規 程 を 参 照 の こ と。 3. 学 外 実 習 を 行 う に あ た り、腸 内 感 染 症 検 査 証 明 書、麻 疹 の 抗 体 を 有 す る 証 明 書 (コ ピ ー) を 実 習 先 へ 持 参 す る こ と。 4. 食 物 ア レ ル ギ ー の あ る 学 生 は、実 習 先 へ 必 ず 申 し 出 る こ と。ま た、実 習 先 か ら 指 示 さ れ た 際 は、食 物 ア レ ル ギ ー に 関 す る 診 断 書 を 提 出 す る こ と。 5. 実 習 先 の 評 価 に 関 し、学 生 も し く は 家 族 等 が 直 接 実 習 先 に 照 会 を 行 っ た と き は、単 位 を 認 定 し な い 場 合 が あ る。

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師	こん きよ たか 今 清 孝	開講期	通年
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導Ⅲは、「保育実習（児童福祉施設実習）」の積み上げとして実施される「保育実習Ⅲ」に向けた事前・事後指導で構成される。	【授業の概要と対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		○	K	課題対処力
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標と対応項目】 (受講して得られる力)	
児童福祉施設の役割と機能を理解し、既習の実習や教科内容との関連性を踏まえ、総合的な保育実践力を培う。			目標	A・B・D・K・L
利用者への態度と心構えを理解し、個人差や生活環境に伴うニーズを理解する。			目標	A・B・K・L
実習日誌、個別支援計画の作成および自己評価の仕方等を学ぶ。			目標	A・B・D
保育士の専門性および多職種連携と職業倫理について理解する。			目標	A・B
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 実習目標の確認	授業計画 教科書・プリント	教科書、資料熟読 提出物記入
2	記録の意義と自己評価のポイント	教科書・プリント グループディスカッション	教科書、資料熟読 事前リサーチ 提出物の記入

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
3	実習の実際(1) 養護の基本原理と援助技術	教科書・プリント	教科書、資料熟読
4	施設の特質と機能 養護の実際 実習での留意点	教科書・プリント	教科書、資料熟読
5	実習の実際(2) 日常生活支援と指導計画の実際	教科書・プリント	教科書、資料熟読
6	実習の実際(3) 保育士の職業倫理と役割認識 多職種連携によるケアワーク	教科書・プリント	教科書、資料熟読
7	実習における留意点の確認 実習準備確認	教科書・プリント	教科書、資料熟読
8	保育実習Ⅲ事後指導 実習報告 礼状・報告書	教科書・プリント	実習報告書等の再点検・整理 報告書提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。 2. 「保育実習Ⅲ」終了後、実習報告書を提出する。 3. 上記の内容により、単位認定、不認定を行う。評価点は記載しない。従ってGPAには反映しない。			
【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> 書名：「保育実習の手引き」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 書名：「福島県保育実習施設」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 ※教科書は1年次に配付済み			
【参考書】 書名：障害のある子の支援計画作成事例集 著者名：日本相談支援専門協会編集 発行所：中央法規 価格：2,600円（税別）			

授 業 科 目 名	保 育 実 習 Ⅲ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 習 ・ 2 単 位		
			開 講 年 次	2 年 次		
担 当 教 員 (職 名 ・ 氏 名)	兼 任 講 師	こ 今	き よ 清	た か 孝	開 講 期	通 年
					授 業 回 数	時 間 割 外
					期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		—		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分		必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別			
卒 業	専 門 教 育 科 目		選 択			
幼 稚 園 教 諭 二 種 免 許 状	〃		選 択			
保 育 士 資 格	〃		選 択 必 修			
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー は、初 回 授 業 時 に 説 明 す る。					

【授業の概要】 「保育実習（児童福祉施設実習）」の積み上げとして、児童家庭福祉施設における実習を部分実習、指導実習を主に行い、保育内容の技術の習熟、援助活動等の理解と立案を実践する。 保育士としての態度と技術の習熟、要援護者の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	目標	A・B・H
家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。	目標	A・B・H・K
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目標	A・B・H・K
保育士としての自己の課題を明確化する。	目標	A・B・D・H・K

【実習期間】 8月中旬～下旬、または10月中旬～12月。(概ね10日間)
【到達度の評価（評価方法・基準）】 実習先からの評価点による。
【実習費】 1. 保育実習Ⅲ委託費 8,000円 2. 腸内感染症検査料 2,500円程度
【その他補足事項】 1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導Ⅲ」授業の出席が、5分の4以上であること。 ・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。 ※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 4. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。